

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告第232集

耳取 I 遺跡 A 地区発掘調査報告書

東北横断道秋田線建設関連遺跡発掘調査

(財) 岩手県文化振興事業団
埋蔵文化財センター

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告第232集

耳取 I 遺跡 A 地区発掘調査報告書

東北横断道秋田線建設関連遺跡発掘調査

序

岩手県には縄文時代の遺跡をはじめとする数多くの埋蔵文化財包蔵地があり、平成6年3月現在8771ヵ所に及ぶ遺跡が確認されております。これら先人の残した文化遺産を保存し、後世に伝えて行くことは、県民に課せられた責務であります。

一方、広大な面積を有する本県の大部分は山地であり、地域開発にとりまなう社会資本の充実も重要な施策であります。

このような埋蔵文化財の保護・保存と開発との調和も、今日の課題であり、岩手県文化振興事業団は、埋蔵文化財センターの創立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によって止むを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、記録保存する措置をとってまいりました。

本書は東北横断自動車道秋田線に関連して、平成5年度と6年度に実施された湯田町耳取Ⅰ遺跡A地区の発掘調査結果をまとめたものであります。調査では旧石器時代の石器などが発見され、貴重な資料を提供することができました。

この報告書が広く活用され、斯学の研究のみならず、埋蔵文化財に対する理解の一助になれば幸いです。

最後になりましたが、これまでの発掘調査及び報告書作成にご援助・ご協力を賜りました日本道路公団仙台建設局北上工事事務所・湯田町教育委員会をはじめとする関係各位に衷心より謝意を表します。

平成8年3月

財団法人岩手県文化振興事業団
理事長 千葉 浩一

例 言

1. 本報告書は岩手県和賀郡湯田町第49地割2-22他に所在する耳取I遺跡A地区の発掘調査の結果を取録したものである。
2. 本遺跡の調査は岩手県教育委員会と日本道路公団仙台建設局との協議を経て、(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが担当した。
3. 岩手県遺跡台帳の遺跡番号及び遺跡略号は以下のとおりである。
耳取I遺跡 ME60-0053 MT I-93, MT I-94
4. 発掘調査期間、調査担当者、調査面積は以下のとおりである。
第1次調査 平成5年6月1日～10月28日 鈴木貞行・柳田磨 15000㎡
第3次調査 平成6年4月12日～8月20日 吉田充・羽柴直人・佐藤修一・後藤円・柳田磨 15625㎡
5. 室内整理期間及び整理担当者は以下のとおりである。
第1次調査 平成5年11月1日～平成6年3月31日 鈴木貞行・柳田磨
第3次調査 平成6年11月4日～平成7年3月15日 羽柴直人
6. 本報告書の執筆はI調査に至る経過を三浦謙一、II遺跡の立地と環境の1、2を佐瀬隆、VIまとめを菊池強一、他を羽柴直人が担当した。
7. 出土遺物の分析、鑑定は以下の方に依頼した。
石質鑑定 佐藤二郎 佐藤地質工学研究所
黒曜石の鑑定 薬科哲男 京都大学原子炉実験所
8. 本遺跡の調査で得られた一切の資料は岩手県埋蔵文化財センターが保管している。

目 次

序
例言

〔本 文〕

I 調査に至る経過	2	V 第3次調査	42
II 遺跡の立地と環境	2	1 旧石器時代の遺構と遺物	42
1 遺跡の位置と立地	2	(1) 1ブロックの石器	42
2 周辺の地形	2	(2) 2ブロックの石器	83
3 遺跡の基本層序	4	(3) ブロック外の石器	88
4 周辺の遺跡	4	2 縄文時代の遺構と遺物	96
III 調査・整理の方法	6	(1) 遺構とその出土遺物	96
1 野外調査	6	① 1号竪穴住居跡	96
2 室内整理	6	② 1号陥し穴状土坑	96
IV 第1次調査	11	(2) 遺構外出土遺物	100
1 旧石器時代の遺物	11	① 土器	100
2 縄文時代の遺構と遺物	32	② 石器	101
(1) 竪穴住居跡	32	3 弥生時代の遺物	101
(2) 遺構外出土遺物	32	① 土器	101
① 土器	32	② 石器	101
② 石器	32	VI まとめ	108
3 時期不詳の遺構	41	VII 自然科学分析	110
(1) 溝状遺構	41		

〈図 版 目 次〉

第1図 耳取1遺跡位置図	1	第9図 旧石器実測図(3)	18
第2図 平鹿盆地の東西両縁部を含む 東西断面図	3	第10図 旧石器実測図(4)	19
第3図 平鹿盆地付近の地質図	3	第11図 旧石器実測図(5)	20
第4図 基本層序	4	第12図 旧石器実測図(6)	21
第5図 遺構配置図・周辺の地形図 (第1次調査)	5	第13図 旧石器実測図(7)	22
第6図 第1次調査区旧石器出土状況	13	第14図 旧石器実測図(8)	23
第7図 旧石器実測図(1)	16	第15図 旧石器実測図(9)	24
第8図 旧石器実測図(2)	17	第16図 旧石器実測図(10)	25
		第17図 旧石器実測図(11)	26
		第18図 旧石器実測図(12)	27

第19図	旧石器実測図(13)	28	第52図	接合資料 5(2)	70
第20図	旧石器実測図(14)	29	第53図	接合資料 6(1)	71
第21図	旧石器実測図(15)	30	第54図	接合資料 6(2)	73
第22図	旧石器実測図(16)	31	第55図	接合資料 6(3)	74
第23図	1号住居跡	33	第56図	接合資料 6(4)	75
第24図	縄文時代の土器(1)	34	第57図	接合資料 7	76
第25図	縄文時代の土器(2)	35	第58図	接合資料 8	77
第26図	縄文時代の石器(1)	36	第59図	1ブロック出土石器(1)	79
第27図	縄文時代の石器(2)	37	第60図	1ブロック出土石器(2)	80
第28図	縄文時代の石器(3)	38	第61図	1ブロック出土石器(3)	81
第29図	縄文時代の石器(4)	39	第62図	1ブロック出土石器(4)	82
第30図	縄文時代の石器(5)	40	第63図	2ブロック出土石器(1)	84
第31図	1号溝	41	第64図	2ブロック出土石器(2)	85
	(第3次調査)		第65図	2ブロック出土石器(3)	86
第32図	第3次調査旧石器出土状況	43	第66図	2ブロック出土石器(4)	87
第33図	1ブロック遺物出土状況	45	第67図	ブロック外出土石器(1)	90
第34図	接合資料 1(1)	47	第68図	ブロック外出土石器(2)	91
第35図	接合資料 1(2)	49	第69図	ブロック外出土石器(3)	92
第36図	接合資料 1(3)	50	第70図	ブロック外出土石器(4)	93
第37図	接合資料 1(4)	51	第71図	ブロック外出土石器(5)	94
第38図	接合資料 1(5)	52	第72図	ブロック外出土石器(6)	95
第39図	接合資料 1(6)	53	第73図	1号住居跡	97
第40図	接合資料 1(7)	54	第74図	1号住居跡出土遺物(1)	98
第41図	接合資料 1(8)	55	第75図	1号住居跡出土遺物(2)	99
第42図	接合資料 2(1)	57	第76図	1号陥し穴状遺構	100
第43図	接合資料 2(2)	59	第77図	縄文時代の土器	100
第44図	接合資料 2(3)	60	第78図	縄文時代の石器(1)	102
第45図	接合資料 2(4)	61	第79図	縄文時代の石器(2)	103
第46図	接合資料 2(5)	62	第80図	縄文時代の石器(3)	104
第47図	接合資料 2(6)	63	第81図	縄文時代の石器(4)	105
第48図	接合資料 3(1)	64	第82図	縄文時代の石器(5)	106
第49図	接合資料 3(2)	65	第83図	弥生時代の土器、石器	107
第50図	接合資料 4	67	第84図	黒曜石原産地	111
第51図	接合資料 5(1)	69			

〈写真図版目次〉

(第1次調査)		写真図版25	接合資料1(5) ……139
写真図版1	調査区透景 ……115	写真図版26	接合資料2(1) ……140
写真図版2	旧石器出土状況 ……116	写真図版27	接合資料2(2) ……141
写真図版3	1号住居跡・1号溝 ……117	写真図版28	接合資料2(3) ……142
写真図版4	旧石器(1) ……118	写真図版29	接合資料2(4) ……143
写真図版5	旧石器(2) ……119	写真図版30	接合資料3 ……144
写真図版6	旧石器(3) ……120	写真図版31	接合資料4 ……145
写真図版7	旧石器(4) ……121	写真図版31	接合資料5 ……146
写真図版8	旧石器(5) ……122	写真図版33	接合資料6(1) ……147
写真図版9	縄文土器 ……123	写真図版34	接合資料6(2) ……148
写真図版10	縄文時代の石器(1) ……124	写真図版35	接合資料6(3)、 接合資料7 ……149
写真図版11	縄文時代の石器(2) ……125	写真図版36	接合資料8 ……150
写真図版12	縄文時代の石器(3) ……126	写真図版37	1ブロック出土石器(1) ……151
(第3次調査)		写真図版38	1ブロック出土石器(2) ……152
写真図版13	調査前・基本土層 ……127	写真図版39	2ブロック出土石器(1) ……153
写真図版14	調査区透景 ……128	写真図版40	2ブロック出土石器(2) ブロック外出土石器(1) ……154
写真図版15	旧石器出土状況(1) ……129	写真図版41	ブロック外出土石器(2) ……155
写真図版16	旧石器出土状況(2) ……130	写真図版42	ブロック外出土石器(3) ……156
写真図版17	旧石器出土区土層断面 1号住居跡(1) ……131	写真図版43	ブロック外出土石器(4) ……157
写真図版18	1号住居跡(2) ……132	写真図版44	1号住居跡出土遺物 遺構外出土縄文土器 ……158
写真図版19	1号住居跡(3) ……133	写真図版45	縄文時代の石器(1) ……159
写真図版20	1号陥し穴状土坑 ……134	写真図版46	縄文時代の石器(2) ……160
写真図版21	接合資料1(1) ……135	写真図版47	縄文時代の石器(3) ……161
写真図版22	接合資料1(2) ……136	写真図版48	弥生時代の土器・石器 ……162
写真図版23	接合資料1(3) ……137		
写真図版24	接合資料1(4) ……138		



第1圖 耳取遺跡位置圖

I 調査に至る経過

東北地方を縦に貫く大動脈「東北縦貫自動車道」に対し、これと交差し、あるいはこれを起点に横にのびる「東北横断自動車道」の一つである秋田自動車道は岩手県北上市で東北自動車より分岐し、秋田県横手市を経て同県秋田市に至る延長約123kmの高速道路である。昭和61年と同63年に施工命令が出された第9次・第10次区間のうち、北上ジャンクションから秋田県境までは33.9kmである。

この区間の埋蔵文化財包蔵地については、岩手県教育委員会が昭和56年から分布調査を行い、昭和62年4月13日付「仙建北工第35号」による依頼を受けて、同年5月25日付「教文第117号」により日本道路公団仙台北建設局に結果を回答している。それにもとづいて両者が協議を行い、やむを得ず消滅する遺跡については事前の発掘調査を実施することとし、財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターの受託事業とすることとした。

それを受け、昭和63年以降、岩手県教育委員会が日本道路公団仙台北建設局に発掘調査事業について照会して回答を得たのち、日本道路公団仙台北建設局と岩手県教育委員会・財団法人岩手県文化振興事業団の3者が協議を行い、当埋蔵文化財センターが発掘調査を実施してきた。

互取I遺跡の調査は、平成5年3月1日付「教文第1169号」による県教育委員会からの通知を受けて平成5年度埋蔵文化財調査事業として着手されることになった。しかし、調査対象面積34,300㎡のうち、用地取得が済んでいない部分があったため、平成5年度は当初面積を15,300㎡とし、残りは翌6年度に行うこととした。当埋蔵文化財センターは同年4月1日付委託契約を取り結んで同年6月1日から野外調査を開始したが、一部に防雪林があったために調査未了面積が生じ、15,000㎡を終了した。一方、工事との関連から別地点3,675㎡の調査が緊急に必要なため、同年9月27日から別な調査班を編成してそれに対処し、前者を第1次調査、後者を第2次調査として区別した。

平成6年度は、埋蔵文化財調査事業についての平成6年3月1日付「教文第1169号」による通知にもとづき、当埋蔵文化財センターは同年4月1日付委託契約を取り結んで同年4月12日から野外調査を開始し、第3次調査とした。調査対象面積は15,625㎡である。

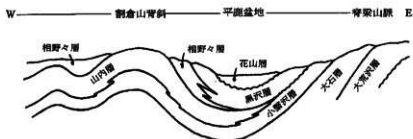
II 遺跡の立地と環境

1 遺跡の位置と立地

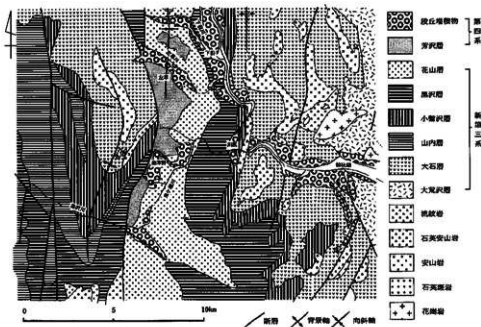
互取I遺跡は、岩手県和賀郡湯田町に所在し、東日本旅客鉄道北上線湯田錦秋湖駅の南約100m、湯田町役場の東南約6km、東流する和賀川上流を堰止めてつくられた錦秋湖を挟んだ国道107号の対岸約1kmに位置する。遺跡は、北流する南本内川が和賀川に合流する左岸の河岸段丘上に立地し、比高が約5～17m、標高が240～252mである。調査区の現況は、畑地、道路、山林である。地形図上では、国土地理院発行の5万分の1の地形図「川尻」N J 54-20-1（新庄1）の図幅に含まれ、北緯39度17分、東経140度56分付近に位置する。

遺跡の所在する湯田町は岩手県中央部の西端に位置し、東は北上市、西は秋田県雄勝郡東成瀬村、同県平鹿郡山内村、同県仙北郡六郷村、北は同県仙北郡千畑町、岩手県和賀郡沢内村、南は岩手県胆沢郡胆沢町と境を接する。同町は奥羽山脈の山間部に開けた沢内盆地の中央にあり、周囲を同山脈に囲まれている。主な山嶺は、北から女神山(956m)、割倉山(770m)、白木峠(601m)、三森山(1,102m)、蜂巣山(1,155m)、

三界山 (1,381m)、南本内岳 (1,486m)、焼石岳 (1,548m)、牛形岳 (1,389m)、鷲ヶ森山 (1,207m) 等である。町の総面積の82%が山林であり、11%が原野で占められている。和賀岳 (1,440m) に源を発した和賀川は湯田町中央部を南流したのち、川尻付近で直角状に折れて東流する。川尻を中心に、北に湯本、湯田、左草、下前、西に柳沢、新田郷、南に湯川、鷲之巣、大石、草井沢等の集落は、和賀川とその支流である数本の川が解折した段丘状に散在している。気候は日本海側式で、県内では最も雨量が多く、豪雪地帯として知られている。東日本旅客鉄道北上線が町の中央を横断し、湯田錦秋湖・ほっとゆだ・ゆだ高原の3駅がある。国道107号（通称平和街道）がこれとほぼ並走する。



第2図 平鹿盆地の東西両縁部を含む東西断面図(長谷地質調査事務所(1981)による)



第3図 平鹿盆地付近の地質図(長谷地質調査事務所(1981)による)

2 周辺の地形

奥羽脊梁山脈は、東北地方を450kmにおよび南北に連なる一大山脈である。それはユーラシアプレートと太平洋プレートの境界である日本海溝にほぼ並行しており、プレート押力の結果として生じた大きな背斜構造としてとらえられるが、細かくみればそれぞれ地形的山脈と対峙した雁行配列を示す小単位の背斜構造に分解される。たとえば、遺跡の立地する湯田町が含まれる地域は、南に向かって高度を下げる西側の和賀岳、

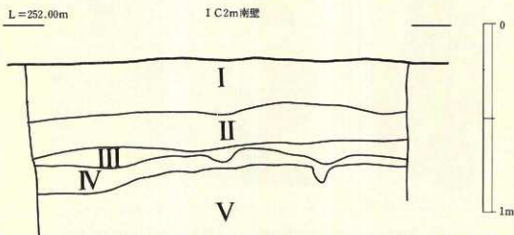
割倉山背斜から逆に高度を上げる荒沢森背斜へ脊梁山脈の移行部にあたる。両背斜間には花山向斜が存在し、平窪盆地と呼ばれる地形的凹地に対応する(第2図)。なお、このような構造の特徴は、当地域に奥羽脊梁山脈中最も低い分水界(285m)が存在することと無関係ではなからう。河川の流向も地質構造の支配を受けている。北上川の主要支流の一つである和賀川は、その下流部において上記移行部の相対的低地を東西方向に流れる。荒沢森背斜を横切る和賀仙人では先行谷性格の峡谷を形成している。一方、上流部では構造軸に並行に南流する。

湯田町付近の地質分布を示すと(第3図)、背斜部は主に第三系中新統下部、大荒沢層、大石層、小繫沢層などのグリーンタフ系の凝灰質岩により構成される。向斜部、平窪盆地には、前記のグリーンタフ系の凝灰質岩を基盤として、砂岩を主とする中新統上部の黒沢層、同じく砂岩を主とする中新統上部～鮮新統の花山層が堆積する。これらを不整合に被い未固結の砂礫、粘土を主とする亜炭化した泥炭層を伴う第四系の花山層が堆積する芳沢層は扇状地堆積物の層相を呈する。

3 遺跡の基本層序

耳取 I A 遺跡の基本層序は以下の通りである。

- | | | |
|------|------------------|--------------------------------|
| I層 | 黒色土 (10YR 2/1) | 草木根を多量に含みしまりが無い。下部では褐色がかってくる。 |
| II層 | 黒褐色土 (10YR 3/2) | 草木根を多量に含む。 |
| III層 | 灰黄褐色土 (10YR 4/2) | 粘性あり、ローム層、黒色土が斑状に少量混入。旧石器の出土層。 |
| IV層 | 明褐色土 (7.5YR 5/8) | 粘性あり、ローム層、しまり良い。 |
| V層 | 径3～10cmの礫層 | 層の色調は黄褐色 (10YR 5/6) |



第4図 基本層序

4 周辺の遺跡

岩手県遺跡登録台帳によれば、湯田町では55の遺跡が登録されている。これをまとめたのが下に示した表である。調査がおこなわれた遺跡については、本内 I 遺跡発掘調査報告書(岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第211集)などに詳しい。

周辺の遺跡一覧表

番号	遺跡名	種別	遺構/遺物	備考		
1	間木野	II 布地	旧石器			
2	芳が沢	一里塚	塚 1基			
3	大倉	I 散地	縄文(中期)土器、石斧、石匙、石鏃	昭和59年調査		
4	大倉	II 散地	縄文土器、石器	昭和59年調査		
5	柳沢	I 散地	縄文土器			
6	落着	合I 集落跡	縄文土器			
7	小栗沢	I 散地	縄文土器、石器			
8	小栗沢	II 集落跡	剣片、旧石器			
9	塚野	I 散地	土坑、縄文土器、石器	平成4年調査		
10	塚野	II 散地	土坑、簡し穴、縄文土器、石器	平成4年調査		
11	川尻	館跡				
12	川尻	集落跡	石鏃、石斧、縄文(前末~中初)土器、石鏃、石槍	損壊		
13	川尻	中校	散地	縄文(中期)土器、石斧、石匙、石鏃	損壊	
14	川尻	I 散地	布地	縄文土器、石器		
15	川尻	II 散地	布地	縄文土器片、石匙、剣片石器		
16	上野	館跡	古代?伝承地			
17	安取	館跡	布地	縄文土器、石器		
18	耳取	III 館跡	布地	古代?、伝承地		
19	八幡	館跡	布地	縄文(中期)土器、石匙、石鏃		
20	富ノ	散地	布地	縄文(後~中期)土器、石刀、剣片		
21	瀬戸	散地	布地	縄文(後~中期)土器、石刀、剣片		
22	合野	々々	散地	布地	縄文土器、石器	
23	大渡	II 散地	布地	旧石器、縄文土器、石器	平成3・4・5年調査	
24	大渡	III 散地	布地	旧石器、炭化物粒		
25	大渡	IV 集落跡	布地	縄文土器		
26	大渡	IV 集落跡	布地	縄文土器		
27	細内	I 散地	布地	化石		
28	細内	II キャンプ跡?	布地	旧石器		
29	白木野	I 散地	布地	剣片石器	平成4年調査	
30	白木野	II 散地	布地	近世民家、陶磁器	平成4年調査	
31	白木野	III 散地	布地	縄立柱建物跡、陶磁器	平成4年調査	
32	白木野	V 散地	布地	旧石器、石刀		
33	白木野	VI 散地	布地	旧石器、彫刻刀、石刀		
34	白木野	VII 散地	布地	旧石器、剣片、炭化物粒		
35	大台	野集落跡	布地	旧石器~弥生土器、石器	昭和45~57年調査	
36	大台	野II 散地	布地	縄文土器、石器		
37	越中	畑I 散地	布地	縄文土器		
38	越中	畑II 散地	布地	旧石器、剣片石器		
39	越中	畑III 散地	布地	縄文土器		
40	越中	畑IV 散地	布地	縄立柱建物跡、溝跡、陶磁器	平成4年調査	
41	越中	畑V 散地	布地	炭灰、土坑、溝跡、石器	平成3・4年調査	
42	越中	畑香所跡	布地			
43	野々	宿北	散地	布地	旧石器、剣片石器	
44	野々	宿I	集落跡	布地	縄文土器、石器	
45	野々	宿II	散地	布地	旧石器、剣片石器	
46	野々	宿III	キャンプ跡?	布地	旧石器、剣片石器	
47	黒郷	I 散地	布地	縄文土器、石器		
48	黒郷	II 散地	布地	旧石器、剣片石器		
49	中内	村I 散地	布地	旧石器、剣片石器		
50	耳取	I 散地	布地	旧石器、縄文土器	平成5・6年調査	
51	本内	I 散地	布地	縄文土器、石器、近世陶磁器	平成5年調査	
52	本内	II 集落跡	布地	縄文住居跡、早期~晩期土器、弥生土器	平成5・6年調査	
53	峠山	牧場	I 散地	布地	旧石器、縄文土器、土器器	平成5・6年調査
54	湯野	沢I 散地	布地	縄文土器、石器		
55	間木	野I 散地	布地	旧石器	昭和59年調査	

III 調査・整理の方法

1 野外調査

(1) 野外調査の概要

東北横断自動車道秋田線建設に関わる耳取 I 遺跡の発掘調査は 3 次におこなわれた。本報告書は 1 次調査と 3 次調査に関わるものである。1 次調査区と 3 次調査区は隣接しており両調査区を合わせて耳取 I 遺跡 A 地区と称する。2 次調査区は耳取 I 遺跡 B 地区と称する。

(2) グリッドの設定

1 次調査の際、グリッド設定のため平面直角座標 (第 X 系)、 $X = -78520\text{m}$ 、 $Y = 350\text{m}$ を基準点 1、 $X = -78560\text{m}$ 、 $Y = 350\text{m}$ を基準点 2 として、この 2 点を結んだ線を基準線とした。基準線は南北方向に走っている。そしてこの基準線に直行ないし平行する線で $100\text{m} \times 100\text{m}$ の大グリッドを設定した。グリッド名は東西方向をローマ数字で表し、南北方向をアルファベット大文字で表した。グリッド名は II B というように表している。また大グリッドを 25 等分して 4m 四方の小グリッドを設定した。グリッド名は東西方向を数字で表し、南北方向をアルファベット小文字で表した。東に進むにつれて数字が増え、北に進むにつれて a b c … となるようにした。小グリッドの名称は大グリッドの名称を冠して II B 3 a というように表す。基準点 1 の名称は II C 1 a、基準点 2 の名称は II B 1 p である。グリッドの南西隅の杭がそのグリッドの名称を表している。

3 次調査のグリッド設定、名称の基準は 1 次調査に従っている。

(3) 遺構の名称

遺構の名称は調査次第に検出順に種別毎に 1 号壑穴住居、1 号陥し穴状土坑というように名称を付した。また旧石器のまとまりはブロック 1 というように称した。

(4) 粗掘り・遺構検出・精査

各遺跡とも当初、幅 4m のトレンチを地形に応じて入れ遺跡の状況把握につとめ、遺構、遺物の検出された部分はさらに人力で粗掘りを行なった。検出された遺構はその大きさに応じて 2 分法、4 分法を用いて、土層観察用ベルトを残して埋土を除去した。

旧石器は第 III 層以下出土のものを旧石器時代の遺物として認識し、平面位置、標高、出土層位を記録して取り上げた。また黒色土である I、II 層中から出土したもので、形状から旧石器と判断できる石器は III 層中から出土したものと同じ手続きをおこなって取り上げた。

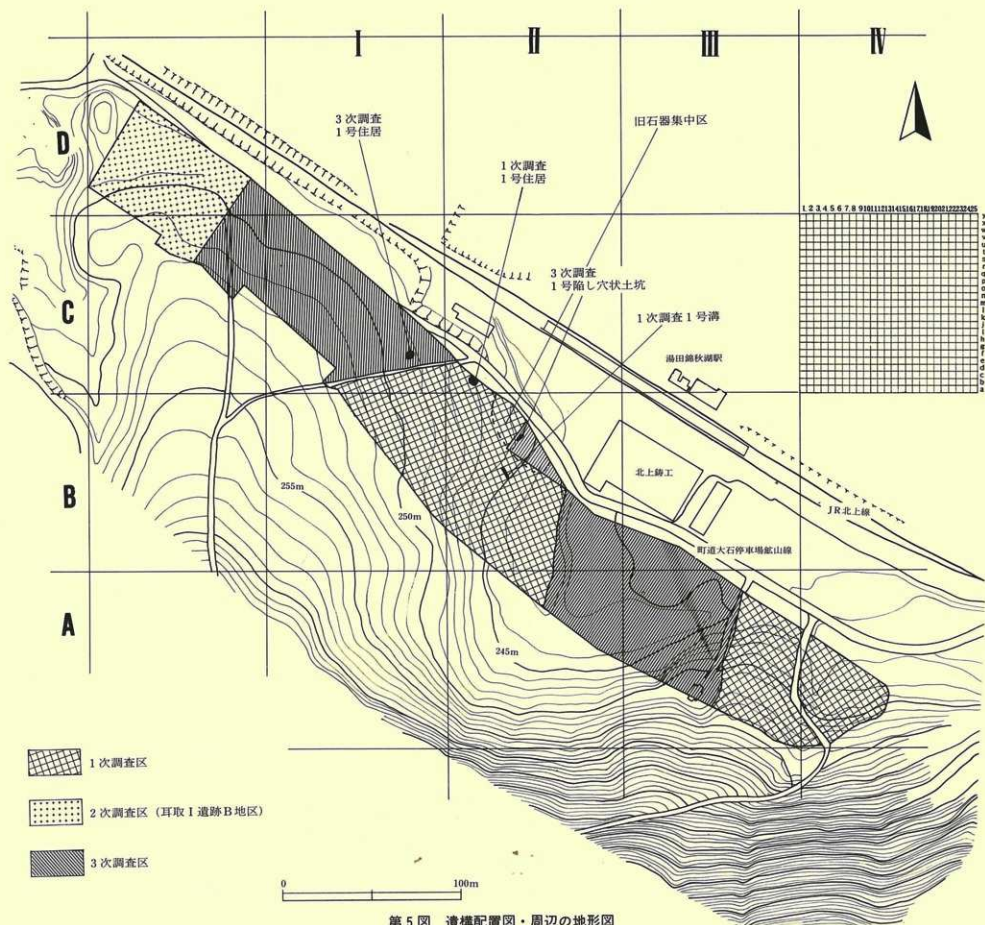
(5) 実測・写真撮影

平面実測はグリッド軸に合わせた 1m のメッシュを基本とした。原則として $1/20$ の縮尺を用い、必要に応じて任意の縮尺を用いた。写真撮影は 35mm モノクロールとカラーズライド各 1 台と $6 \times 7\text{cm}$ モノクロール 1 台を使用した。撮影は埋土堆積状態や遺物の出土状況、遺構の完備状況などについて行なった。

2 室内整理

出土遺物は水洗、注記を行い、必要なものは接合、復元作業を実施した。これらの作業終了後、報告書登録遺物を選びだし登録を行なった。遺物実測は原則として実寸で行った。野外調査で実測した実測図は必要なものについては第 2 原図を作成した。その後これらの遺物、遺構の実測図のトレースを行い、種別ごとに観察表と図版を作成した。撮影したフィルムはネガアルバムにベタ焼き写真と一緒にして収納した。カラー

スライドはスライドファイルに撮影順に収納した。また報告書掲載分の遺物の写真撮影を行い、写真図版を作成した。石器、石製品は石質鑑定を行なったこれらの作業の終了後、原稿の執筆を行い、報告書を編集した。



第5図 遺構配置図・周辺の地形図

IV 第 1 次 調 査

1 旧石器時代の遺物

第1次調査において旧石器はII B 6 u~x、II B 7 u~w、II B 8 u~x、II B 9 t~x、II B 10 t~v グリッドの周辺で出土した。またこれらとは離れてIVA 8 jグリッド付近でも旧石器が出土している。これらの石器の出土状況からブロックをとらえることはできなかった。ここではII B区出土の石器とIVA区出土の石器について器種毎に述べていく。

(1) II B区出土の石器

出土したのはナイフ7点、エンドスクレイパー14点、サイドスクレイパー6点、彫器10点、くさび形石器9点、尖頭器?1点、石斧?1点、石刃・剝片35点である。「VIまとめ」ではこれらの石器を第2文化層の石器とする。

①ナイフ (第7、8図、写真図版4)

444は石刃を素材にしている。基部の2側縁に調整が施されている。先端部は欠損している。1657は両端が尖る形状をしている。基部の片側縁とそれとは逆の側縁部の先端部に調整が施される。1710は先端が尖る石刃を素材にしている。両基部側縁と片方の側縁部の中程から先端部にかけて調整が施されている。1723は石刃を素材にしている。基部の一方の側縁に調整を施している。先端部は欠損している。1906は両端が尖った形状をしている。一方の側縁の基部ともう一方の側縁の全部に調整が施されている。1792は石刃を素材にしている。両基部側縁と一方の側縁の中程から先端にかけて調整が施されている。1830は肉厚の剝片を素材にしている。一方の側縁の基部ともう一方の側縁の全部に調整が施される。

②エンドスクレイパー (第8~11図、写真図版4、5)

14点出土している。いずれも石刃を素材にしており、刃部は1685を除き弧状を呈している。1685の刃部は窪んだ形状をしている。また両側縁部に調整がみられる238、1155、1685、1770、1390、1669と、一方の側縁に調整がみられる415、1769が、そして側縁に調整がみられない1708、1733、1666、1671、1829、1896がある。

③サイドスクレイパー (第11、12図、写真図版5)

249は石刃を素材にしている。打面の側縁に調整がみられ両側縁に微細な調整がみられる。打面に相対する側は礫の表皮面がみられる。414は石刃を素材にしている。両側縁と打面に調整が施されている。1153は石刃を素材にしている。両側縁に調整が施されている。打面と相対する面には礫表皮面がみられる。418は石刃を素材にしている。両側縁に微細な調整が施される。打面とそれに相対する面が共に欠損している。1154は石刃を素材にしている。両端部が欠損しており、エンドスクレイパーの可能性も考えられるが両側縁に調整が施されているから、一応サイドスクレイパーに分類した。下部部の欠損は新しいものである。1702は石刃を素材にしている。下部部が折れているが、折れ面にも調整がみられ、意図的に折られていることが理解できる。また一方の側縁にも調整が施されている。

④彫器（第12～14図、写真図版5、6）

199は先端が尖る剥片を素材にしている。彫刀面は斜めに裏面に傾斜を持って作り出されている。ほぼ全周に調整が施されている。207は石刃を素材にしている。彫刀面は裏面に作り出されている。全周に調整が施されている。222は石刃を素材にしている。彫刀面は側縁部に、やや裏面に傾斜を持って作り出されている。打面側と上端部側に調整が施されている。1391は厚みのある石刃を素材にしている。彫刀面は側縁部に作り出されている。調整は両側縁に施され下端部は折れている。1696は石刃を素材にしている。彫刀面は側縁部に裏面とほぼ直交して作り出されている。器体整形のための調整は施されていない。1725は厚みのある剥片を素材にしている。彫刀面は側縁部に表面に傾斜を持って作り出されている。器体整形のための調整は施されていない。1791は石刃を素材にしている。彫刀面は側縁に裏面側に傾斜を持って二つ作り出されている。一方の側縁に調整が施されている。1701は石刃を素材にしている。彫刀面は側縁部に前面に傾斜を持って作り出している。両側縁と上端部に調整がみられる。1831先端が尖る剥片を素材にしている。彫刀面は斜めに裏面に傾斜を持って作り出されている。器体整形のための調整は施されていない。1833は打面がすばむ形状の剥片を素材にしている。彫刀面は斜めに表面に傾斜を持って作り出されている。両側縁に微細な調整が施されている。

⑤くさび形石器（第14、15図、写真図版6）

405は石刃を折ったものである。一方の側縁部に微細な調整が施される。416も石刃を折ったものである。421、428、1840、1915は剥片を素材にしている。打面からの剝離とその相対する面からの剝離がみられる。1816は肉厚の剥片を素材にしている。打面からの剝離とその相対する面からの剝離がみられる。1773と1774はくさび形石器である。この2点は接合するが、くさび形石器として作り出される前はエンドスクレイパーであったことがわかる。つまりエンドスクレイパーを縦割りにしてくさび形石器を作るという行為をしているのである。この接合したエンドスクレイパーは完存品ではないので、この行為で1773、1774の他にも、数点くさび形石器が出土していないが作り出されていると考えられる。

⑦尖頭器？（第16図、写真図版6）

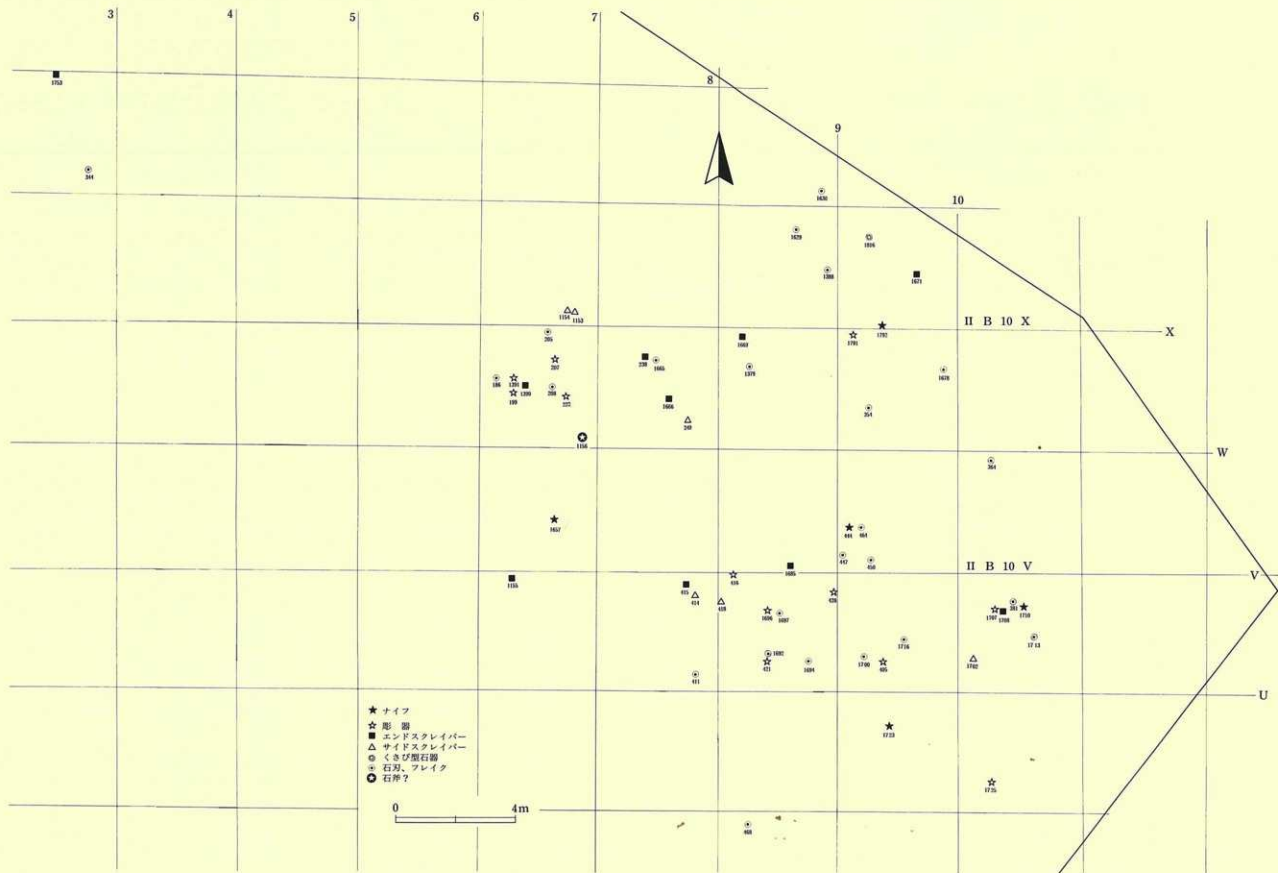
1805は先端部の両側縁に調整がほどこされており、尖頭器の可能性が考えられる。下半部は欠損しており全体の形状は不明である。

⑧石斧？（第16図、写真図版6）

1156は両面に調整が施され、下端部に刃部が作り出されており石斧として考えた。刃部は直刃である。基部側と一方の側縁に欠損しており、完形であればかなり大型のものと推定される。

⑨石刃・剥片（第16～21図、写真図版7、8）

59は石刃である。打面が折れている。また側縁部にみられる調整状のものは新しい傷である。186は横長の剥片である。打面と相対する部分に歯こぼれがみられる。205は薄手の石刃である。打面側が折れているが意図的なものかどうか不明である。208は石刃である。打面側が折れているが意図的なものかどうか不明である。両側縁に歯こぼれがみられる。344、354は小型の石刃である。幅が約1cmであるが細石刃の範疇には含まれないと思われる。344は一方の側縁に歯こぼれがみられる。364は先端が尖る石刃である。一方の側縁は剥皮



第6図 旧石器出土状況

面がみられる。381は石刃である。一方の側縁にえぐりがみられるが意図的なものかどうかは不明である。411は先端が尖る石刃である。打面部分が欠損している。両側縁に歯こぼれがみられる。447は小型の石刃である。両端部が折れているが意図的なものかどうかは不明である。450は小型の石刃である。両側縁に歯こぼれがみられる。464は下端部が幅広になる石刃である。下端部は折れている。468は石刃である。打面に調整がみられ、それに相対する下端部に歯こぼれがみられる。498は石刃である。両側縁に歯こぼれがみられる。1379は石刃である。打面側が約半分欠損している。これが意図的なものかどうかは不明である。両側縁に歯こぼれがみられる。1388は石刃である。下端部が欠損している。打面に調整が施され、一方の側縁に歯こぼれがみられる。1629は石刃である。片方の側縁部から下端部にかけて歯こぼれがみられる。1630は石刃である。打面に調整が施されている。1665は幅広の石刃である。両側縁に歯こぼれがみられる。1678は石刃である。打面側が折れているが意図的なものかどうか不明である。1692は不定形の剝片である。打面と相対する部分に歯こぼれがみられる。1694は石刃である。下端部に明瞭な歯こぼれがみられる。1697は剝片を素材にしている。両側縁に歯こぼれがみられる。1700は肉厚の石刃である。打面側が折れている。1713は石刃である。下端部が欠損しており両側縁に歯こぼれがみられる。1716は肉厚の石刃である。下端部が削げたように折れている。1752、1775は石刃である。ともに両側縁に歯こぼれがみられる。1826は石刃である。下端部が折れている。1827、1838は石刃である。共に一方の側縁に歯こぼれがみられる。1842は石刃の両端部を折ったものである。一方の側縁に歯こぼれがみられる。1844、1845は石刃の下端部が折れたものである。1845は打面側に調整されている。

(2) IVA区出土の石器

出土したのはナイフ1点、台形様石器1点、エンドスクレイパー3点、石刃1点である。「IV まとめ」ではこれらの石器を第1文化層の石器とする。

①ナイフ(第22図、写真図版8)

116は両端がすばむ石刃にしている。両基部と一方の側縁に調整が施されている。

②台形様石器(第22図、写真図版8)

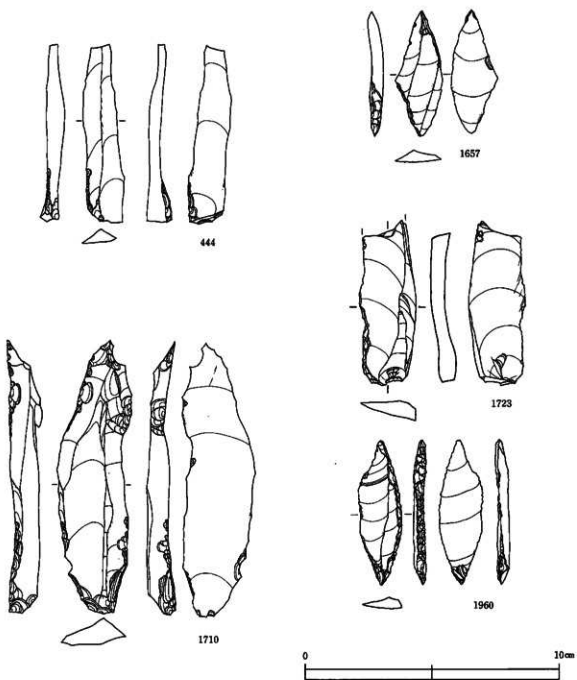
102は石刃の両端を折り取って、その両方の折れ面に裏面から調整を施している。

③エンドスクレイパー(第22図、写真図版8)

117は石刃を素材にしている。刃部は弧状を呈し両側縁の打面側に調整が施されている。125、129は石刃を素材にしている。共に打面側が欠損している。刃部は弧状を呈する。

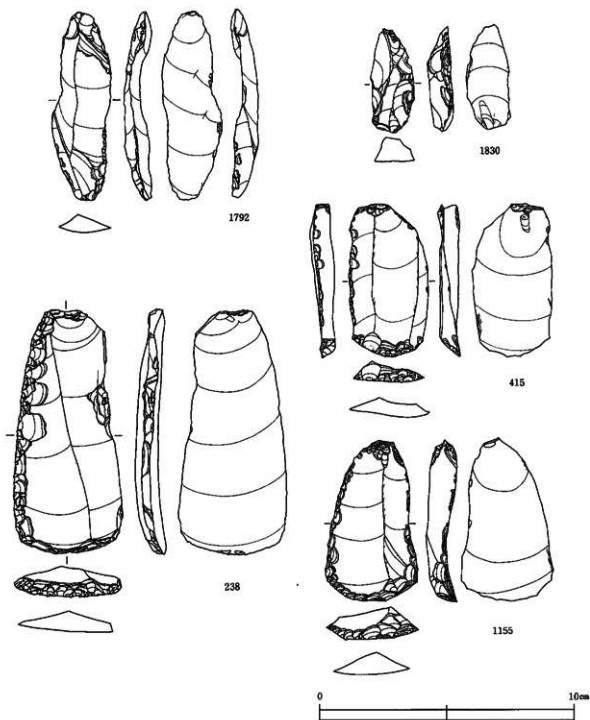
④石刃(第22図、写真図版8)

105は下端が尖る石刃である。表面には礫皮面がみられる。



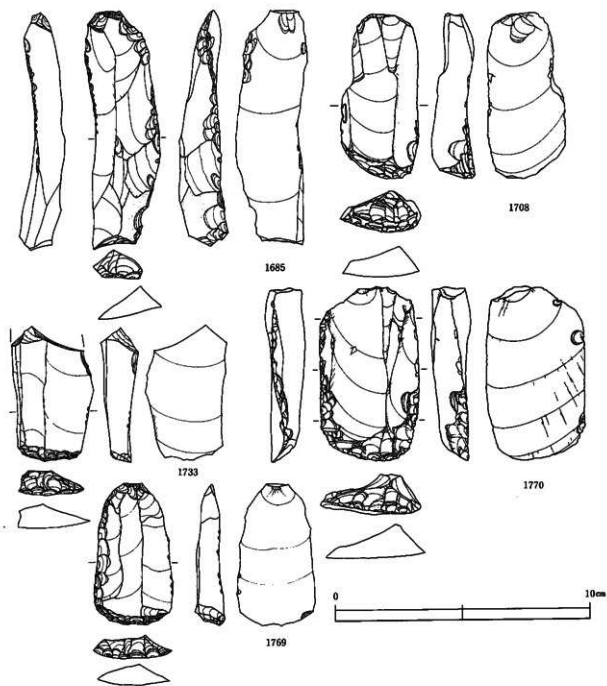
番号	種 類	グリッド	層位	標 高	長さ	幅	厚さ	重さ	石 質	備 考
444	ナイフ	II B 9 v	II	246.012	7.0	1.5	1.0	5.4	細粒砂岩	
1657	ナイフ	II B 6 v	III	246.423	4.9	1.8	0.5	3.3	砂岩	
1710	ナイフ	II B 9 u	II	245.592	10.7	2.6	1.0	29.0	砂岩	
1723	ナイフ	II B 9 t	III	245.853	6.0	2.2	0.7	14.6	砂岩	
1906	ナイフ	II B 区			5.6	1.6	0.5	4.0	砂岩	

第7図 旧石器実測図(1)



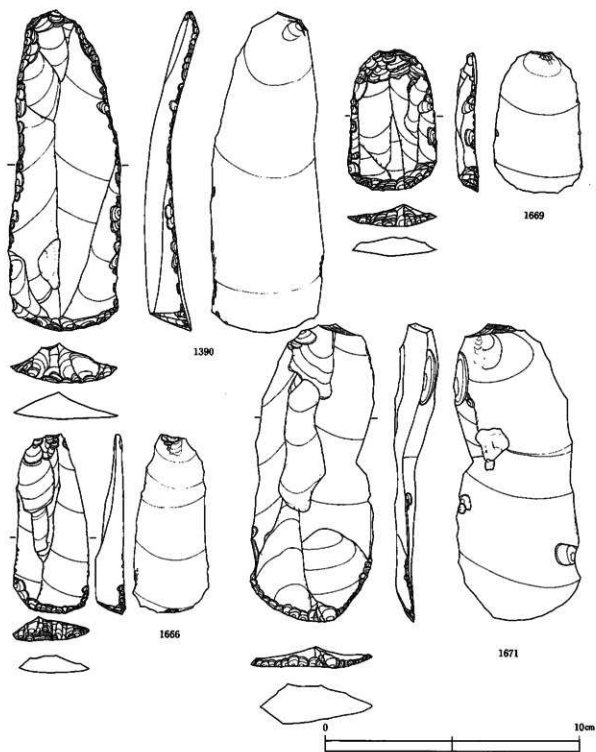
番号	種類	グリッド	層位	標高	長さ	幅	厚さ	重さ	石質	備考
1792	ナイフ	II B 9w	IV	245.709	7.4	2.0	0.9	11.67	泥質凝灰岩	
1830	ナイフ	II B 5t	I		4.1	1.7	1.0	6.9	珧質泥岩	
238	エンドスクレイパー	II B 7w	II	246.460	9.4	4.3	0.9	36.8	珧質泥岩	
415	エンドスクレイパー		II	246.400	6.0	3.1	0.8	14.1	珧質泥岩	
1155	エンドスクレイパー	II B 6u	III	246.814	6.2	3.6	1.1	21.6	礫質凝灰質泥岩	

第 8 図 旧石器実測図(2)



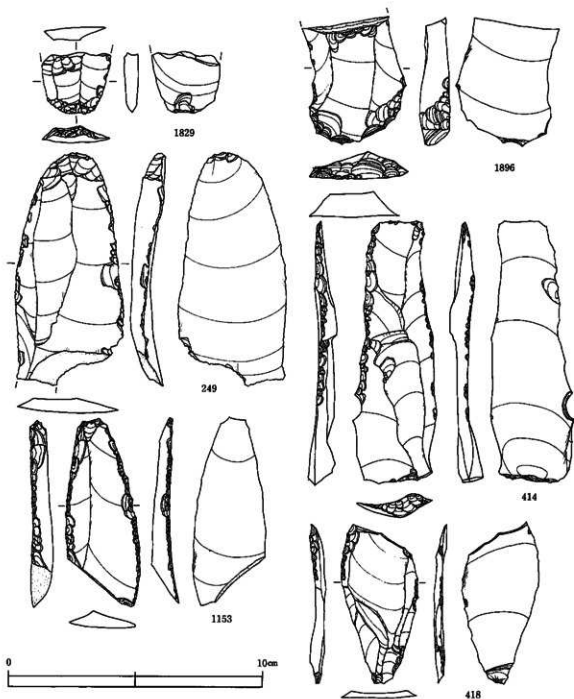
番号	種 類	グリッド	層位	標 高	長さ	幅	厚さ	重さ	石 質	備 考
1685	エンドスクレイパー	II B 8 v	III	246.002	9.3	2.6	1.6	37.2	珉質泥岩	
1708	エンドスクレイパー	II B 9 u	II	245.642	6.3	3.0	1.5	30.6	緑色凝灰岩	
1733	エンドスクレイパー	II B 8 t	II	245.938	5.2	3.2	1.3	19.3	珉質泥岩	
1769	エンドスクレイパー	II B 7 w	IV		5.6	3.0	1.1	15.6	褐色凝灰岩	
1770	エンドスクレイパー	II B 7 u	III		6.8	3.9	1.7	38.5	珉質泥岩	

第 9 図 旧石器実測図(3)



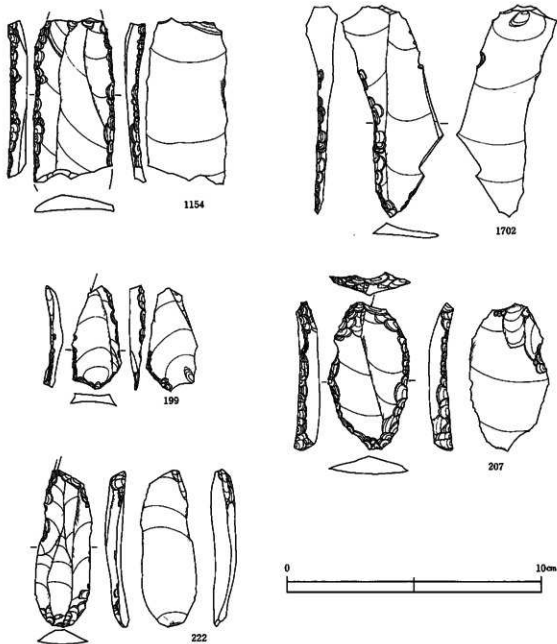
番号	種 類	グリッド	層位	標 高	長 さ	幅	厚 さ	重 さ	石 質	備 考
1390	エンドスクレイパー	II B 6 w	III	246.604	12.5	4.4	1.6	72.3	硬質泥岩	
1669	エンドスクレイパー	II B w	III	246.139	5.5	3.5	0.8	18.1	珪質泥岩	
1666	エンドスクレイパー	II B 7 w	III	246.264	7.0	2.9	1.1	15.8	珪質泥岩	
1671	エンドスクレイパー	II B 9 x	II	246.008	11.7	4.7	1.6	79.0	泥質凝灰岩	

第10図 旧石器実測図(4)



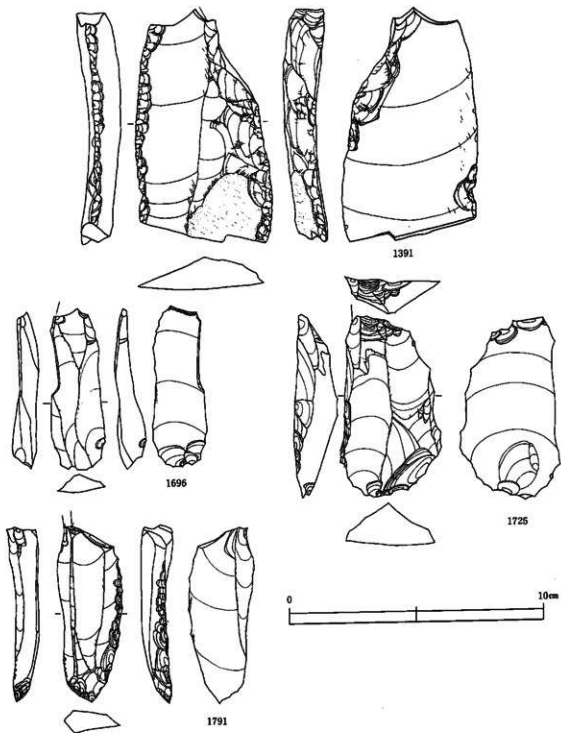
番号	種 類	グリッド	層位	標 高	長 さ	幅	厚 さ	重 さ	石 質	備 考
1829	エンドスクレイパー	II B 9 t	II		2.4	2.6	0.5	4.0	板状砂岩質凝灰岩	
1896	エンドスクレイパー	II B 9 w	II		4.9	3.5	1.2	27.4	凝灰岩	
249	サイドスクレイパー	II B 7 w	III	246.280	8.9	4.2	0.7	32.7	砂質泥岩	
414	サイドスクレイパー	II B 7 u	II	246.326	10.2	3.2	0.8	25.0	砂質泥岩	
418	サイドスクレイパー	II B 6 u	II	246.326	6.3	3.0	0.4	8.1	砂質泥岩	
1153	サイドスクレイパー	II B 6 x	II	246.480	7.4	2.7	0.8	14.9	硬質凝灰質泥岩	

第11図 旧石器実測図(5)



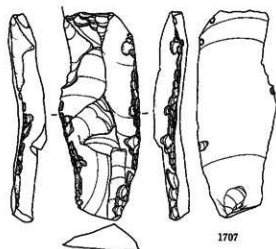
番号	種類	グリッド	層位	標高	長さ	幅	厚さ	重さ	石質	備考
1154	サイドスクレイパー	II B 6 x	II	246.582	6.2	3.2	0.7	18.9	珪質泥岩	
1702	サイドスクレイパー	II B 9 u	III	245.593	7.2	2.7	1.2	14.6	珪質泥岩	
199	彫器	II B 6 w	II	246.781	3.9	1.9	0.6	3.1	軽質凝灰岩	
207	彫器	II B 6 w	II	246.590	5.8	3.1	0.7	15.3	珪質泥岩	
222	彫器	II B 6 w	III	246.547	6.2	2.2	0.8	8.6	硬質凝灰質泥岩	

第12図 旧石器実測図(6)

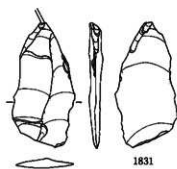


番号	種類	グリッド	層位	標高	長さ	幅	厚さ	重さ	石質	備考
1391	形器	II B 6 w	III	246.619	8.9	5.1	1.3	72.4	硬質凝灰質泥岩	
1696	形器	II B 8 u	III	246.074	6.1	2.1	0.9	10.1	極細粒凝灰質凝灰岩	
1725	形器	II B 10 t	II	245.739	7.0	4.0	1.8	44.3	細粒凝灰質凝灰岩	
1791	形器	II B 9 w	IV	254.747	6.9	2.5	1.3	20.3	細粒凝灰質凝灰岩	

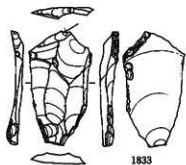
第13図 旧石器実測図(7)



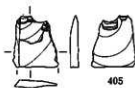
1707



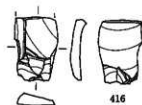
1831



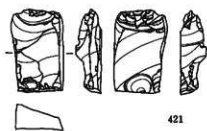
1833



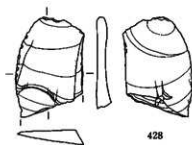
405



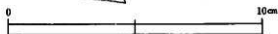
416



421

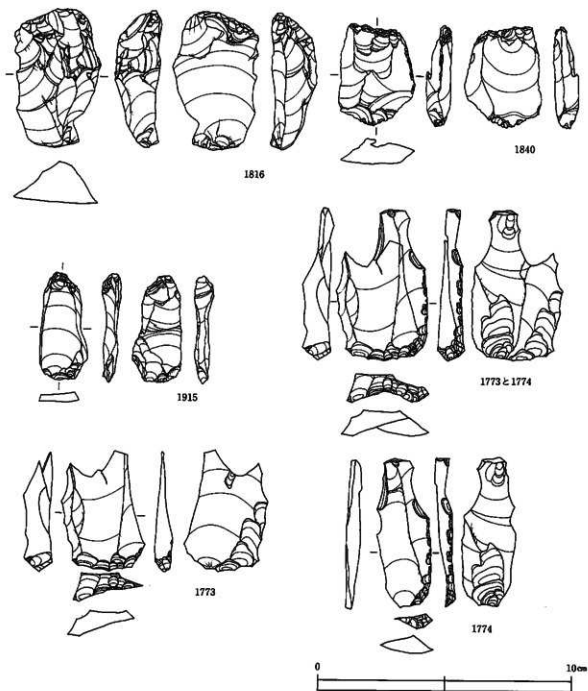


428



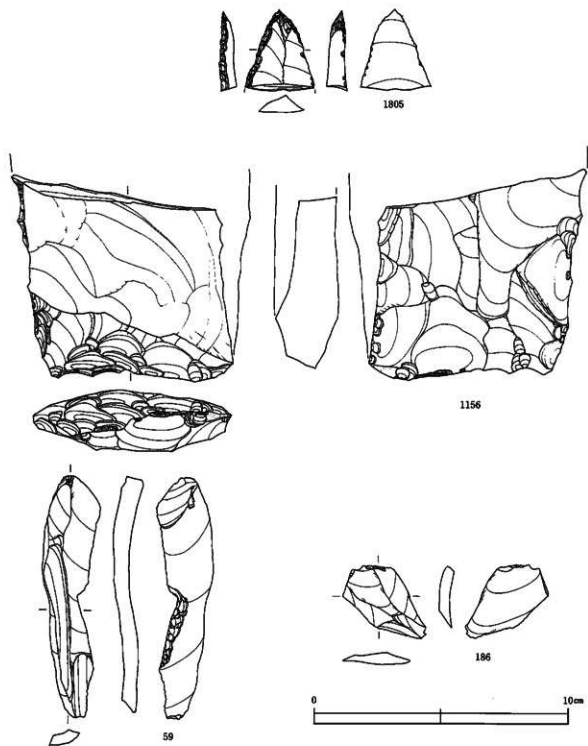
番号	種 類	グリッド	層位	標 高	長さ	幅	厚さ	重さ	石 質	備 考
1707	形 器	II B 9 u	II	245.664	8.2	3.2	1.0	27.6	玉 髓	
1831	形 器	II B10 t	I		4.9	2.4	0.5	5.0	硬質凝灰質泥岩	
1833	形 器	II B 9 v	I		4.4	2.5	0.6	4.7	極細粒凝灰質凝灰岩	
405	くさび型石器	II B 9 u	III	245.970	1.9	1.7	0.3	1.2	硬質凝灰質泥岩	
416	くさび型石器	II B 8 u	II	245.255	2.5	1.7	0.4	2.5	泥質凝灰岩	
421	くさび型石器	II B 8 u	II	246.202	3.2	2.1	1.0	6.5	泥質凝灰岩	
428	くさび型石器	II B 8 u	II	246.012	3.7	2.6	0.6	5.6	泥質凝灰岩	

第14図 旧石器実測図(8)



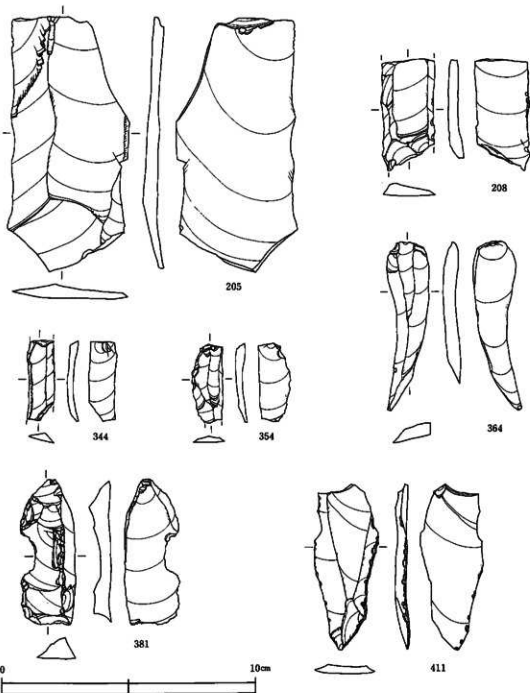
番号	種 類	グリッド	層位	器 高	長さ	幅	厚さ	重さ	石 質	備 考
1816	くさび型石器	II B 9 x	III	245.780	5.4	3.1	1.8	24.4	珪質凝灰岩	
1840	くさび型石器	II B10 t	II		3.8	2.9	0.9	10.6	珪質泥岩	
1915	くさび型石器	II B10 v			4.1	1.9	0.7	4.6	珪質細粒凝灰岩	
1773 1774	エンドスクレイパー	II B 9 u			5.9	3.5	1.0			
1773	くさび型石器	II B 9 u	III		4.7	3.0	0.7	11.8	珪質泥岩	
1774	くさび型石器	II B 9 u	III		5.9	2.0	0.5	7.0	珪質泥岩	

第15図 旧石器実測図(9)



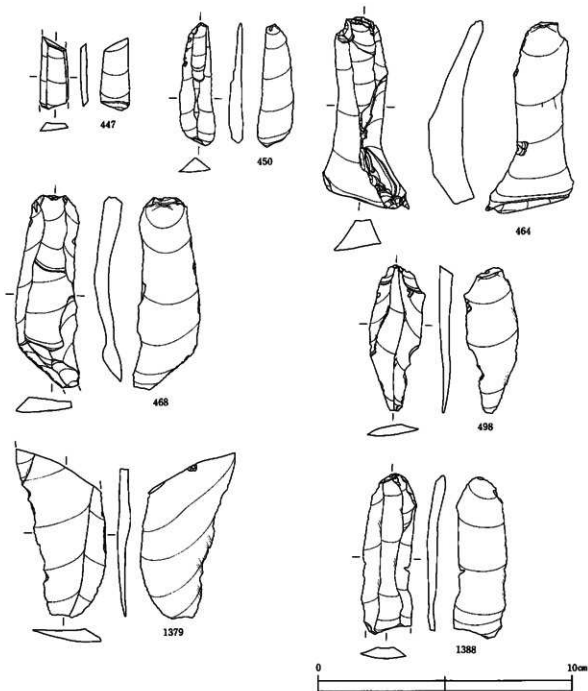
番号	種類	グリッド	層位	標高	長さ	幅	厚さ	重さ	石質	備考
1805	尖頭器?	II B 9 u	III		3.2	2.8	0.7	5.8	埴質礫灰岩	
1156	石 斧?	II B 6 w	III	246.430	8.0	8.0	2.4	159.1	硬質泥岩	
59	石 刀	II B 10 t	III		9.4	2.0	0.7	15.0	埴質泥岩	
186	フレイク	II B 6 w	II	246.820	2.5	2.7	0.4	3.2	埴質礫灰岩	

第16図 旧石器実測図(10)



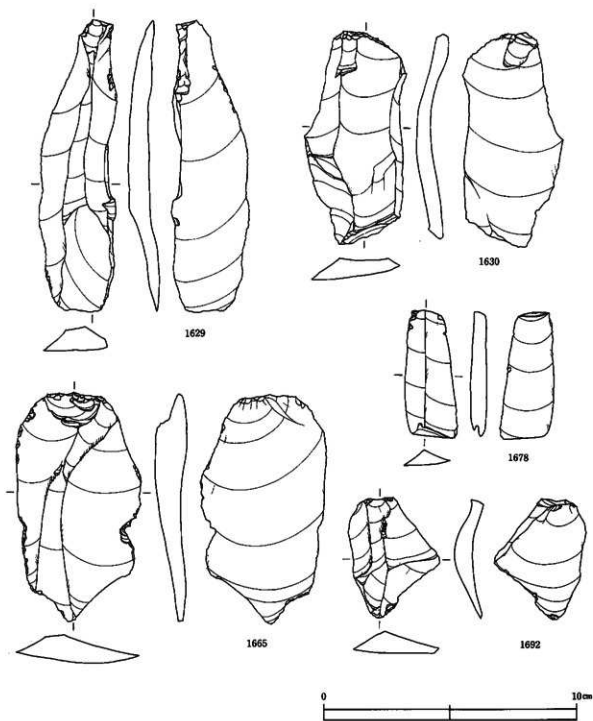
番号	種	類	グリッド	層位	標高	長さ	幅	厚さ	重さ	石質	備考
205	石	刃	II B 6 w	III	246.578	9.9	4.5	0.5	27.5	珪質泥岩	
208	石	刃	II B 6 w	II	246.712	4.2	2.1	0.4	5.6	珪質泥岩	
344	石	刃	II B 2 y	II	237.063	3.1	1.0	0.2	1.1	泥質凝灰岩	
354	石	刃	II B 9 w	III	246.000	3.1	1.2	0.4	1.2	泥質凝灰岩	
364	石	刃	II B 10 v	II	245.810	6.6	1.6	0.5	5.8	硬質凝灰質泥岩	
381	石	刃	II B 10 u	II	245.720	5.6	2.1	0.8	11.3	珪質泥岩	
411	石	刃	II B 7 u	II	246.343	6.5	2.5	0.5	7.0	珪質泥岩	

第17図 旧石器実測図(11)



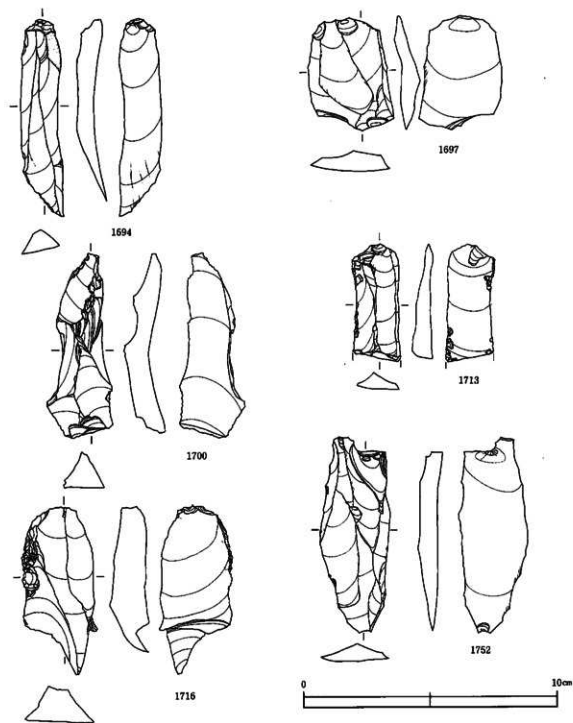
番号	種	類	グリッド	層位	標高	長さ	幅	厚さ	飛さ	石質	備考
447	石	刃	II B 9 v	III	245.960	2.8	1.1	0.2	1.1	硬質凝灰質泥岩	
450	石	刃	II B 9 v	III	245.867	4.7	1.3	0.5	2.9	塊質泥岩	
464	石	刃	II B 9 v	III	245.934	7.2	3.0	1.3	21.3	塊質泥岩	
468	石	刃	II B 8 s	II	246.242	7.5	2.5	0.7	12.8	泥質凝灰岩	
498	石	刃	II C 1 c	II	247.597	5.7	2.0	0.5	4.3	塊質泥岩	
1379	石	刃	II B 8 w	II	246.193	6.1	2.9	0.5	9.0	粘板岩	
1388	石	刃	II B 8 x	II	246.107	6.1	1.9	0.4	6.2	泥質凝灰岩	

第18図 旧石器実測図(12)



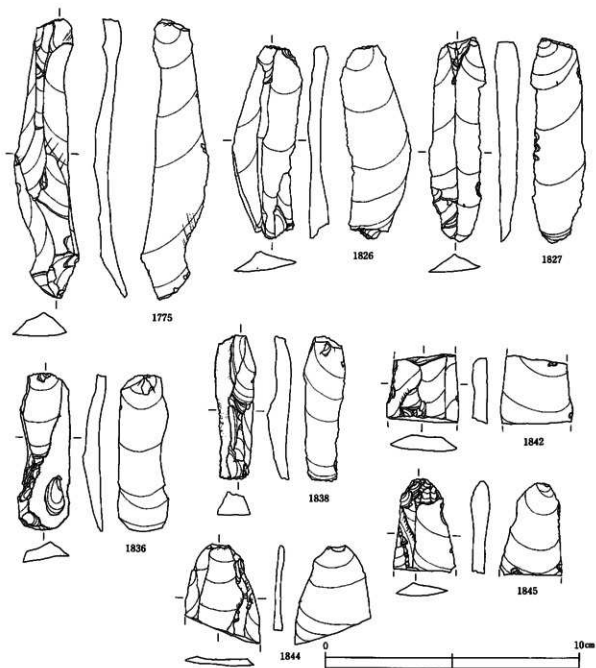
番号	種類	グリッド	層位	標高	長さ	幅	厚さ	重さ	石質	備考
1629	石 刃	II B 8 x	III	246.005	11.3	3.0	0.8	30.5	雑質泥岩	
1630	石 刃	II B 8 y		245.986	8.3	3.8	0.7	30	硬質礫灰質泥岩	
1665	石 刃	II B 5 v	III	246.334	8.9	4.9	1.2	42.9	雑質泥岩	
1678	石 刃	II B 9 w	II	245.832	4.9	2.0	0.6	6.1	粗粒粒雑質礫灰岩	
1692	フレイク	II B 8 u	III	246.132	4.7	3.4	0.7	10.5	泥質礫灰岩	

第19図 旧石器実測図(13)



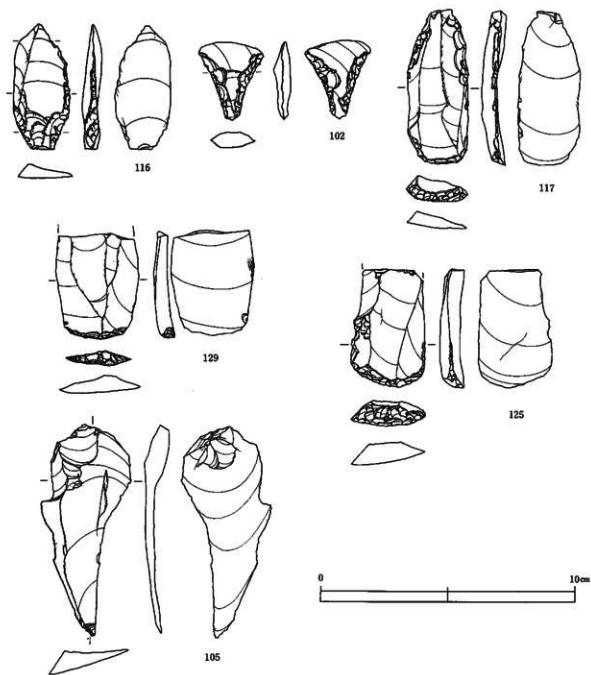
番号	種	類	グリッド	層位	標高	長さ	幅	厚さ	重さ	石質	備考
1694	石	刃	II B 8 u	III	246.017	7.5	1.5	0.7	9.9	埴質泥岩	
1697	フレイク		II B 8 u	III	246.048	4.4	3.0	0.8	11.4	細粒埴質礫灰岩	使用痕あり
1700	石	刃	II B 8 u	III	245.897	7.0	2.5	1.0	18.3	硬質泥岩	
1713	石	刃	II B 9 u	III	245.530				6.2	埴質礫灰岩	
1716	石	刃	II B10v	III	245.491	6.4	2.8	1.5	25.1	細粒埴質礫灰岩	
1752	石	刃	II C 2 a	II	247.262	7.6	2.7	0.6	14.3	埴質泥岩	

第20図 旧石器実測図(14)



番号	種類	グリッド	層位	標高	長さ	幅	厚さ	重さ	石質	備考
1775	石 刃	II B 9 u	III		10.9	2.1	1.0	20.4	埴質泥岩	
1826	石 刃	I B 17j			7.5	2.4	0.7	15.0	硬質礫灰質泥岩	
1827	石 刃	II B 9 w - II B 6 t			7.9	2.0	1.0	12.0	埴質泥岩	
1836	石 刃	I C 22a	II		6.1	2.0	0.7	10.1	硬質礫灰質泥岩	
1838	石 刃	I C 23b			5.6	1.6	0.8	8.2	硬質礫灰質泥岩	
1842	石 刃	II B 11 u	II		2.7	2.8	0.6	6.4	泥質礫灰岩	
1844	石 刃	II B 7 w			3.3	2.9	0.3	3.7	埴質泥岩	
1845	石 刃	II B 9 w - II B 6 t			3.6	2.5	0.7	4.4	泥質礫灰岩	

第21図 旧石器実測図(15)



番号	種類	グリッド	層位	標高	長さ	幅	厚さ	重さ	石質	備考
116	ナイフ	IVA 8j	II	246.094	4.8	2.2	0.7	6.7	硬質燧灰質泥岩	
102	台形礫石器	IVA 8j	II	246.234	3.2	2.4	0.6	3.0	泥質燧灰岩	
117	エンドスクレイパー	IVA 8j	II	246.098	6.0	2.4	0.6	11.0	泥質燧灰岩	
129	エンドスクレイパー	IVA 8j	II	246.404	4.0	3.2	0.7	9.4	泥質燧灰岩	
125	エンドスクレイパー	IVA 8j	II	246.366	4.4	2.9	0.8	12.4	泥質燧灰岩	
105	石 刀	IVA 8j	II	246.195	8.1	3.0	0.8	16.6	珪質泥岩	

第22図 旧石器実測図(16)

2 縄文時代の遺構と遺物

(1) 遺構と出土遺物

① 1号竪穴住居跡 (第23図、写真図版3、9)

【位置】 IIC3a、4a、3b、4bグリッドに位置する。

【平面形】 北東隅が調査区外にかかっているが、東西4m40cm、南北4m10cmの不整な円形のプランを呈する。

【壁】 西壁で約30cm、東壁で約10cmである。立ち上がりはほぼ垂直である。

【床面】 概ね平坦である。

【埋土】 埋土についての記録は残されていない。

【柱穴】 床面上からピットが2つ検出されたが柱穴かどうか不明である。

【炉】 検出されていない。

【出土遺物】 埋土中から土器が出土している。1、2、3は口縁部の破片である。いずれも口縁部の端部に刻み目が施され、体部には非結束の0段多条RL・LR原体の羽状縄文が施される。4は体部破片であるが施されている縄文原体は同じである。胎土はいずれも繊維を多量に混入する。

【時期】 埋土中から出土した土器は縄文時代早期後半から前期前半の時期と考えられ、住居の時期もこれに近いものと考えられる。

(2) 遺構外の出土遺物

① 土器 (第24、25図、写真図版9)

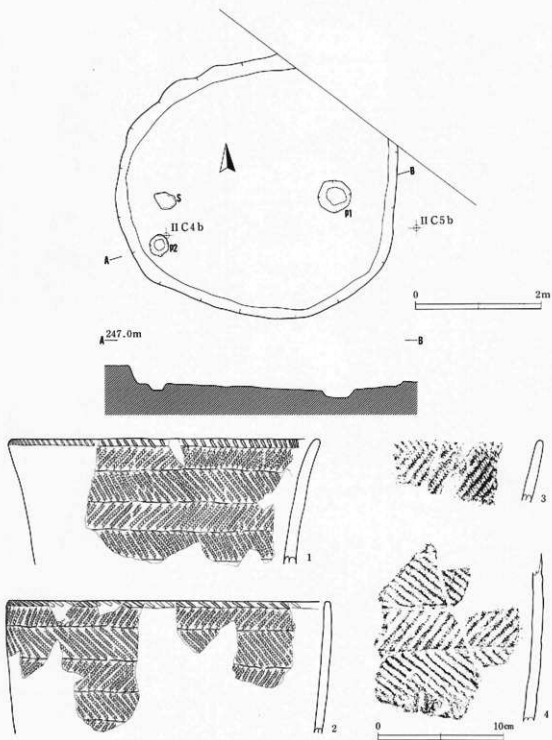
1は口縁部の破片である。細い粘土紐を鋸歯状に貼付けられ大木4～5式と思われる。2は口縁部破片である。RL原体の地文の上に沈線が文様が描かれる。大木5式に相当するかと思われるが定かではない。3は口縁部破片である。沈線による区画があり大木6式と考えられる。4、5は口縁部破片である。口縁に平行する沈線の中に刺突が施されている。また体部には垂下する沈線が施される。大木7a式と考えられる。6は口縁部破片である。粘土紐を貼付けその上に燃糸圧痕を施している。大木7b式と考えられる。7、8は口縁部破片である。燃糸圧痕が施され、大木7a式と考えられる。9、10はキャリバー形土器の口縁部文様帯の破片であり大木8a式と考えられる。11、12は体部破片である。垂下する沈線と渦巻きの沈線が施され大木8～9式と考えられる。13は体部破片である。逆「U」字状の沈線が施され大木9式と考えられる。14は体部破片である。R燃糸文が施される。縄文前期後半から中期前半の土器と考えられる。

② 石器 (第26～30図、写真図版10～12)

1～37はI C区、II B区、II C区で出土した石器である。1～9は石鏃である。いずれも無茎鏃である。1は挟りが深い他はほとんど挟りが無い。10～30は石匙である。いずれも縦型石匙である。29はつまみが非常に長い。31は寛状石器である。表裏両面に調整が施される。32、33は側縁に刃部が作り出されておりスクレイパーとして分類した。34は尖頭器である。両面に調整が施されている。

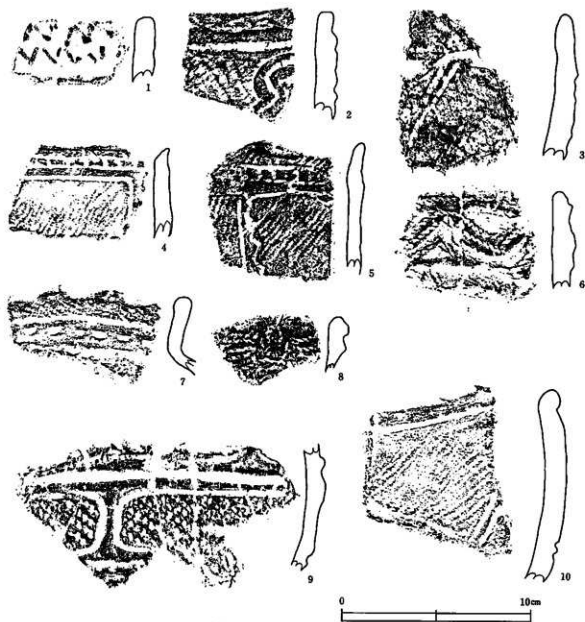
35、36、37は磨石である。35は両面、36、37は片面に磨り面がみられる。38は出土位置が不明であるが石棒である。粗い磨りによって整形されている。

39～48はIV A区出土の石器である。39は石鏃である。無茎で挟りが無い。40～44は石匙である。いずれも縦型石匙である。45～47は寛状石器である。いずれも表面は全面に、裏面は側縁部に調整が施されている。



番号	出土位置	層位	器高	口径	底径	施文原体・文様	時期・型式	備考
1	1号住居	埋土	(10.0cm)	24.1cm	—	①段多条RL, LR		
2	"	"	(10.5cm)	25.8cm	—	"		
3	"	"	(4.9cm)	—	—	"		
4	"	"	(13.1cm)	—	—	"		

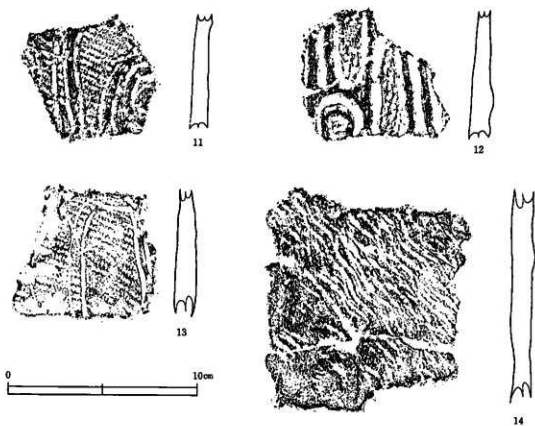
第23图 1号住居跡



番号	出土位置	層位	器高	口径	底径	施文原体・文様	時期・型式	備考
1	II B 9 w	II				隆帯装付け	大木 4 式	
2	II B 9 w	II				単節 RL	大木 5 式?	
3	II C 5 a	II				沈線	大木 6 式	
4	II C 4 a	II				単節 LR	大木 7 式?	
5	II C 5 a	II				単節 LQR	大木 7 式?	
6	II C 4 a	II				R 隆帯圧痕	大木 7 b 式	
7	II C 4 a	II				単節 RL	大木 7 b 式	
8	II C 5 b	II				隆帯圧痕	大木 7 b 式	
9	II B 6 v	II				複節 RLR	大木 8 a 式	
10	II C 4 a	II				単節 LR	大木 7 式?	

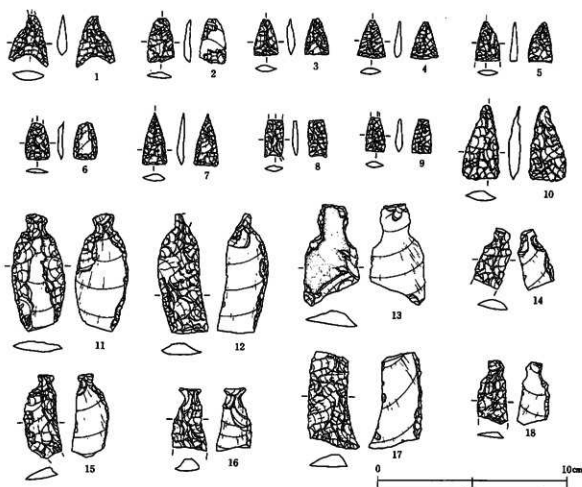
第24図 縄文時代の土器(1)

48は側縁部に刃部が作り出されておりスクレイパーとして分類した。



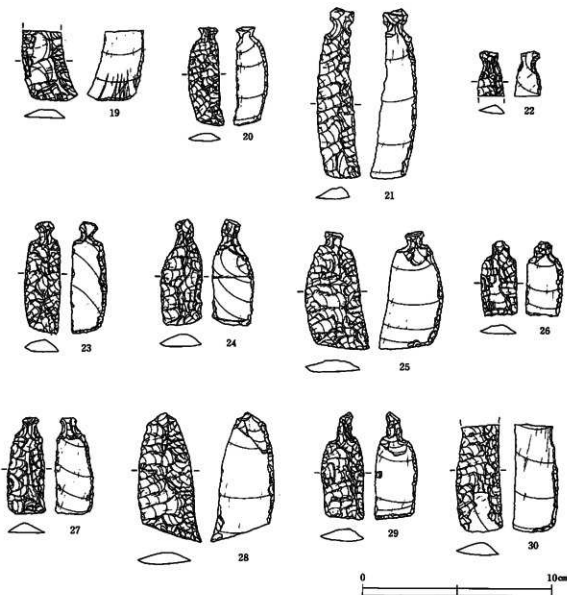
番号	出土位置	層位	器高	口径	底径	施文原体・文様	時期・型式	備考
11	IVA 8j	II				単筋 RL	大木 8-9 式	
12	IIB 9 w	II				単筋 RL		
13	IIB 7 w	II				単筋 RL	大木 9 式	
14	IIB 9 t	II				R 燃糸	前期後半-中期前半	

第25図 縄文時代の土器(2)



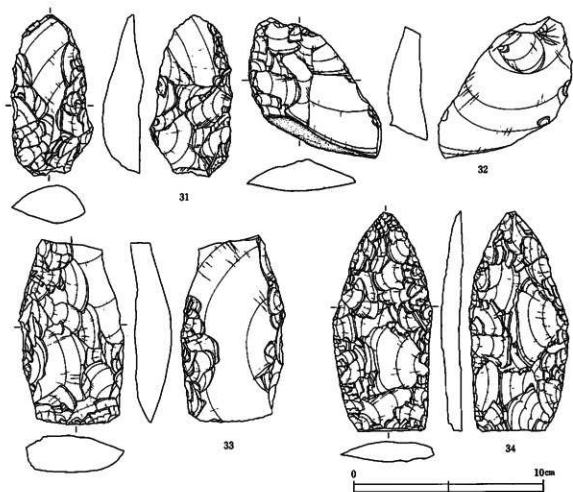
番号	種類	グリッド	層位	ブロック	長さ	幅	厚さ	重さ	石質	備考
1	石鏃	HB5w	II		2.7	2.1	0.5	1.6	細粒地質礫灰岩	
2	*	HB6w	II		2.3	1.4	0.3	1.0	泥質礫灰岩	
3	*	HC5b	II		1.9	1.2	0.4	0.9	泥質礫灰岩	
4	*	HC5b	I		2.0	1.4	0.3	0.9	硬質泥岩	
5	*	HB2y	I		2.1	1.3	0.4	0.9	泥質礫灰岩	
6	*	HC3a	I		2.0	1.2	0.2	0.7	泥質礫灰岩	
7	*	HC6b -4c			2.8	1.3	0.3	1.0	泥質礫灰岩	
8	*	I B24x HB3x			2.1	1.0	0.3	0.7	泥質礫灰岩	
9	*	不明			1.9	1.0	0.3	0.7	泥質礫灰岩	
10	石匙	HB6y			4.0	1.9	0.7	4.3	泥質礫灰岩	
11	*	IC20a	II		6.2	2.8	0.6	10.3	泥質礫灰岩	
12	*	IB19y	II		6.4	2.6	0.6	10.1	細粒地質礫灰岩	
13	*	HB9v	II		5.4	2.9	0.8	11.4	硬質泥岩	
14	*	HC2c	I		3.2	1.9	0.6	2.5	泥質礫灰岩	
15	*	HC5b	II		4.4	2.0	0.6	4.2	細粒地質礫灰岩	
16	*	HC2a	I		3.3	1.8	0.6	3.7	細粒地質礫灰岩	
17	*	HC3a			5.1	2.7	0.7	9.1	細粒地質礫灰岩	
18	*	HB5x	I		3.3	1.6	2.5	2.5	泥質礫灰岩	

第26図 縄文時代の石器(1)



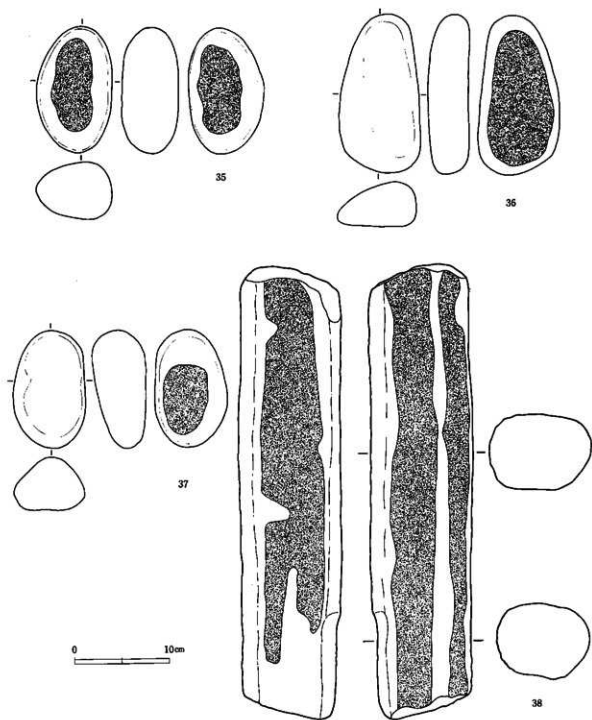
番号	種類	グリッド	層位	ブロック	長さ	幅	厚さ	重さ	石質	備考
19	石甕	II C 4 c	II		3.6	3.0	0.4	6.4	泥質凝灰岩	
20	"	II C 4 c	II		5.2	1.8	0.4	4.6	硬質泥岩	
21	"	II C 4 c	II		9.0	2.3	0.6	12.6	珪粒泥岩	
22	"	I C24b	II		2.4	1.4	0.4	1.3	細粒珪質凝灰岩	
23	"	I C22a	II		4.9	1.9	0.6	7.6	硬質泥岩	
24	"	II B 9 w II B 6 t			5.2	3.3	0.6	13.6	硬質泥岩	
25	"	I C24a	II		5.6	2.0	0.6	9.1	細粒珪質凝灰岩	
26	"	I C23a	I		3.9	1.9	0.4	5.1	泥質凝灰岩	
27	"	I C23b	II		5.1	2.0	0.5	6.6	泥質凝灰岩	
28	"	I B24t	I		6.8	3.3	0.6	13.6	硬質泥岩	
29	"	II B 6 y			5.7	2.3	0.6	7.4	硬質泥岩	
30	"	I C19a	II		5.7	2.4	0.7	11.2	細粒珪質凝灰岩	

第27図 縄文時代の石器(2)



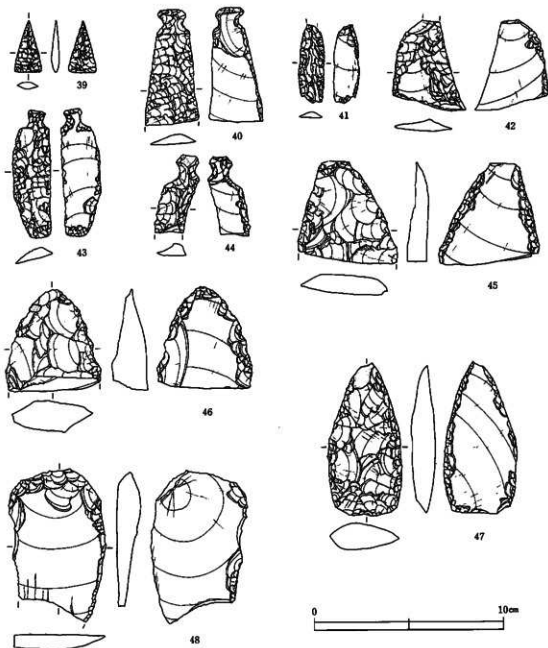
番号	種類	グリッド	層位	ブロック	長さ	幅	厚さ	重さ	石質	備考
31	片状石器	HC1a	II		8.5	4.4	1.9	70.2	硬質凝灰質泥岩	
32	サイドスクレイパー	HB5v			7.4	7.0	1.7	69.1	細粒凝灰質泥岩	
33	サイドスクレイパー	HC2d	II		9.9	5.5	1.9	119.8	硬質凝灰質泥岩	
34	尖頭器	HC1b	II		11.6	5.2	1.0	69.2	硬質凝灰質泥岩	

第28図 縄文時代の石器(3)



番号	種類	グリッド	層位	ブロック	長さ	幅	厚さ	重さ	石質	備考
35	磨石	不明			13.3	8.1	6.0	947.0	硬質泥岩	
36	#	II B 4 y	II		16.8	8.3	4.3	983.0	輝石安山岩	
37	#	II B 10 w			12.4	7.4	5.7	741.0	輝石安山岩	
38	石棒	表採			47.7	11.0	8.1	6000	デイサイト	

第29図 縄文時代の石器(4)



番号	種類	グリッド	層位	高さ	長さ	幅	厚さ	重さ	石質	備考
39	石 鏃	IVA 8j	II		2.7	1.5	0.4	1.1	硬質泥岩	
40	石 匙	IVA 3o	II		6.1	2.7	0.5	10.7	泥質礫灰岩	
41	石 匙	IVA 8j	II		4.1	1.3	0.3	2.1	細粒雑質礫灰岩	
42	石 匙	IVA 8j	II		4.7	3.9	0.6	9.7	泥質礫灰岩	
43	石 匙	IVA 8j	II		6.7	2.0	0.5	9.4	泥質礫灰岩	
44	石 匙	IVA 8j	II		4.1	2.2	0.6	4.9	細粒雑質泥岩	
45	筒状石器	IVA 8j	II		5.2	5.3	1.0	30.4	硬質礫灰質泥岩	
46	筒状石器	IVA 8j	II		5.4	5.1	1.7	44.9	硬質礫灰質泥岩	
47	筒状石器	IVA 8j	II		8.1	4.0	1.4	43.1	泥質礫灰岩	
48	スクレイパー	IVA 7m	不明		8.1	5.2	0.8	51.6	雑質泥岩	

第30図 縄文時代の石器(5)

3 時期不詳の遺構

① 1号溝 (第31図、写真図版3)

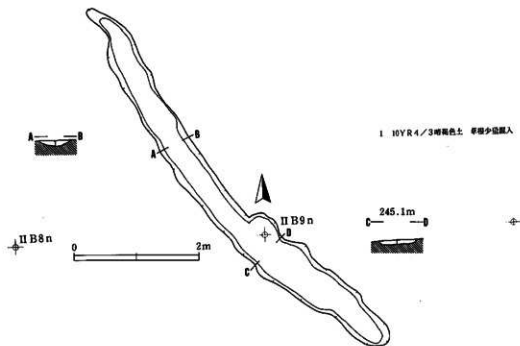
[位置] II B 8 m、8 n、9 m、9 n グリッドに位置する。

[平面形] 最大幅70cm、長さ6m90cmの溝である。

[壁] 壁と底面の区別はつけられない。確認面からの深さは約10cmである。

埋土] 埋土は1層に分けられた。人為堆積、自然堆積の別は判断できない。

[時期] 不明であるがそれほど古いものとは思われない。



第31図 1号溝

V 第 3 次 調 査

1 旧石器時代の遺構と遺物

第3次調査において旧石器はII B 9 q~t、II B 10 p~t、II B 11 p~u、II B 12 p~uグリッドで出土した。この中でII B 10 qグリッド付近とII B 12 q付近で石器が非常に集中しており、それぞれ1ブロック、2ブロックとして把握した。これらのブロックに属さず明瞭なブロックを形成しない状態で出土した他の石器はブロック外として一括する。またこれらの旧石器集中区とはやや離れてI C 18 g、I C 19 fグリッドでサイドスクレイパーがそれぞれ1点出土した。

1ブロック、2ブロック、ブロック外の旧石器はいずれも基本層序のIII層から出土しており、出土層位からこれらの石器を区別することはできなかった。だが1ブロックは細石刃を含む石器組成であり、ナイフやエンドスクレイパーを主体とする2ブロック、ブロック外の石器群とは明瞭に区別ができる。以下各々のブロック毎に出土した石器について述べていく。

(1) 1ブロックの石器

1ブロックはII B 10 qグリッドを中心として南北約8m、東西約5mの範囲に分布する。石器は基本層序のIII層から主に出土したが、II層中からもこのブロックに属する石器がかなり出土している。

出土したのは8点の接合資料と細石刃、細石刃核、スクレイパーである。「VI まとめ」ではこれらの石器を第3文化層の石器とする。

①接合資料1 (第34~41図、写真図版21~25)

礫皮面は黄褐色、内面は黒色を呈する硬質泥岩である。原礫は14×13×7cm程度のやや扁平な形状を呈していたと思われる。接合したのは剥片類29、細石刃核1、細石刃1の合計31点であり、他に接合できなかったが、この接合資料に属すると思われる細石刃が3点と細石刃核を調整する際に生じたと思われるスボールがある。細石刃以外の成品はみられず、細石刃を得る目的で作業がおこなわれたと思われる。

剥ぎ取りの工程は以下の順と考えられる。

ブロックAを剥ぐ→15を剥ぐ→ブロックBを剥ぐ→90°転位して81を剥ぐ→再び90°転位して始めの位置にもどし150を剥ぐ→393を剥ぐ→2を剥ぐ→126を剥ぐ→133を剥ぐ→180°転位して394を剥ぐ→前の位置から90°転位(最初の位置から90°転位した位置)して113を剥ぐ→前の位置から90°転位(最初の位置から180°)して395を剥ぐ→135°転位(最初の位置から45°)して117を剥ぐ→45°転位(最初の位置から90°)して396を剥ぐ→397を剥ぐ→90°転位(最初の位置から0°)して110を剥ぐ……

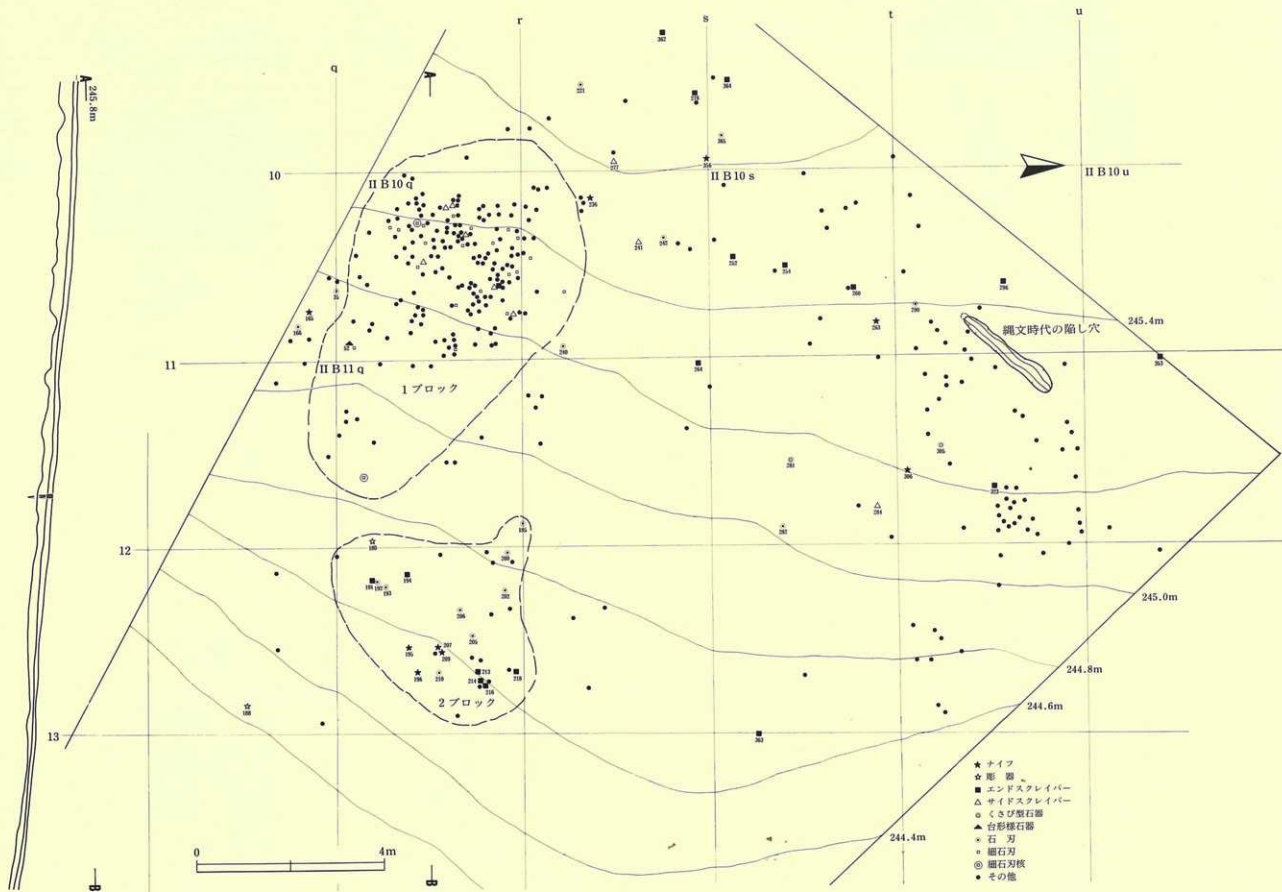
さらにブロックAは以下の工程で剥ぎ取りをおこなっている。

381を剥ぐ、その際パルパースカーチップである19が剥ぎとれている。→90°転位して382を剥ぐ→383を剥ぐ→384を剥ぐ→385を剥ぐ→剥ぎ取った385から107を剥ぎ取る→392を剥ぐ→386が残る。

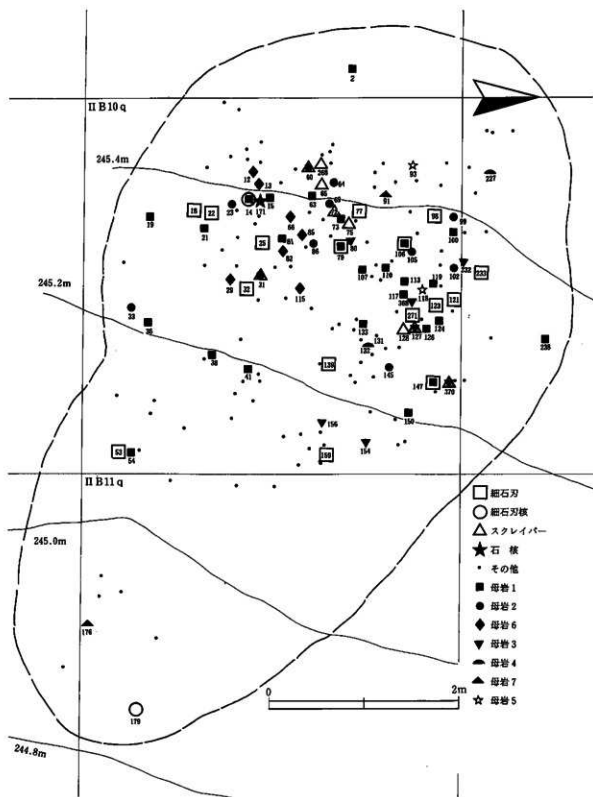
ブロックBが母岩から剥ぎ取られた際は三角形の平面形で、最大厚2.5cmほどのくさび形の断面形をしていたと推察される。ブロックBは以下の工程で剥ぎ取りがおこなわれている。

387を剥ぐ→残った分を63、388、389が含まれる部分と14、147、390が含まれる部分に2分割する。

63を含む部分から388を剥ぐ→389を剥ぎ63が残る。14を含む部分から390を剥ぐ→接合した資料ではないが



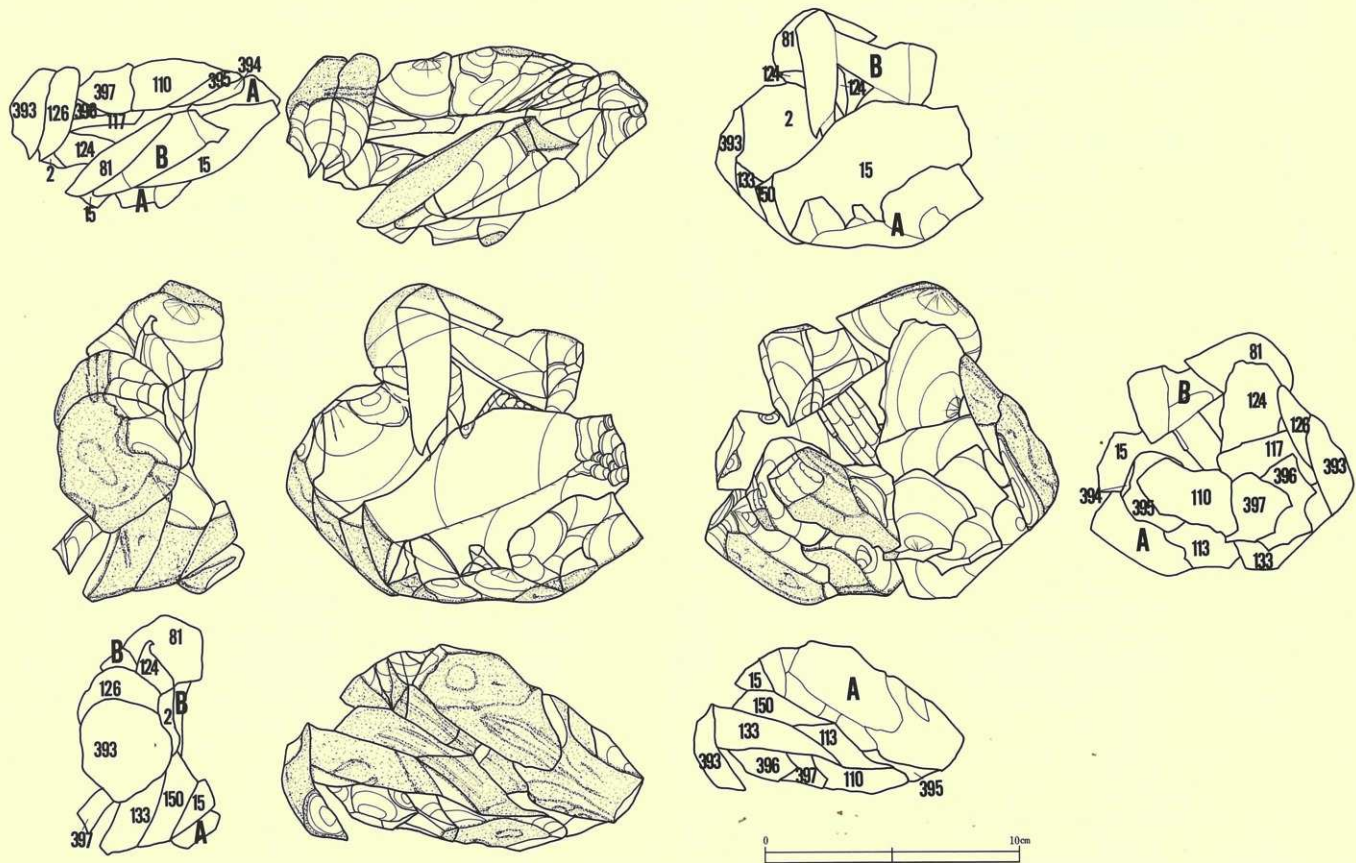
第32図 旧石器出土状況



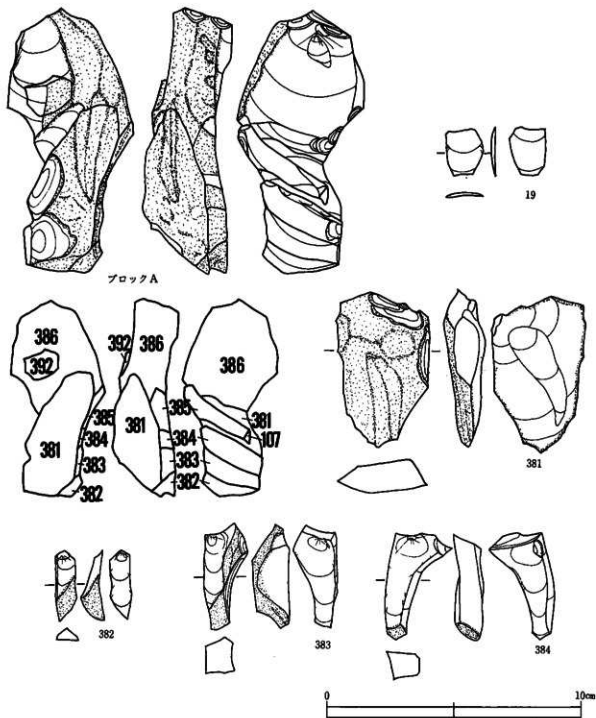
第33図 1ブロック遺物分布

100等を剥ぎ細石刃核を整える。→147と接合しないが79、106、391等の細石刃を細石刃核から剥離する。→細石刃核の残核14が残る。

接合した細石刃核14は円錐形である。打面再生はおこなわれていない。だが、細石刃の打点部には細かい調整がみられる。得られた細石刃は最大22mm程と推定される。この細石刃核から剥ぎ取られた細石刃は147、79、106、391の4点が得られている。上端の打点が残るものにはいずれも細石刃核にみられたのと同様な調整がみられる。

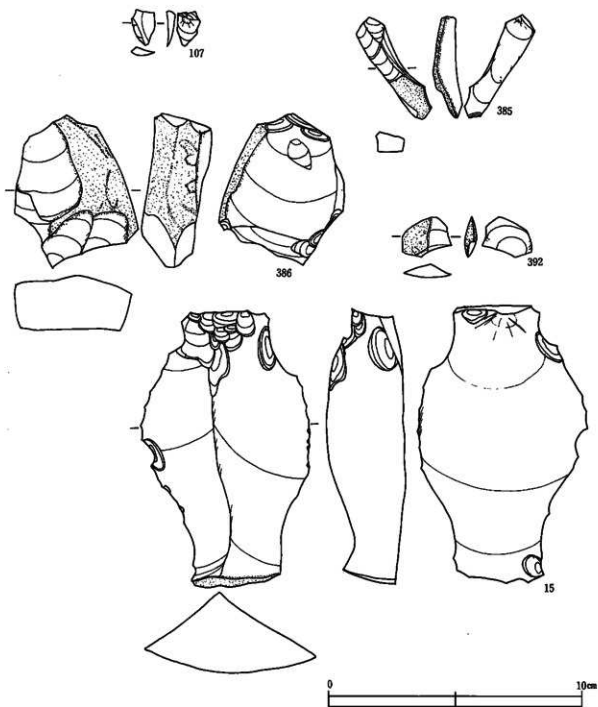


第34回 接合資料 1 (1)



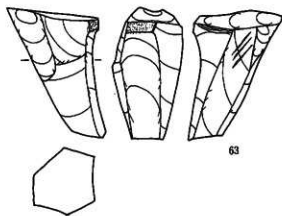
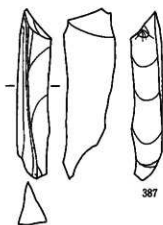
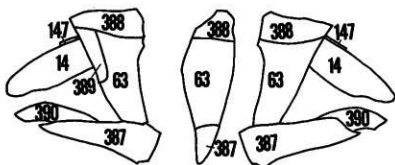
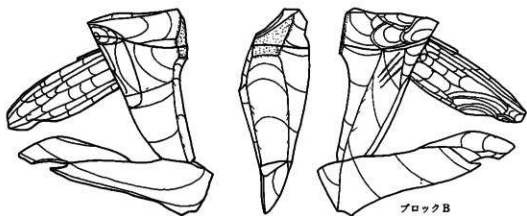
番号	種	類	グリッド	層位	標高	長さ	幅	厚さ	重さ	石質	備考
19	バスバヌカーチップ		II B10 q	III	245.400	1.8	1.4	0.1		硬質泥岩	
381			II B10 q	II		6.3	3.6	1.6		硬質泥岩	
382			II B10 q	II		2.6	0.9	0.8		硬質泥岩	
383			II B10 q	II		4.1	1.8	1.3		硬質泥岩	
384			II B10 q	II		4.2	2.3	1.2		硬質泥岩	

第35図 接合資料1(2)



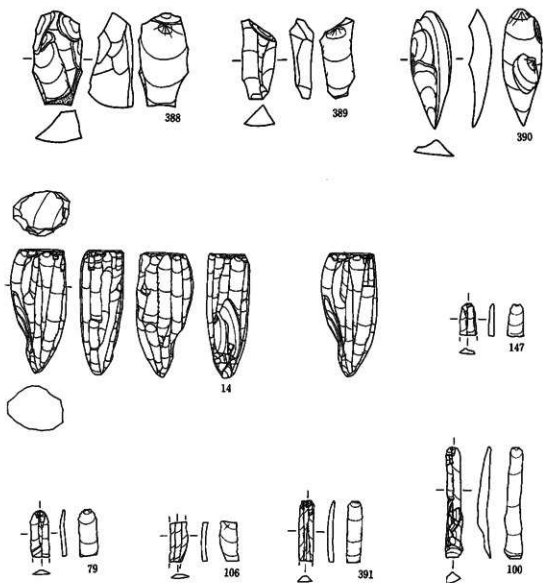
番号	種類	グリッド	層位	標高	長さ	幅	厚さ	重さ	石質	備考
107		II B10 q	III下	245.306	1.4	0.9	0.3		硬質泥岩	
385		II B10 q	II		4.0	1.1	1.0		硬質泥岩	
386		II B10 q	II		5.7	4.8	2.1		硬質泥岩	
392		II B10 q	II		1.4	2.0	0.5		硬質泥岩	
15		II B10 q	III下	245.383	10.9	6.6	3.0		硬質泥岩	

第36図 接合資料1(3)



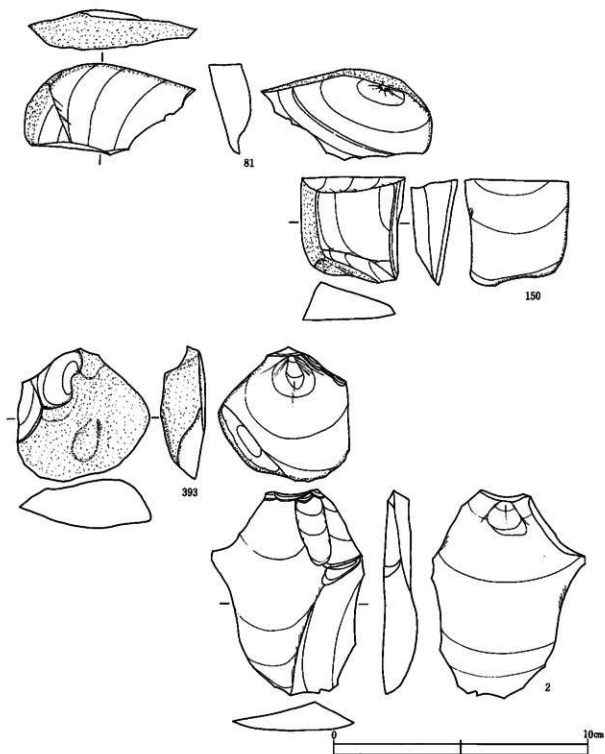
番号	種類	グリッド	層位	標高	長さ	幅	厚さ	重さ	石質	備考
387		II B10 q	II		6.5	1.2	1.9		硬質泥岩	
63		II B10 q	III下	245.386	5.1	3.1	2.7		硬質泥岩	

第37図 接合資料1(4)



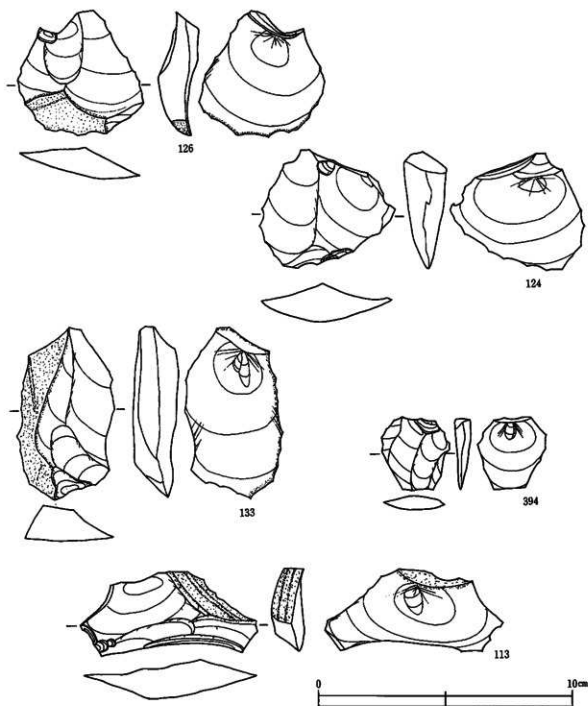
番号	種 類	グリッド	層位	標 高	長さ	幅	厚さ	重さ	石 質	備 考
388		II B10 q	II		3.7	2.1	1.6		硬質泥岩	
389		II B10 q	II		3.1	1.4	0.9		硬質泥岩	
390		II B10 q	II		4.6	1.6	0.9		硬質泥岩	
14	細石刀核	II B10 q	II	245.542	4.9	2.2	1.6		硬質泥岩	
147	細石刀	II B10 q	III	245.478	1.2	0.6	0.2		硬質泥岩	
79	細石刀	II B10 q	III	245.432	1.8	0.7	0.2	0.3	硬質泥岩	
106	細石刀	II B10 q	III	245.436	1.5	0.7	0.2	0.2	硬質泥岩	
391	細石刀	II B10 q	II		2.4	0.6	0.2	0.3	硬質泥岩	
100		II B10 q	III	245.457	4.3	0.6	0.4	1.1	硬質泥岩	

第38図 接合資料1(5)



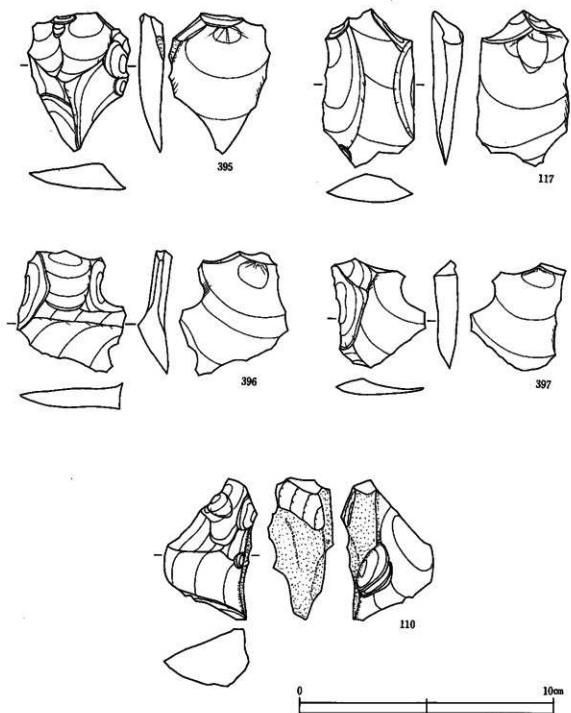
番号	種 類	グリッド	層位	標 高	長 さ	幅	厚 さ	重 さ	石 質	備 考
81		II B10 q	III	245.393	3.6	6.6	1.4		硬質泥岩	
150		II B10 q	III	245.32	4.2	4.1	1.7		硬質泥岩	
393		II B10 q	II		5.1	5.2	1.9		硬質泥岩	
2		II B 9 q	III	245.518	8.0	6.0	1.3		硬質泥岩	

第39図 接合資料1(6)



番号	種類	グリッド	層位	標高	長さ	幅	厚さ	重さ	石質	備考
126		II B10 q	III	245.387	4.9	4.8	1.4		硬質泥岩	
124		II B10 q	III	245.390	4.6	5.3	1.6		硬質泥岩	
133		II B10 q	III下	245.324	6.7	3.6	1.7		硬質泥岩	
394		II B10 q	II		2.9	2.7	0.6		硬質泥岩	
113		II B10 q	III	245.433	3.0	6.9	1.2		硬質泥岩	

第40図 接合資料 1 (7)



番号	種類	グリッド	層位	標高	長さ	幅	厚さ	重さ	石質	備考
395		II B10 q	II		5.4	4.0	1.0		硬質泥岩	
117		II B10 q	III	245.315	6.2	3.7	1.3		硬質泥岩	
396		II B10 q	II		4.7	4.3	1.0		硬質泥岩	
397		II B10 q	II		4.2	3.5	1.0		硬質泥岩	
110		II B10 q	III	245.367	5.5	3.4	2.5		硬質泥岩	

第41図 接合資料 1 (8)

②接合資料2 (第42～47図、写真図版26～29)

礫皮面は淡黄色、内面は灰白色を呈する珪質細粒凝灰岩である。原礫は13×12.5×5.5cm程度のやや扁平な形状を呈していたと思われる。接合したのは剥片類15、スクレイパー3の合計18点である。スクレイパー以外の成品はみられず、スクレイパーを得る目的で作業がおこなわれたと思われる。

剥ぎ取りの工程は以下の順と考えられる。

86を剥ぐ→90°転位して398を剥ぐ→102を剥ぐ→90°(最初の位置から180°)転位して前からブロックAを剥ぐ→180°転位して始めの位置にもどし31を剥ぐ→90°転位して399を剥ぐ→90°転位(最初の位置から180°)して400を剥ぐ→64を剥ぐ→60を剥ぐ→401を剥ぐ→180°転位(最初の位置から0°)して99を剥ぐ→402を剥ぐ→180°転位(最初の位置から180°)して145を剥ぐ→90°転位(最初の位置から270°)して403を剥ぐ→404が残る

さらにブロックAは以下の工程で剥ぎ取りをおこなっている。

69を剥ぐ→90°転位して33を剥ぐ→23を剥ぐ→105が残る

この接合資料に属するサイドスクレイパーは31、400、60の3点である。いずれも素材はやや縦長の剥片である。31は片側の側縁全部ともう一方の側縁の一部に調整が施されている。400と60は片側の側縁部のみ調整が施されている。

③接合資料3 (第48、49図、写真図版30)

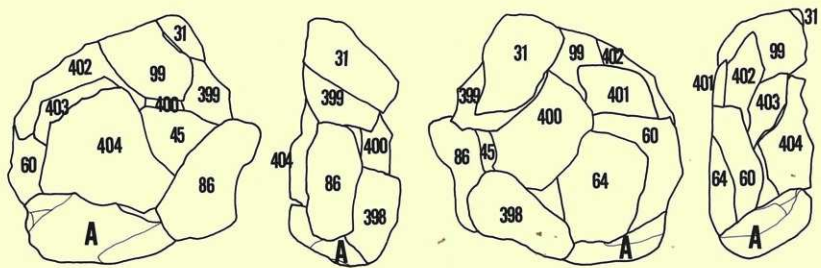
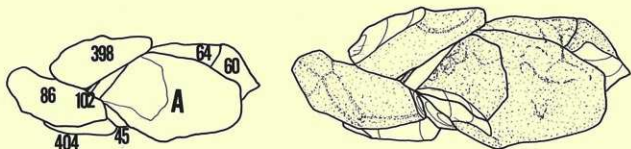
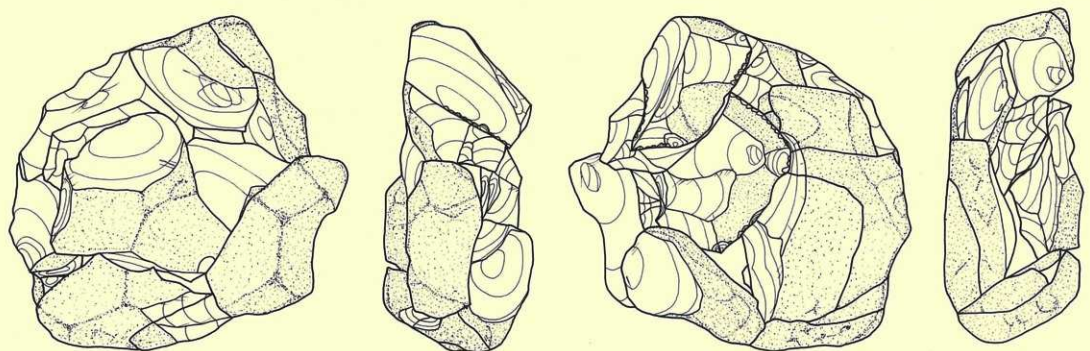
礫皮面は明黄褐色、内面は黒色を呈する珪質泥岩である。原礫の形状は残されている部分からは推定できない。資料は剥片類6、スクレイパー1が接合したもの(資料Aとする)と、剥片1とスクレイパー1が接合したもの(資料Bとする)があり、その両者は接合できなかった。他に接合できなかったがこの接合資料に属すると思われるスクレイパーが1点ある。このように合計3点のスクレイパーがみられ、スクレイパーを得る目的で作業がおこなわれたと推定される。

剥ぎ取りの工程は以下の順と考えられる。

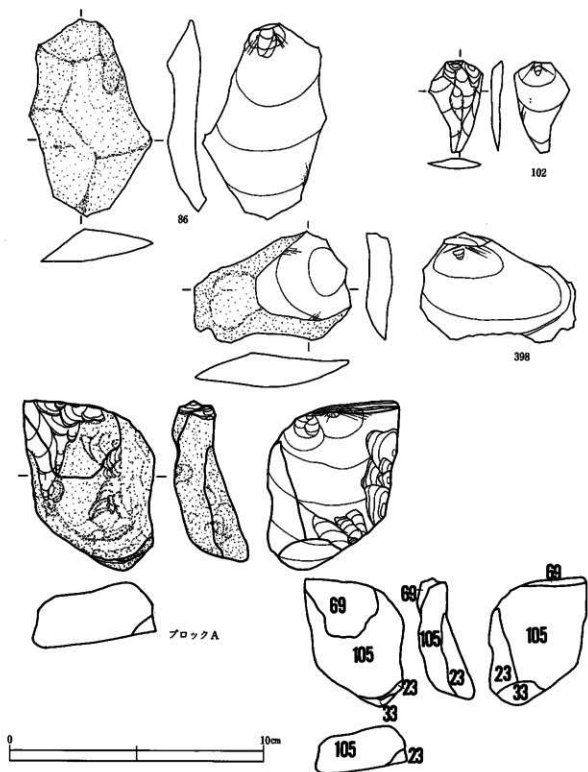
資料A 405を剥ぐ→90°転位して154を剥ぐ、その際バルバスカークリップである406が剥がれる→90°(最初の位置から180°)転位して156を剥ぐ→90°(最初の位置から90°)転位して407を剥ぐ→90°転位(最初の位置から0°)して408を剥ぐ→80が残る……

資料B 368を剥ぐ→370が残る

この接合資料に属する成品は、エンドスクレイパーが405、127の2点、サイドスクレイパーが370の1点がある。エンドスクレイパーの405、127はいずれも縦長の外皮面が残る剥片を素材にしている。刃部は直刃に近い形状である。370は不定形の剥片の側縁の一部にのみ調整を施している。

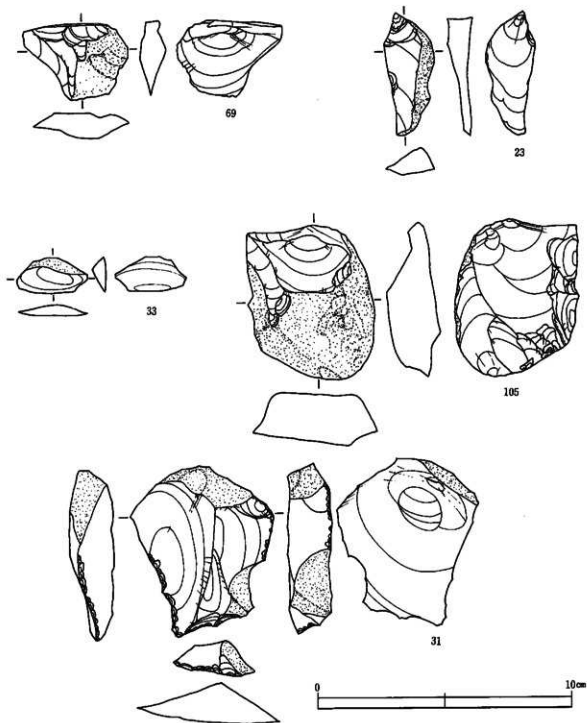


第42回 接合資料 2 (1)



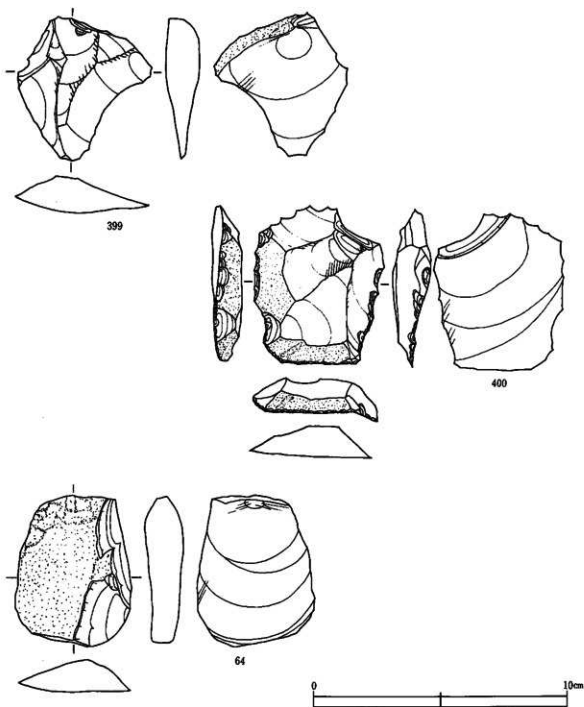
番号	種 類	グリッド	層位	標高	長さ	幅	厚さ	重さ	石 質	備 考
86		II B10 q	III	245.429	7.6	4.2	1.3	46.7	珉質細粒凝灰岩	
397		II B10 q	II		4.1	6.0	1.0	28.5	珉質細粒凝灰岩	
102		II B10 q	III	245.392	3.7	2.0	0.5	1.7	珉質細粒凝灰岩	

第43図 接合資料 2 (2)



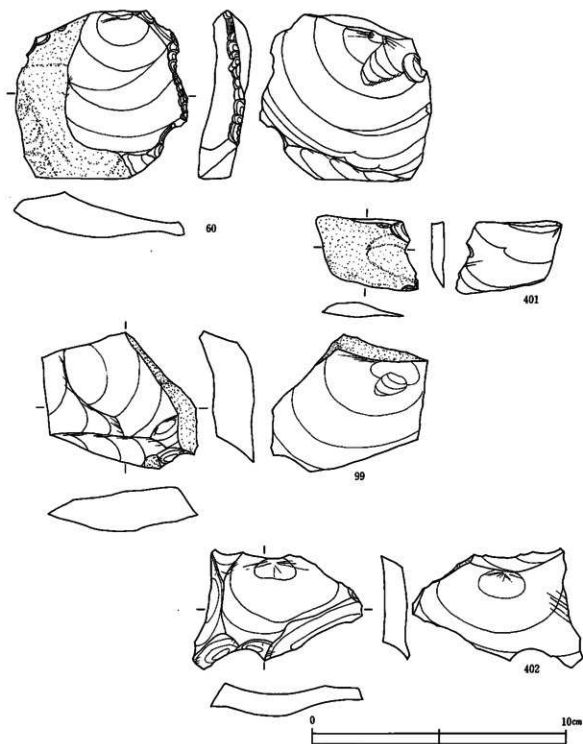
番号	種類	グリッド	層位	標高	長さ	幅	厚さ	重さ	石質	備考
69		II B10 q	III	245.386	3.0	4.0	1.0	11.2	珸質細粒凝灰岩	
23		II B10 q	III	245.378	4.9	1.9	1.0	7.6	珸質細粒凝灰岩	
33		II B10 q	III	245.266	2.7	1.5	0.5	1.6	珸質細粒凝灰岩	
105		II B10 q	III	245.440	6.1	4.9	2.0	72.6	珸質細粒凝灰岩	
31	サイドスレイパー	II B10 q	III	245.414	6.5	5.5	1.7		珸質細粒凝灰岩	

第44図 接合資料2(3)



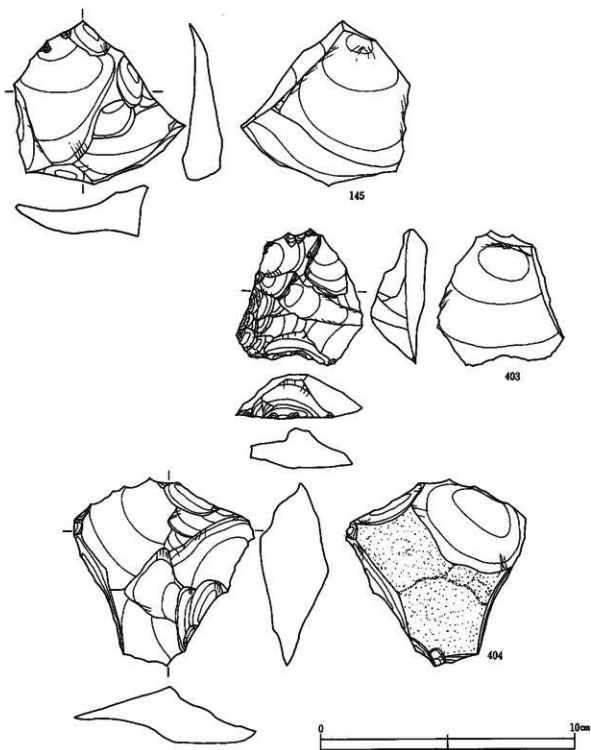
番号	種 類	グリッド	層位	標 高	長 さ	幅	厚 さ	重 さ	石 質	備 考
399		II B10 q	II		5.6	5.2	1.3	27.4	珉質細粒磁灰岩	
400	サイドスレイバー	II B10 q	II		6.2	5.0	1.4	46.3	珉質細粒磁灰岩	
64		II B10 q	III	245.443	6.0	4.4	1.5	44.5	珉質細粒磁灰岩	

第45図 接合資料 2 (4)



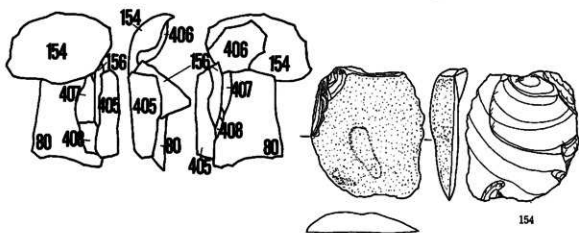
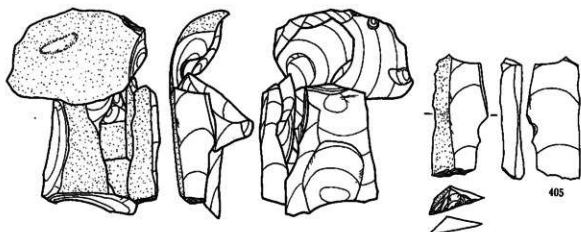
番号	種類	グリッド	層位	標高	長さ	幅	厚さ	重さ	材質	備考
60	サイドスレイパー	II B10 q	III	245.441	6.7	6.7	1.3	71.8	珪質細粒凝灰岩	
401		II B10 q	II		2.7	3.4	0.5	7.3	珪質細粒凝灰岩	
99		II B10 q	III	245.489	5.1	6.0	1.6	52.5	珪質細粒凝灰岩	
402		II B10 q	II		4.5	6.0	0.9	26.8	珪質細粒凝灰岩	

第46図 接合資料 2 (5)



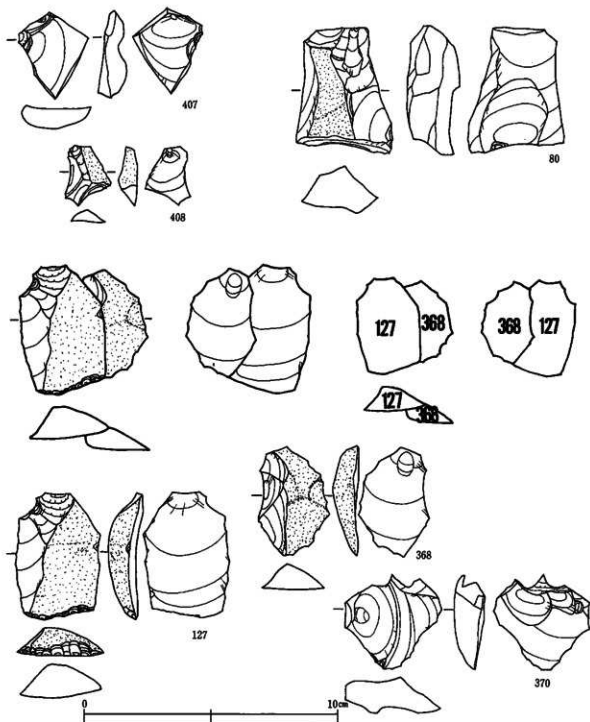
番号	種 類	グリッド	層位	標 高	長さ	幅	厚さ	重さ	石 質	備 考
145		II B10 q	III	245.363	6.2	6.6	1.5	58.6	珪質細粒凝灰岩	
403		II B10 q	II		5.0	4.8	1.8	40.0	珪質細粒凝灰岩	
404		II B10 q	II		7.1	7.1	2.6	97.5	珪質細粒凝灰岩	

第47図 接合資料 2 (6)



番号	種類	グリッド	層位	標高	長さ	幅	厚さ	重さ	石質	備考
405	エンドスレイバー	II B10 q	II		4.8	2.1	0.9	8.7	珪質泥岩	
154		II B10 q	III	245.363	4.9	4.4	1.1	29.1	珪質泥岩	
406		II B10 q	II		3.3	2.5	0.6	4.9	珪質泥岩	
156		II B10 q	III	245.357	3.0	3.2	1.0	8.2	珪質泥岩	

第48図 接合資料3(1)



番号	種類	グリッド	層位	標高	長さ	幅	厚さ	重さ	石質	備考
407		II B11 q	II		3.4	2.8	1.1	6.2	珪質泥岩	
408		II B10 q	II		2.2	1.2	0.7	1.9	珪質泥岩	
80		II B10 q	III	245.332	4.7	3.8	2.0	31.0	珪質泥岩	
127	エンドスクレイパー	II B10 q	III	245.294	4.9	3.3	1.1	22.4	珪質泥岩	
368		II B10 q	III下		4.1	2.7	1.0	9.0	珪質泥岩	
370	サイドスクレイパー	II B10 q	III下		3.6	3.8	1.2	12.8	珪質泥岩	

第49図 接合資料3(2)

④接合資料4 (第50図、写真図版31)

礫表面は明黄褐色を呈する珪質細粒凝灰岩である。原礫の形状は握りこぶし大の角礫と推定される。資料は剥片類4、石核1の5点が接合したものである。接合する成品は得られておらず、作業の目的を知ることができない。

剥ぎ取りの工程は以下の順と考えられる。

132を剥ぐ→90°転位して409を剥ぐ→90°(最初の位置から0°)転位して410を剥ぐ→90°(最初の位置から90°)転位して411を剥ぐ→227が残る

⑤接合資料5 (第51、52図、写真図版32)

礫表面は黄褐色～橙色、内面は灰白色～褐色を呈する珪質細粒凝灰岩である。原礫の形状は残されている部分からは推定できない。資料は剥片類3、サイドスクレイパー1の計4点からなる。このように接合資料にサイドスクレイパーがみられることから、サイドスクレイパーを得る目的で作業がおこなわれたと推定される。

剥ぎ取りの工程は以下の順と考えられる。

412を剥ぐ→180°転位して93を剥ぐ、その際パルバスカーチップである406が剥がれる→413を剥ぐ→118を剥ぐ……

この資料に属するエンドスクレイパーは412である。円形に近い形状の剥片を素材にしており、一方の側縁部のみ微細な調整が施されている。

⑥接合資料6 (第53～56図、写真図版33、34)

礫表面は黄褐色、内面は灰褐色～黒褐色を呈する珪質細粒凝灰岩である。原礫の全体の形状は不明であるが、7×8×13cm以上の角柱に近い形状であったと推定される。資料は剥片11点と石核状の1点の合計12点からなる。接合する成品は得られておらず、作業の目的を知ることができない。

剥ぎ取りの工程は以下の順と考えられる。

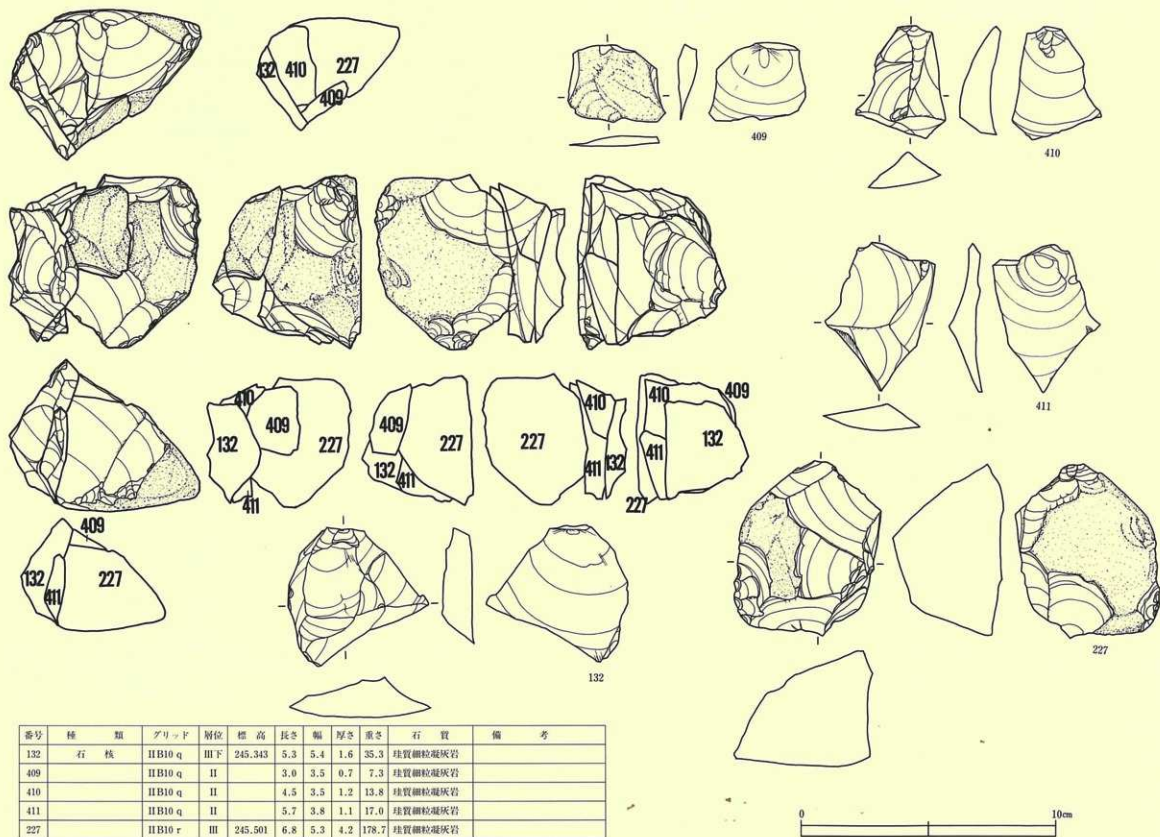
29を剥ぐ→414を剥ぐ→180°転位して181を剥ぐ(この段階の前に図の上の部分はすでに剥ぎ取りがおこなわれている)→416を剥ぐ→85を剥ぐ→180°転位(最初の位置から0°)して13を剥ぐ→90°転位して66を剥ぐ→90°転位(最初の位置から180°)して417を剥ぐ→82を剥ぐ→90°転位(最初の位置から90°)して108を剥ぐ→115を剥ぐ→12が残る

⑦接合資料7 (第57図、写真図版35)

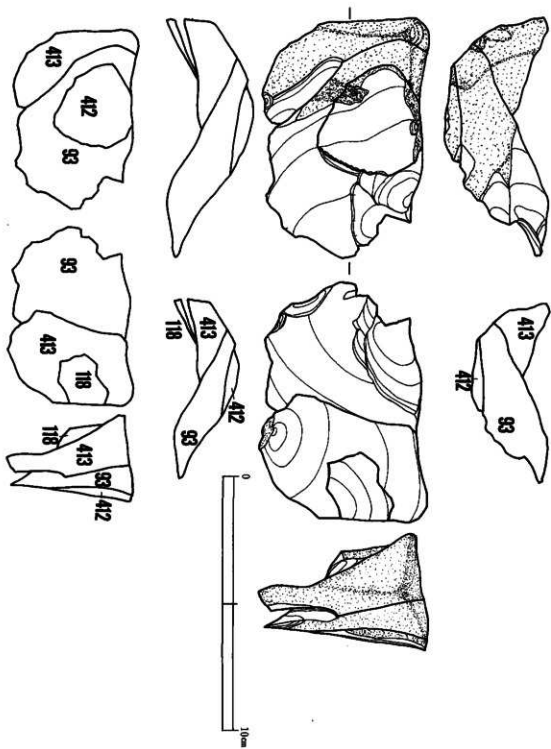
礫表面は褐色、内面は黒褐色を呈する珪質細粒凝灰岩である。原礫の全体の形状は得られた部分から推定することができない。資料は剥片1点と石核状の1点の合計2点からなる。接合する成品は得られておらず、作業の目的を知ることができない。

剥ぎ取りの工程は以下の順と考えられる。

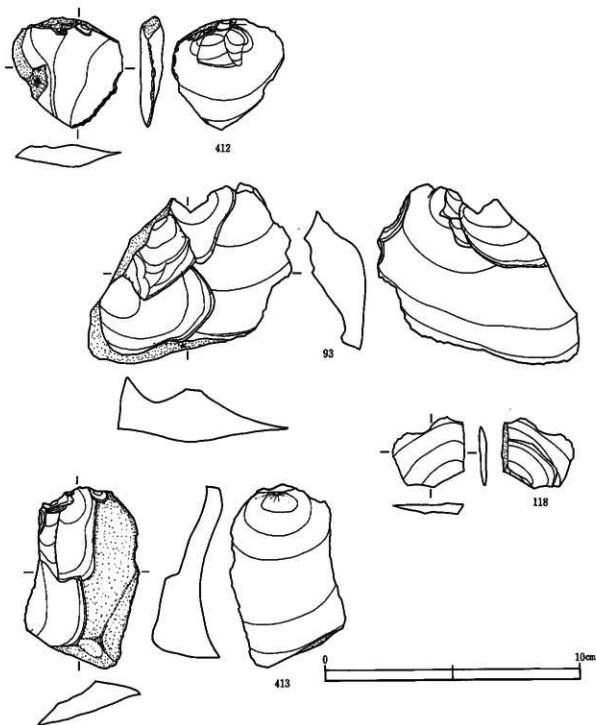
91を剥ぐ→176が残る



第50図 接合資料4

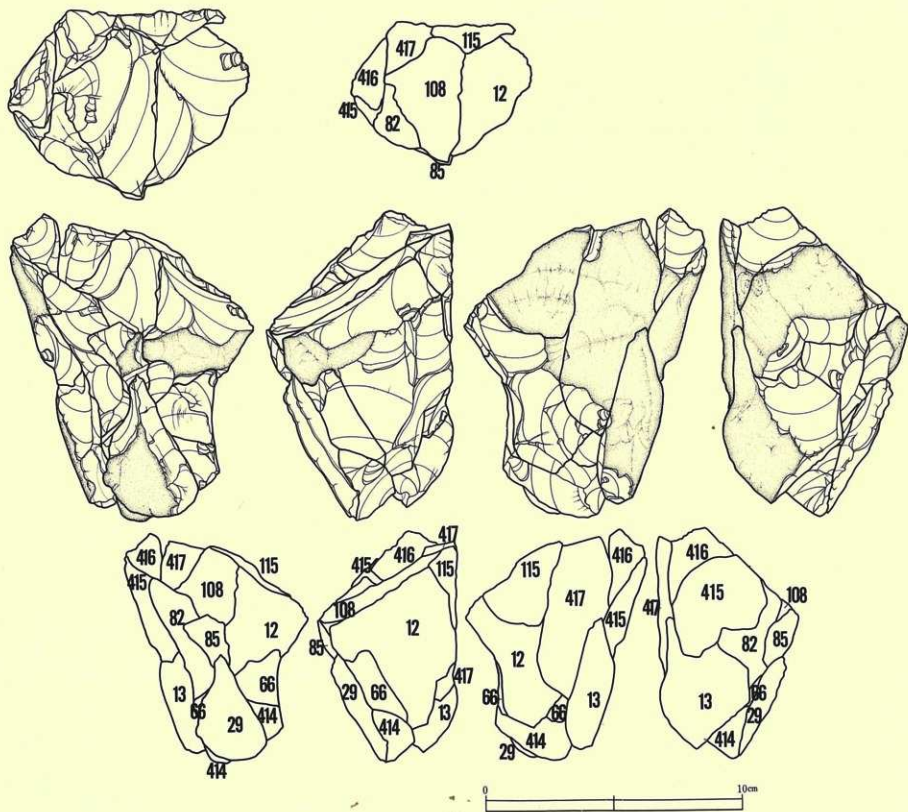


第51圖 接合資料5(1)

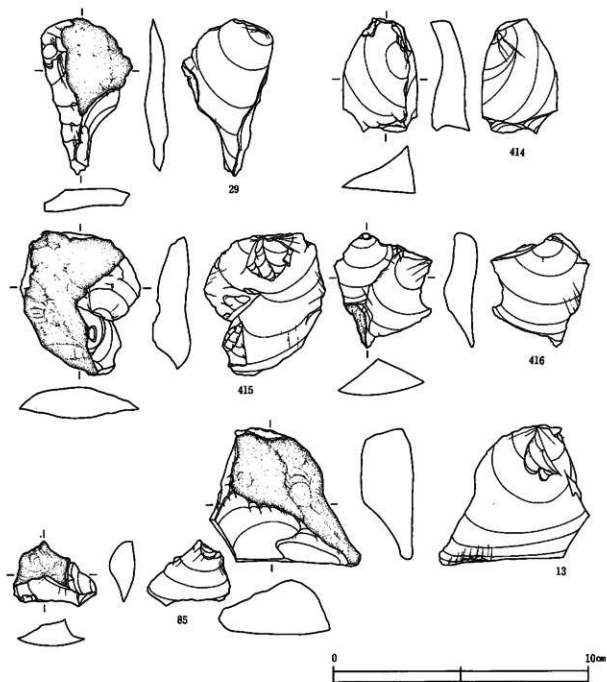


番号	種類	グリッド	層位	種高	長さ	幅	厚さ	重さ	石質	備考
412	サイドスクレイパー	II B10 q	II		4.3	4.4	0.9	15.4	珪質細粒凝灰岩	
93		II B10 q	III	245.492	6.2	7.0	2.0	92.1	珪質細粒凝灰岩	
118		II B10 q	III	245.420	2.7	2.8	0.3	2.6	珪質細粒凝灰岩	
413		II B10 r	II		7.1	4.0	2.5	50.7	珪質細粒凝灰岩	

第52図 接合資料 5 (2)

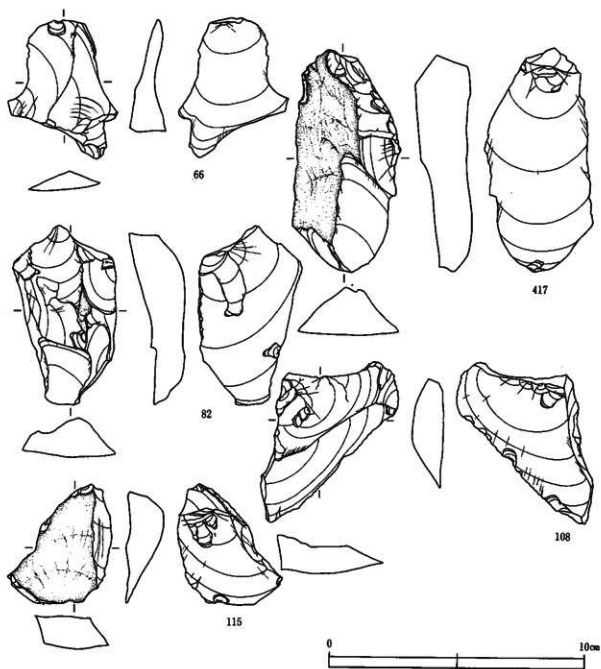


第53図 接合資料6(1)



番号	種類	グリッド	層位	標高	長さ	幅	厚さ	重さ	石質	備考
29		II B10 q	III	245.294	6.1	3.4	0.9	18.8	珸質細粒凝灰岩	
414		II B10 q	II		4.3	3.0	1.4	20.6	珸質細粒凝灰岩	
415		II B10 q	II		5.5	4.6	1.4	34.4	珸質細粒凝灰岩	
416		II B10 q	II		4.4	3.7	1.1	16.0	珸質細粒凝灰岩	
85		II B10 q	III	245.446	2.3	3.2	1.0	4.6	珸質細粒凝灰岩	
13		II B10 q	III	245.448	5.2	5.0	2.0	54.4	珸質細粒凝灰岩	

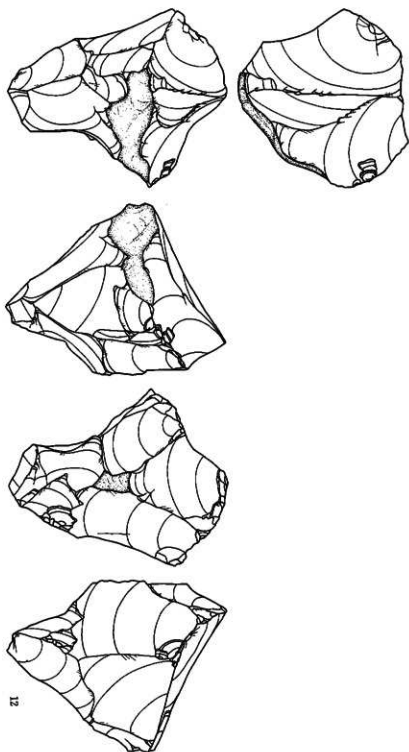
第54図 接合資料 6 (2)



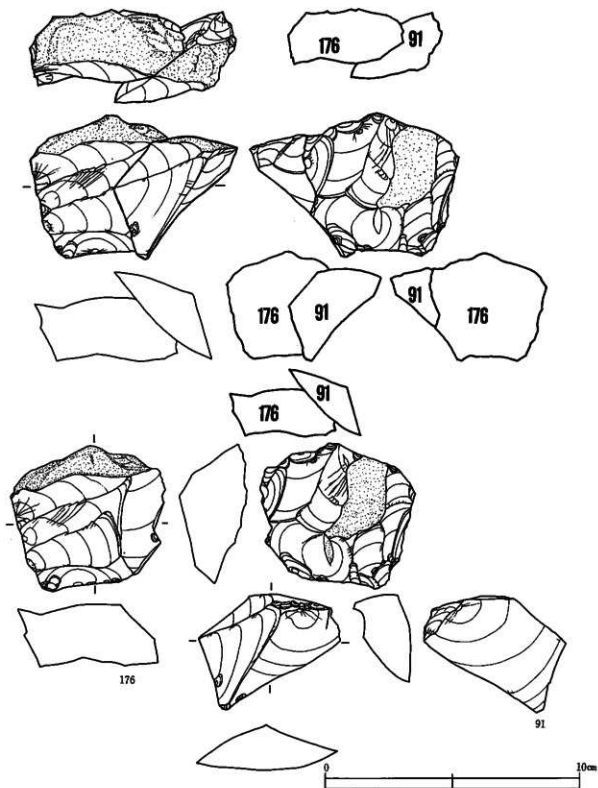
番号	種類	グリッド	層位	標高	長さ	幅	厚さ	重さ	石質	備考
66		II B10 q	III	245.424	5.3	4.2	1.3	15.8	珸質細粒凝灰岩	
417		II B10 q	II		8.6	4.1	1.9	67.1	珸質細粒凝灰岩	
82		II B10 q	III	245.395	6.9	4.0	1.8	41.0	珸質細粒凝灰岩	
108		II B10 q	III下	245.343	5.8	4.8	1.2	31.7	珸質細粒凝灰岩	
115		II B10 q	III	245.393	4.5	3.8	1.4	19.3	珸質細粒凝灰岩	

第55図 接合資料 6 (3)

番号	種	類	フリット	層位	標高	採高	幅	厚さ	重量	石質	備	考
12			II B10 q	III F	265.395	8.6	6.7	6.7	241.9	塊質細粒凝灰岩		



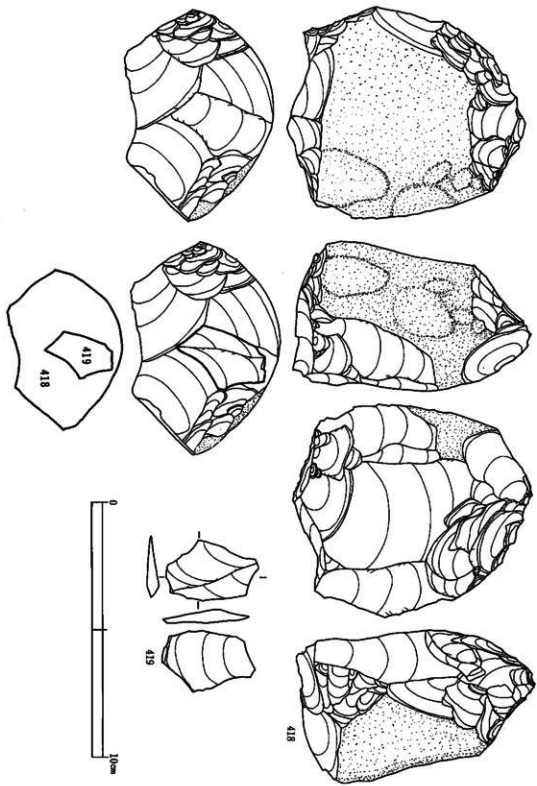
第56図 接合資料6(4)



番号	種 類	グリッド	層位	標高	長さ	幅	厚さ	重さ	石 質	備 考
176		II B11 q	III	245.002	5.5	6.1	2.7	94.9	珪質細粒凝灰岩	
91		II B10 q	III	245.473	5.5	4.0	1.9	34.2	珪質細粒凝灰岩	

第57図 接合資料 7

番号	種 属	タイプ	階位	標本	長さ	幅	厚さ	重量	河 質	備 考
418		HB10 q	II	1	9.3	8.2	3.6	494.0		
419		HB10 q	II	1	3.5	2.3	0.5	3.4		



第58図 接合資料 8

⑧接合資料 8 (第58図、写真図版36)

礫皮面は黄褐色、内面は灰褐色を呈する珪質泥岩である。原礫の全体の形状は不明であるが、 $10 \times 7 \times 6$ cm程の卵に近い形状であったと推定される。資料は剥片 1点と石核状の 1点の合計 2点からなる。接合する成品は得られておらず、作業の目的を知ることができない。

剥ぎ取りの工程は以下の順と考えられる。

419を剥ぐ→418が残る

⑨細石刃 (第59図、写真図版37)

接合資料 1 に属する細石刃以外に、14点の細石刃が出土した。いずれも石質は珪質細粒凝灰岩で、色調や質感から同一の母岩からのものと推定できる。充存品のものはないが最長は18の2.6cmである。幅は6～8mmのものが多い。上端部の残るものには打面の調整のためと思われる調整が観察できる。これは接合資料 1 に属する細石刃にもみられる特徴である。

⑩細石刃核 (第59図、写真図版37)

接合資料 1 に属するもの以外に 1点出土している。石質は珪質細粒凝灰岩であるが、上で述べた細石刃とは異なる母岩のものである。この細石刃核から剥ぎ取られた細石刃は 1点も出土しておらず、剥ぎ取られた細石刃がすべてこの場から持ち去れたか、この細石刃核が残核として他からこの場所に運ばれたと考えられる。形状は円錐形に近く、打面の再生も無く、接合資料 1 に属する細石刃核と同じ技法によるものと考えられる。

⑪サイドスクレイパー (第60図、写真図版37)

接合資料に属する以外に 4点出土している。

72、75、268は横長剥片の片縁に調整を施している。これらはいずれも珪質細粒凝灰岩で、色調、質感から同一母岩の可能性が高い。

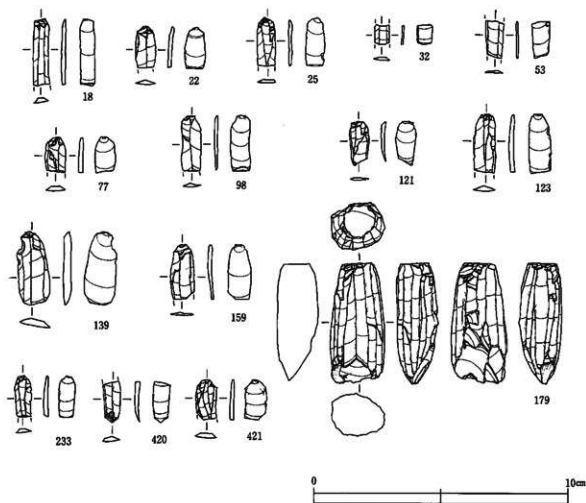
128は縦長剥片の片縁に調整を施している。礫皮面を残しており、石質は硬質泥岩である。

⑫大型の剥片 (第61図、写真図版38)

131は大型の剥片である。石質は珪質細粒凝灰岩で、色調、質感からサイドスクレイパー-72、75、268と同一母岩の可能性が高い。

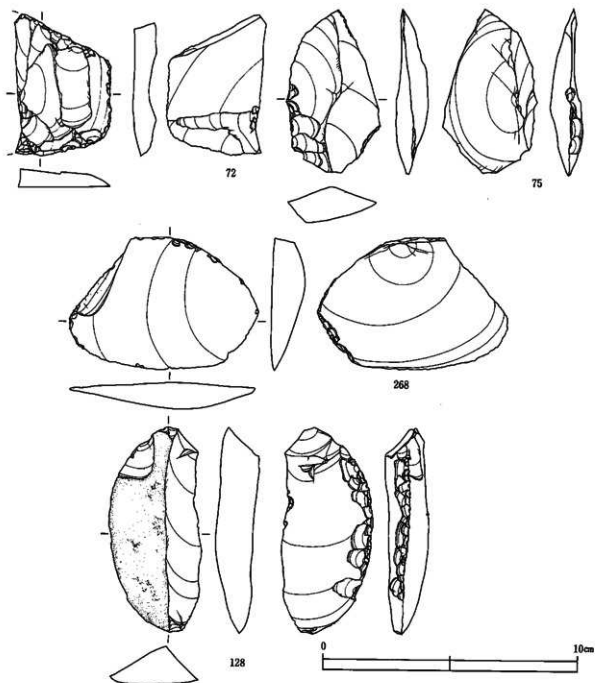
⑬石核 (第62図、写真図版38)

171は握りこぶし大の石核である。2面を除き外皮面が残っている。これからまだ剥片を剥ぎ取るものなのか、剥ぎ取り終わった残核なのか判断できない。



番号	種類	グリッド	層位	標高	長さ	幅	厚さ	重さ	石質	備考
18	細石刃	II B10 q	III	245.442	2.0	0.6	0.2	0.4	珸質細粒凝灰岩	
22	細石刃	II B10 q	III下	245.352	1.6	0.8	0.2	0.2	珸質細粒凝灰岩	
25	細石刃	II B10 q	III	245.460	1.9	0.7	0.1	0.2	珸質細粒凝灰岩	
32	細石刃	II B10 q	III下	245.316	0.7	0.6	0.1	0.1	珸質細粒凝灰岩	
53	細石刃	II B10 q	III下	245.086	1.5	0.7	0.1	0.1	珸質細粒凝灰岩	
77	細石刃	II B10 q	III	245.374	1.3	0.8	0.2	0.2	珸質細粒凝灰岩	
98	細石刃	II B10 q	III	245.483	2.1	0.7	0.1	0.2	珸質細粒凝灰岩	
121	細石刃	II B10 q	III	245.348	1.7	0.8	0.1	0.1	珸質細粒凝灰岩	
123	細石刃	II B10 q	III	245.435	2.3	0.9	0.2	0.4	珸質細粒凝灰岩	
139	細石刃	II B10 q	III	245.278	2.8	1.3	0.3	1.1	珸質細粒凝灰岩	
159	細石刃	II B10 q	III	245.225	2.1	0.9	0.1	0.3	珸質細粒凝灰岩	
233	細石刃	II B10 q	III下	245.337	1.6	0.6	0.2	0.1	珸質細粒凝灰岩	
420	細石刃	II B10 q	II		1.5	0.7	0.2	0.1	珸質細粒凝灰岩	
421	細石刃	II B10 q	II		1.5	0.8	0.2	0.2	珸質細粒凝灰岩	
179	細石刃	II B11 q	II	245.080	4.7	2.2	1.6	22.0	珸質細粒凝灰岩	

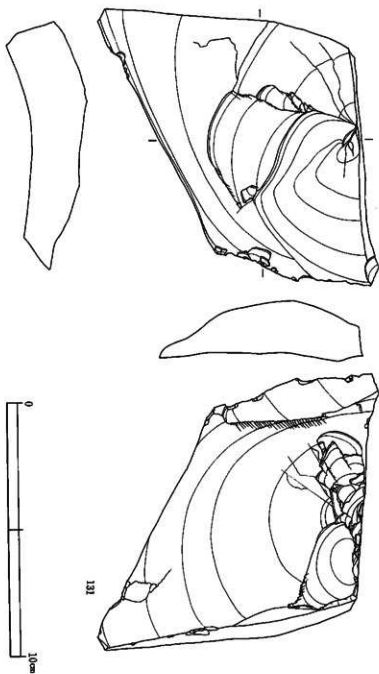
第59図 1ブロック出土石器(1)



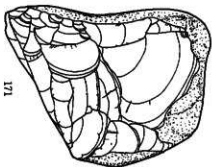
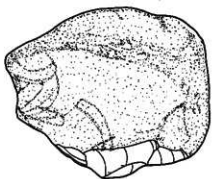
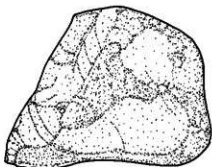
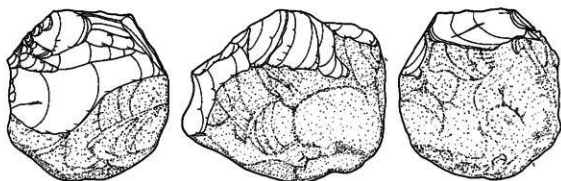
番号	種類	グリッド	層位	標高	長さ	幅	厚さ	重さ	石質	備考
72	サイドスクレイパー	II B10 q	III	245.456	3.7	5.3	0.7	20.8	球質細粒凝灰岩	
75	サイドスクレイパー	II B10 q	III	245.449	6.3	3.5	1.3	20.3	球質細粒凝灰岩	
268	サイドスクレイパー	II B10 q	III下	245.407	5.1	7.3	1.3	40.3	球質細粒凝灰岩	
128	サイドスクレイパー	II B10 q	III	245.407	8.0	3.5	1.5	44.4	硬質泥岩	

第60図 1ブロック出土石器(2)

番号	種	類	フリット	層位	縦長	横長	厚さ	重量	石質	備考
131			II B10 q	III	245.345	9.5	10.0	2.1	253.7	地質調査隊報告



第61図 1ブロック出土石器(3)



番号	種	フリット	層位	標高	長さ	幅	厚さ	重量	石質	備考
171	石	II B10 c	Ⅱ下	245.377	7.8	6.8	6.0	405	柱状結晶	

第62図 1ブロック出土石器(4)

(2) 2ブロックの石器

2ブロックはII B12qグリッドを中心として南北約5m、東西約5mの範囲に分布する。石器は基本層序のIII層から主に出土したが、II層中から出土した石器もある。

出土したのはナイフ4点、エンドスクレイパー6点、彫器1点、石刃6点である。これらの石器は「VI まとめ」の第2文化層の石器に属する。

①ナイフ (第63図、写真図版39)

195は湾曲した石刃を素材にしている。基部の2側縁と先端部の1側縁に調整が施されている。先端部は僅かに欠損している。196は先端がやや尖った石刃を素材にしている。基部が欠損しているが、両側縁には基部から先端まで全縁に調整が施される。207は先端が幅広の石刃を素材にしている。両基部と、両先端部に調整が施されている。209は剝片を素材にしており他のナイフと異なっている。基部は折り取られており、片方の側縁に調整が施されている。

②エンドスクレイパー (第64、65図、写真図版39)

191、194、214、213、216は石刃を素材にして、打面と相対する端部に刃部を作り出している。いずれも刃部は弧状を呈する。この中で191と213は両側縁に調整が施され、他は両側縁に調整が施されていない。

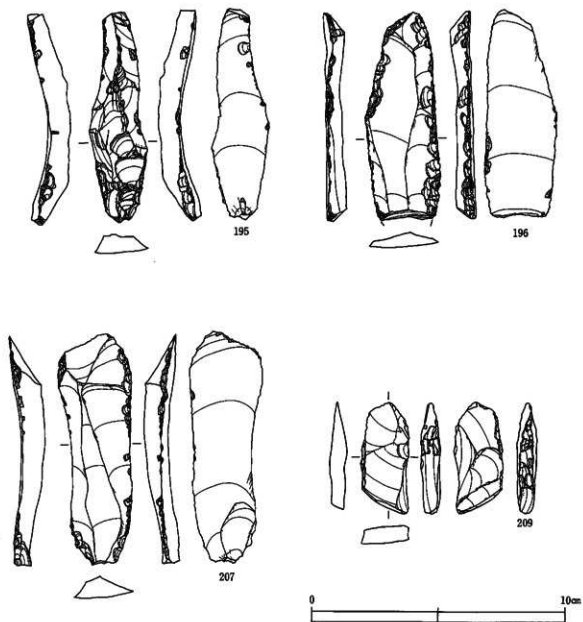
218は円形に近い形状の剝片を素材にしている。刃部は弧状を呈し、両側縁に調整はみられない。

③彫器 (第65図、写真図版39)

180は石刃を素材にして側縁部に彫刀面を作り出している。彫刀面の打面は折り取ることによって作り出されている。彫刀面が作り出されていない側縁と両基部に調整が施されている。

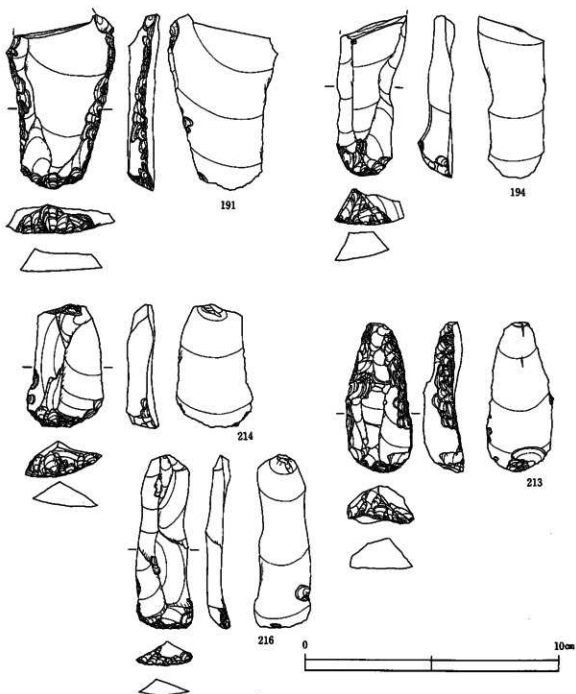
④石刃 (第65、66図、写真図版40)

185は細身の石刃である。192と193は長さ13.7cmの大型の石刃である。192と193は非常に近接して出土した。これが意図的に折りとられたかどうかは判断できない。200は折れている石刃である。これも意図的なものかどうか判断できない。202は外皮面が残っている。205、206は細身の石刃である。210は折れているが意図的なものかどうか不明である。



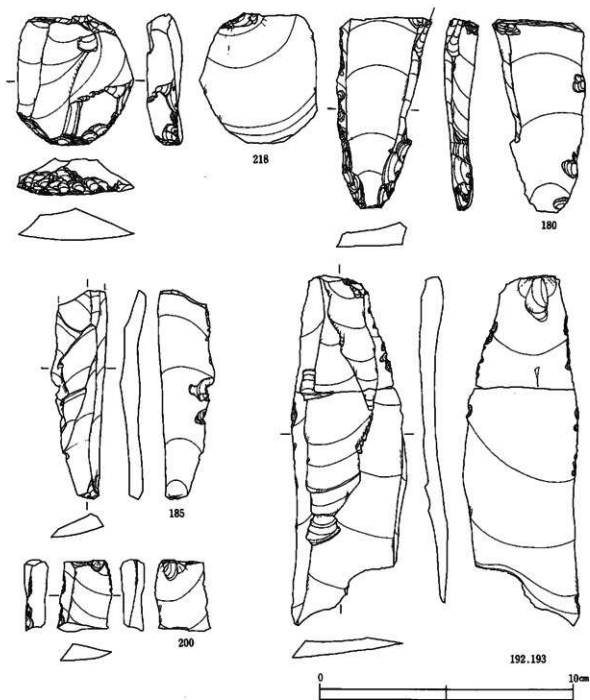
番号	種類	グリッド	層位	標高	長さ	幅	厚さ	重さ	石質	備考
195	ナイフ	II B12 q	III	244.625	8.2	2.1	1.1	16.4	珧質細粒凝灰岩	
196	ナイフ	II B12 q	III	244.596	8.1	2.7	0.6	17.9	凝灰質地質凝灰岩	
207	ナイフ	II B12 q	III	244.617	9.0	2.9	1.1	22.9	珧質泥岩	
209	ナイフ	II B12 q	III	244.668	4.3	1.8	0.8	7.8	珧質細粒凝灰岩	

第63図 2ブロック出土石器(1)



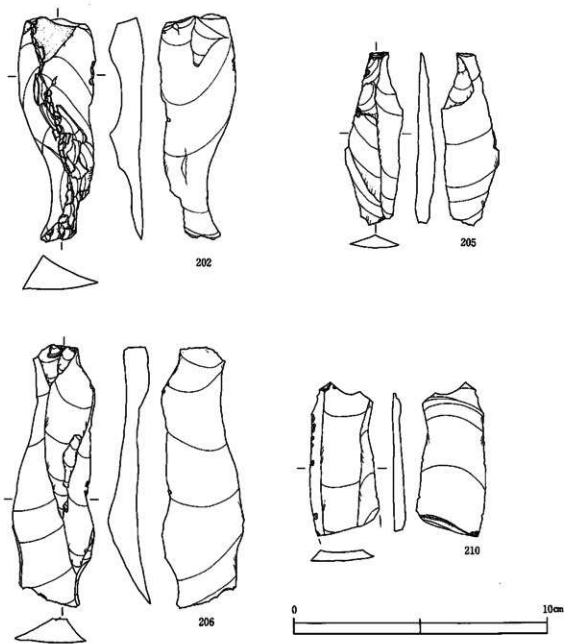
番号	種類	グリッド	層位	標高	長さ	幅	厚さ	重さ	石質	備考
191	エンドスクリンバー	II B12 q	III	244.741	6.9	4.3	1.2	33.5	雑質細粒凝灰岩	
194	エンドスクリンバー	II B12 q	III	244.758	6.3	2.5	1.1	18.4	雑質細粒凝灰岩	
213	エンドスクリンバー	II B12 q	II	244.682	5.8	2.5	1.4	21.3	凝灰質陸質泥岩	
214	エンドスクリンバー	II B12 q	II	244.820	4.7	3.0	0.8	15.3	凝灰質陸質泥岩	
216	エンドスクリンバー	II B12 q	III下	244.687	6.7	2.2	0.6	10.2	凝灰質陸質泥岩	

第64図 2ブロック出土石器(2)



番号	種 類	グリッド	層位	標 高	長さ	幅	厚さ	重さ	石 質	備 考
218	エンドスクレイパー	II B12 q	II	244.733	4.9	4.6	1.2	35.2	礫灰質珪質泥岩	
180	形 器	II B11 q	II	244.870	7.4	3.6	1.2	35.1	珪質泥岩	
185	石 刃	II B11 q	II	245.019	8.1	2.1	0.7	11.4	礫灰質珪質泥岩	
192 193	石 刃	II B12 q	III	244.747(192) 244.739(193)	13.7	4.3	0.8	52.3	珪質泥岩	192(上)、193(下)
200	石 刃	II B12 q	III	244.914	2.7	2.0	0.9	4.9	珪質泥岩	

第65図 2ブロック出土石器(3)



番号	種 類	グリッド	層位	標 高	長さ	幅	厚さ	重さ	石 質	備 考
202	石 刃	II B12 q	II	244.824	8.7	3.0	1.3	28.0	凝灰質珸質泥岩	
205	石 刃	II B12 q	III	244.708	6.7	2.1	0.7	6.3	凝灰質珸質泥岩	
206	石 刃	II B12 q	III	244.700	10.1	3.3	1.2	29.0	珸質泥岩	
210	石 刃	II B12 q	II	244.746	5.9	2.5	0.4	9.0	凝灰質珸質泥岩	

第66図 2ブロック出土石器(4)

(3) ブロック外の石器

1ブロックと2ブロックに属さず、ブロックとしてのまとまりを持たない石器をブロック外の石器として一括する。これらの石器は基本層序のIII層から主に出土したが、II層中から出土した石器もある。

出土したのはナイフ4点、エンドスクレイパー12点、サイドスクレイパー3点、彫器1点、台形様石器1点、くさび形石器2点、石刃9点である。これらの石器は「VI まとめ」の第2文化層の石器に属する。

①ナイフ (第67図、写真図版41)

165は基部がすぼむ石刃を素材にしている。先端部は欠損しており基部の2側縁に調整が施されている。

306は石刃を素材にしている。基部が欠損しているが残った部分から基部の両側縁に調整が施されているのが観察できる。また片側の先端部にも調整が施される。356は先端と基部がすぼむ石刃を素材にしている。基部両縁と片側先端部に調整が僅かに施されている。236は先端と基部がすぼむ石刃を素材にしている。先端部が僅かに欠損している。基部両縁に調整が施されている。

②エンドスクレイパー (第67、78、79図、写真図版41、42)

252、254、260、264、278、296、323、363、364、375は石刃を素材にして、打面と相対する端部に刃部を作り出している。いずれも刃部は弧状を呈する。この中で252、278、296、323は、片側の側縁に調整が施され、363は両側縁に調整が施されている。他は両側縁に調整が施されていない。254は熱を受けている。

362は刃部を打面と相対する面より側縁部の方にややずらして作り出している。他の成品に比べると素材の石刃が肉厚である。

353は円形に近い形状の剝片を素材にしている。刃部は弧状を呈し、片側の側縁の半分ともう片方の側縁の全部に調整が施される。

③サイドスクレイパー (第69、70図、写真図版42)

241は2点の石が接合した。これは意図的に剝離したものと思われるが目的は不明である。他にも剝離したものがあろうと思われ、成品としての形状は損なわれている。側縁部に調整が施されていることから一応サイドスクレイパーとして分類した。284は円形に近い形状の剝片を素材にしている。刃部は側縁から打面に相対する端部の方向に偏して作り出されている。277は不定形の剝片を素材にしている。打面側が欠損し、端部が折り取られている。刃部は片側の側縁に作り出されている。

④彫器 (第70図、写真図版42)

188は石刃を素材にしている。彫刀面は側縁部に作り出されている。彫刀面の打面に調整が施されているが、他には調整がみられない。

⑤台形様石器 (第70図、写真図版42)

52は基部に調整が施されている。

⑥くさび形石器（第70図、写真図版42、43）

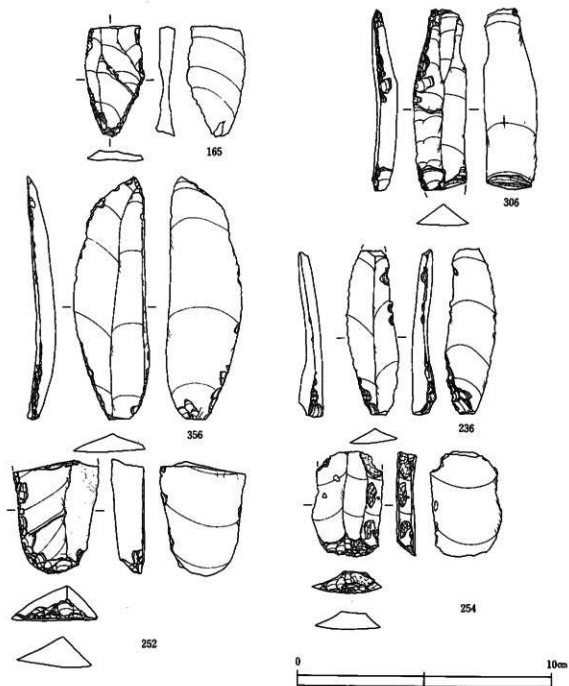
281は不定形の剥片を素材にしている。打面の反対側からの剥離はないがくさび形石器とした。305は縦長の剥片を素材にしている。打面からの剥離とその相対する面からの剥離がみられる。

⑦石刃・剥片（第71、72図、写真図版43）

35は上端と下端が、166は下端が折れているが意図的なものかどうか不明である。240は片側の側縁部の打面側に微細な調整が施されている。242は外皮面がついた石刃である。側縁部に使用痕がみられる。263は端部が尖る石刃である。266は打面と相対する側が欠損しているが石刃と思われる。石質は黒曜石である。282は打面側が削げ、相対する側が折れている。意図的なものかどうかは判断できない。290はやや先端が尖る石刃である。裏面の側縁にみられる調整状のものは新しい傷である。365は石刃である。側縁部に使用痕がみられる。

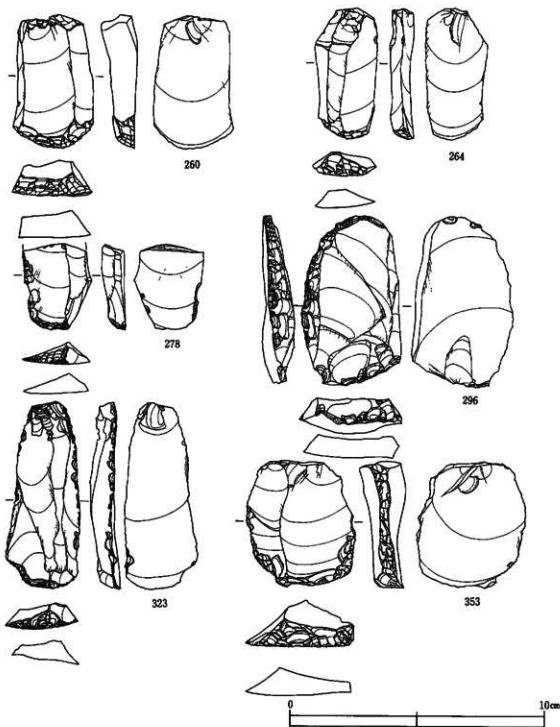
（4）I C 18 g、I C 19 f グリッドで出土した石器（第72図、写真図版43）

上記の石器群とは離れてI C 18 gとI C 19 f グリッドでエンドスクレイパーが出土した。422、423は石刃を素材にしている、刃部は弧状を呈する。



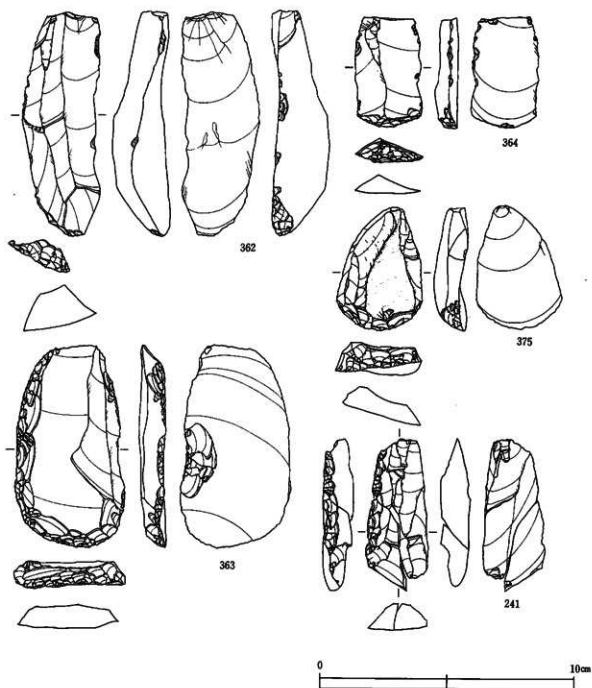
番号	種類	グリッド	層位	標高	長さ	幅	厚さ	重さ	石質	備考
165	ナイフ	II B10 p	III	245.178	4.3	2.3	0.5	6.8	凝灰質珪質泥岩	
306	ナイフ	II B11 t	III	245.250	7.0	2.1	1.0	12.8	凝灰質珪質泥岩	
356	ナイフ	II B9 s	III下	245.636	9.4	2.9	0.6	18.7	凝灰質珪質泥岩	
236	ナイフ	II B10 r	III	245.621	6.4	1.9	0.9	7.2	凝灰質珪質泥岩	
252	エンドスクレイパー	II B10 s	III	245.566	4.4	3.3	1.1	18.1	凝灰質珪質泥岩	
254	エンドスクレイパー	II B10 s	II	245.617	4.0	2.7	0.7	9.5	珪質泥岩	

第67図 ブロック外出土石器(1)



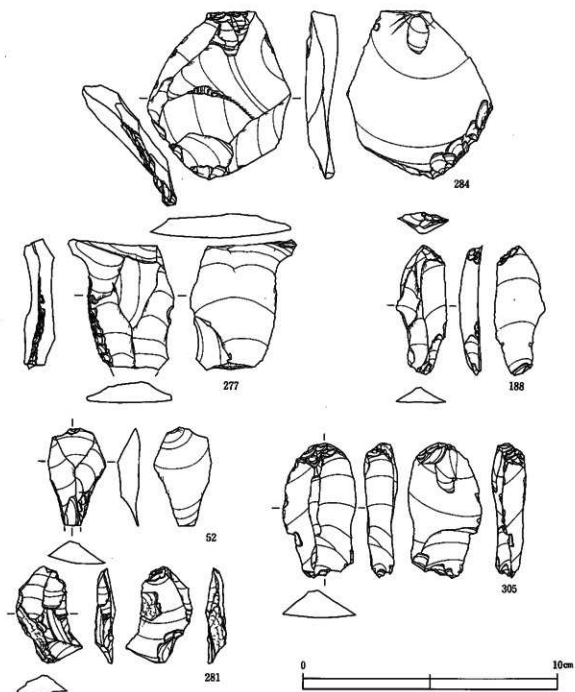
番号	種 類	グリッド	層位	標 高	長さ	幅	厚さ	重さ	石 質	備 考
260	エンドスクレイパー	HB10 s	II	245.667	5.1	3.0	1.3	24.2	玉 髓	
264	エンドスクレイパー	HB11 r	III	245.372	5.1	2.4	0.8	11.7	珧質泥岩	
278	エンドスクレイパー	HB9 r	III	245.766	3.2	2.6	0.8	6.8	珧質細粒凝灰岩	
296	エンドスクレイパー	HB10 t	II	245.598	6.5	3.9	1.3	35.8	珧質細粒凝灰岩	
323	エンドスクレイパー	HB11 t	III	245.299	7.2	2.8	0.7	19.2	珧質泥岩	
353	エンドスクレイパー	HB11 u	III	245.392	4.9	4.1	1.5	29.7	珧質泥岩	

第68図 ブロック外出土石器(2)



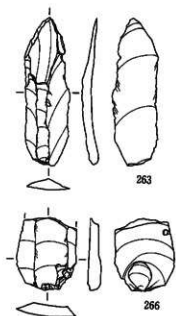
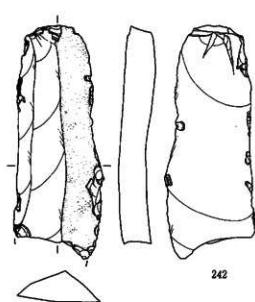
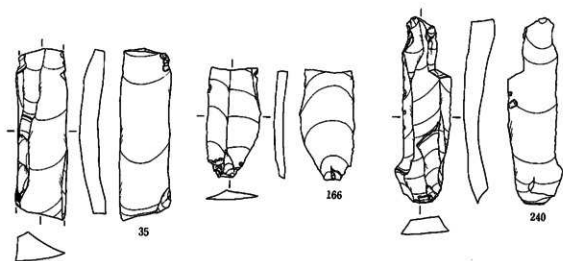
番号	種類	グリッド	層位	標高	長さ	幅	厚さ	高さ	石質	備考
362	エンドスクレイパー	II B 9 r	I		6.7	2.9	2.1	42.5	硬質泥岩	
363	エンドスクレイパー	II B13 s	II	244.864	7.8	4.3	1.0	48.1	凝灰質珪質泥岩	
364	エンドスクレイパー	II B 9 s	III下	245.635	4.3	2.6	0.9	10.5	珪質泥岩	
375	エンドスクレイパー	II B13 q	II	245.265	4.7	3.3	1.1	18.8	珪質泥岩	
241	サイドスクレイパー	II B10 r	III	245.630	5.9	2.3	1.1	16.0	凝灰質珪質泥岩	II B10 r II層出土のもの(小さい方)と整合

第69図 ブロック外出土石器(3)



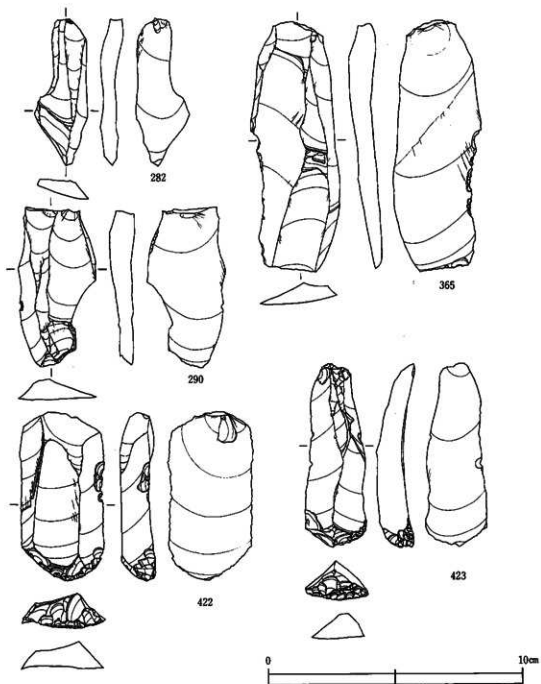
番号	種類	グリッド	層位	標高	長さ	幅	厚さ	重さ	石質	備考
284	サイドスクレイパー	II B11 s	III下	245.163	6.5	5.6	1.2	38.9	凝灰質砂質泥岩	
277	サイドスクレイパー	II B 9 r	III	245.670	4.7	3.2	1.1	20.6	凝灰質砂質泥岩	
188	形器	II B12 p	II	244.385	5.0	1.9	0.7	6.1	硬質泥岩	
52	台形礫石器	II B10 q	III	245.190	3.7	2.3	0.8	5.5	硬質泥岩	
281	くさび型石器	II B11 s	III	245.335	3.7	2.0	0.7	5.1	硬質泥岩	
305	くさび型石器	II B11 t	III	245.120	5.2	2.8	1.3	15.3	硬質泥岩	

第70図 ブロック外出土石器(4)



番号	種類	グリッド	層位	標高	長さ	幅	厚さ	重さ	石質	備考
35	石刃	II B10 q	III下	245.192	6.6	1.9	0.7	15.1	珉質泥岩	
166	石刃	II B10 p	III	245.152	4.3	2.1	0.4	4.0	凝灰質珉質泥岩	
240	石刃	II B10 r	III	245.322	7.3	1.9	0.9	14.8	凝灰質珉質泥岩	
242	石刃	II B10 e	III	245.528	9.0	3.5	1.2	43.4	凝灰質珉質泥岩	
263	石刃	II B10 s	III	245.486	5.7	1.7	0.4	4.3	凝灰質珉質泥岩	
266	石刃	II B11 r	III下	245.189	2.8	2.3	0.5		黒曜石	

第71図 ブロック外出土石器(5)



番号	種類	グリッド	層位	標高	長さ	幅	厚さ	重さ	石質	備考
282	石 刃	II B11 s	III	245.051	5.7	2.0	0.7	7.1	雑質細粒凝灰岩	
290	石 刃	II B10 t	III	245.448	6.1	3.1	1.0	15.6	雑質細粒凝灰岩	
365	石 刃	II B9 s	IV	245.510	9.5	3.2	1.0	34.4	凝灰質珪質泥岩	
422	エンドスクレイパー	I C19 f	I		6.5	3.3	1.1	32.5	凝灰質珪質泥岩	
423	エンドスクレイパー	I C18 g			7.1	2.4	1.2	16.8	凝灰質珪質泥岩	1号住居埋土出土

第72図 ブロック外出土石器(6)

2 縄文時代の遺構と遺物

(1) 遺構と出土遺物

① 1号竪穴住居跡 (第73～75図、写真図版18、19、44)

【位置】 I C19g、hグリッドに位置する。

【平面形】 北壁と東壁が削平のため失われているが長軸4.2m、短軸3mほどの隅丸長方形のプランと推定される。

【壁】 残存状態が非常に悪く、上述のように北壁と東壁が削平のため失われている。最も残っている西壁では高さ12cmを数える。立ち上がりはほぼ垂直である。

【床面】 概ね平坦である。

【埋土】 埋土は非常に薄いが4層に分けられた。自然堆積、人為堆積の別は判断できない。

【柱穴】 12個検出された。この内P1とP9、P8とP10、P11とP12はそれぞれ前後関係を持って重複しており、同時存在の柱穴は9個である。重複関係からP1、P10、P12がそれぞれ新しい。

【炉】 住居の中央付近に130cm×50cmの焼土の広がりが見られ炉と考えられる。この焼土の下にはP11が有り、このピットを埋めて炉が構築されていると判断できる。

【出土遺物】 床面から土器、石器、土製品が出土している。これらはP11付近に集中していた。1～8は接合することができなかったが同一個体の土器である。かなりの大形の深鉢と推定される。文様はR L縄文を施し、体部上半には「ノ」又は「L」字状の無文帯がみられ、無文帯の組合せ部には隆線が貼付されそれに沿って刺突が施されている。口縁部は得られた破片でみれば平縁である。9は全面にR L縄文が施された深鉢である。小破片からの推定で正確かもしれないが最大径を胴部中央に持っていると思われる。底辺部は篋状の工具で強くなでられている。10は小型の深鉢である。沈線による文様が施されている。11と12は同一個体である。縦位のL燃糸文が施されている。器形は深鉢であろう。13、14、15は棒状の形状で、片面に刺突を施した土製品である。15は一方の端部がめくれている。これらは同一個体である可能性が高いが、断定はできない。用途、製品名は不明である。16は床面の北側で出土した磨石である。表裏面に磨りがみられる。

【時期】 床面から出土した土器から、住居の所属時期は大木10式期、縄文時代中期末と考えられる。

② 1号陥し穴状土坑 (第76図、写真図版20)

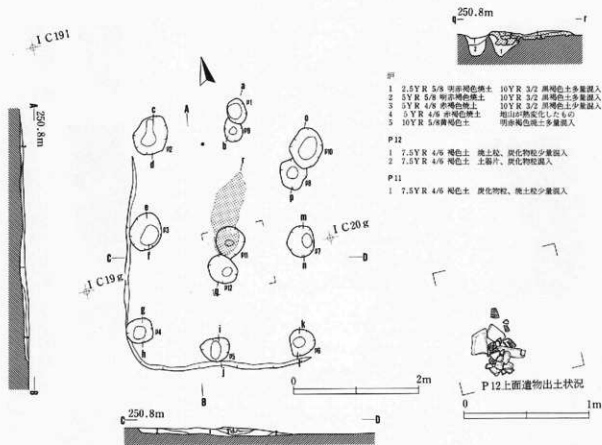
【位置】 II B11s、II B12sグリッドに位置する。

【平面形】 長さ228cm、幅40cmの溝状のプランである。

【壁】 南西端と北東端の底面が掘り込み面より奥に入っており、その部分の壁は斜めに立ち上がっている。他の部分は概ね垂直に立ち上がっている。確認面からの深さは66cmを数える。

【埋土】 埋土は3層に分けられた、自然堆積と思われる。

【時期】 縄文時代のもと考えられるが、詳しい時期を特定できる事象はなかった。



- 1 10Y R 4/2 灰黃褐色土
- 2 10Y R 4/2 灰黃褐色土
- 3 2.5Y R 6/8 棕色土
- 4 10Y R 4/2 灰黃褐色土
- 10Y R 5/6 黃褐色土少量混入
- 10Y R 5/6 黃褐色土少量混入
- 灰黃褐色土少量混入
- 棕色土少量混入

P 9

- 1 2.5Y R 5/8 灰赤褐色土
- 2 5Y R 5/8 灰赤褐色土
- 3 5Y R 4/8 赤褐色土
- 4 5Y R 4/8 赤褐色土
- 5 10Y R 5/8 黃褐色土
- 10Y R 3/2 黑褐色土少量混入
- 10Y R 3/2 黑褐色土少量混入
- 10Y R 3/2 黑褐色土少量混入
- 10Y R 3/2 黑褐色土少量混入
- 明赤褐色土少量混入

P 12

- 1 7.5Y R 4/6 褐色土
 - 2 7.5Y R 4/6 褐色土
- 土層紋、炭化物粒少量混入
土層片、炭化物粒混入

P 11

- 1 7.5Y R 4/6 褐色土
- 炭化物粒、燒土粒少量混入

- 1 10Y R 2/2 黑褐色土
- 2 10Y R 2/2 黑褐色土
- 3 10Y R 2/2 黑褐色土
- 4 10Y R 5/6 黃褐色土
- 10Y R 3/2 黑褐色土少量混入
- 10Y R 3/2 黑褐色土少量混入
- 10Y R 3/2 黑褐色土少量混入
- 10Y R 2/2 黑褐色土少量混入

- 1 10Y R 3/2 黑褐色土
 - 2 10Y R 2/1 黑色土
 - 3 10Y R 3/2 黑褐色土
- 10Y R 2/1 黑色土少量混入
10Y R 2/1 黑色土
10Y R 2/1 黑色土

- 1 10Y R 2/1 黑色土
- 2 10Y R 4/4 褐色土
- 3 10Y R 3/2 黑褐色土
- 4 10Y R 5/6 黃褐色土
- 10Y R 3/2 黑褐色土少量混入
- 10Y R 3/2 黑褐色土少量混入
- 10Y R 3/2 黑褐色土少量混入
- 10Y R 2/2 黑褐色土

- 1 10Y R 2/1 黑色土
- 2 10Y R 4/4 褐色土
- 3 10Y R 3/2 黑褐色土
- 10Y R 3/2 黑褐色土少量混入
- 10Y R 3/2 黑褐色土少量混入
- 10Y R 4/4 褐色土少量混入

- 1 10Y R 3/2 黑褐色土
- 2 10Y R 5/6 黃褐色土
- 3 10Y R 2/2 黑褐色土
- 10Y R 2/1 黑色土少量混入
- 10Y R 3/2 黑褐色土少量混入

- 1 10Y R 3/2 黑褐色土
- 2 10Y R 4/4 褐色土
- 10Y R 3/2 黑褐色土少量混入

- 1 10Y R 2/1 黑色土
- 2 10Y R 2/1 黑色土
- 3 10Y R 3/2 黑褐色土
- 4 10Y R 5/6 黃褐色土
- 10Y R 3/2 黑褐色土少量混入
- 10Y R 3/2 黑褐色土少量混入
- 10Y R 3/2 黑褐色土少量混入
- 10Y R 3/2 黑褐色土少量混入

- 1 10Y R 3/2 黑褐色土
 - 2 10Y R 2/1 黑色土
 - 3 10Y R 3/2 黑褐色土
- 10Y R 2/1 黑色土少量混入
10Y R 2/1 黑色土
10Y R 5/6 黃褐色土少量混入

- 1 10Y R 3/2 黑褐色土
- 2 10Y R 2/1 黑色土
- 3 10Y R 5/6 黃褐色土
- 10Y R 2/1 黑色土少量混入
- 10Y R 2/1 黑色土少量混入
- 10Y R 3/2 黑褐色土少量混入

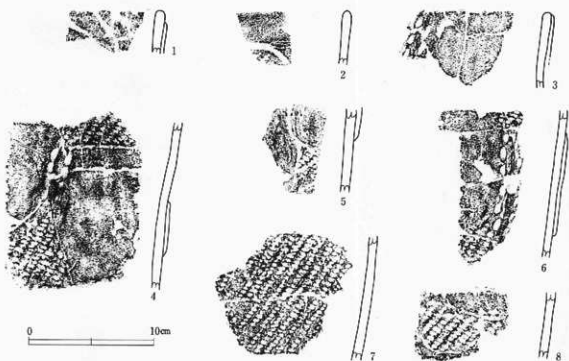
- 1 10Y R 2/1 黑色土
- 2 10Y R 3/2 黑褐色土
- 3 10Y R 2/2 黑褐色土
- 10Y R 3/2 黑褐色土少量混入
- 10Y R 2/1 黑色土少量混入
- 10Y R 2/1 黑色土少量混入

- 1 10Y R 2/1 黑色土
 - 2 10Y R 2/2 黑褐色土
- 10Y R 3/2 黑褐色土少量混入
10Y R 2/1 黑色土少量混入

- 1 10Y R 2/1 黑色土
 - 2 10Y R 3/2 黑褐色土
- 10Y R 5/6 黃褐色土少量混入
10Y R 5/6 黃褐色土少量混入

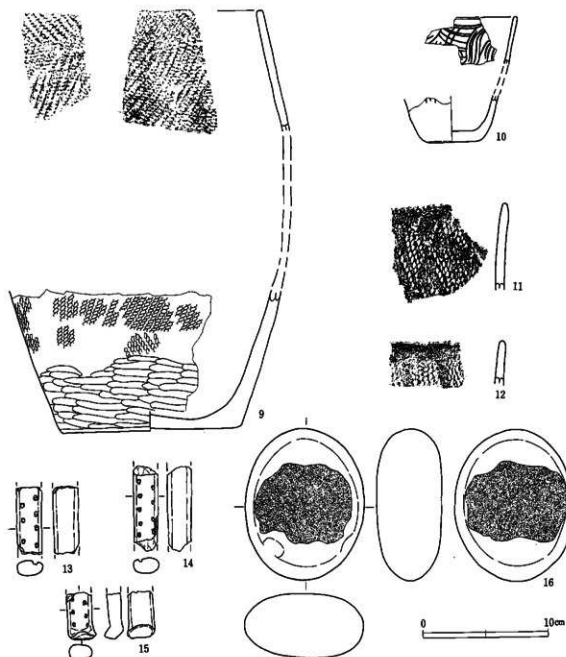
- 1 10Y R 2/1 黑色土
- 2 10Y R 4/4 褐色土
- 3 10Y R 2/1 黑色土
- 10Y R 3/2 黑褐色土少量混入
- 10Y R 3/2 黑褐色土少量混入
- 10Y R 3/2 黑褐色土少量混入

第73圖 1号住居跡



番号	出土位置	層位	器高	口径	底径	施文原体・文様	時期・型式	備考
1	床面	—	3.3	—	—			2～8と同一個体 口縁部破片
2	床面	—	3.9	—	—	単筋 RL		1, 3～8と同一個体 口縁部破片
3	床面	—	5.5	—	—			1, 2, 4～8と同一個体 口縁部破片
4	床面直上	—	13.1	—	—	単筋 RL		1～3, 5～8と同一個体 体部上半破片
5	床面	—	6.6	—	—	単筋 RL		1～4, 6～8と同一個体 体部上半破片
6	床面	—	11.4	—	—	単筋 RL		1～5, 7, 8と同一個体 体部上半破片
7	床面	—	9.9	—	—	単筋 RL		1～6, 8と同一個体 体部下半破片
8	床面	—	5.1	—	—	単筋 RL		1～7と同一個体 体部下半破片

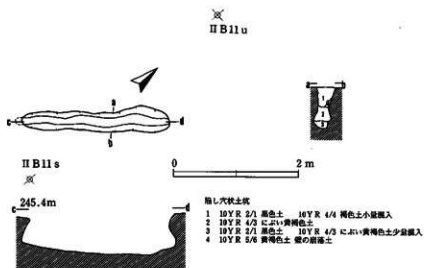
第74図 1号住居跡出土遺物(1)



番号	出土位置	層位	器高	口径	底径	施文原形・文様	時期・型式	備考
9	口縁部埋土中 底面床面	—	11.8以上	—	14.8	単筋 RL		
10	床面	—	約9.8	—	4.9	沈線		
11	埋土中	—	6.7	—	—	擦糸		12と同一個体
12	床面	—	3.9	—	—	擦糸		11と同一個体
13	床面	—	5.1	—	—	刺突	製品名不明	
14	Fit 2 埋土中	—	6.7	—	—	刺突		製品名不明
15	Fit 2 埋土中	—	3.7	—	—	刺突		製品名不明

番号	種類	グリッド	層位	ブロック	長さ	幅	厚さ	重さ	石質	備考
16	磨石	床面	—	—	12.1	9.6	5.1	910.0	安山岩	

第75図 1号住居跡出土遺物(2)

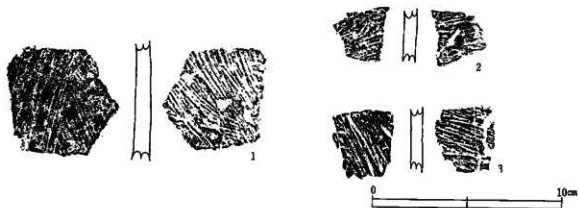


第76図 1号陥し穴状土坑

(2) 遺構外の出土遺物

①土器 (第77図、写真図版44)

1～3は内外面に条痕が施されている。工具は特定できない。いずれも胎土に繊維を含まない。同一個体の可能性も考えられる。時期は縄文時代早期の可能性が考えられるが断定できない。



番号	出土位置	層位	器高	口径	底径	施文原体・文様	時期・型式	備考
1	I C17 k	Ⅲ	6.1	—	—	条痕文		
2	I C12 j	Ⅲ	2.6	—	—	条痕文		
3	I C15 l	Ⅲ	3.5	—	—	条痕文		

第77図 縄文時代の土器

②石器（第78～82図、写真図版45～47）

1～18はⅠC区で出土した寛状石器である。いずれも両面に調整が施されている。時期は特定できないが縄文時代でも前半代のもと考えられる。

19、20は石鏃である。ともに無茎鏃である。21、22は石鏃である。21は細身の棒状の形態、22は刺片の一端に調整を施して銼部を作り出している。23～25は石匙である。いずれも縦型石匙である。26、27は一方の側縁に刃部が作り出されておりスクレイパーとして分類した。28～32は寛状石器であるが、旧石器が出土したⅡB区で出土したものである。旧石器が出土したⅢ層から出土したものはないが、旧石器もⅡ層中から出土しているものもあり、これらが旧石器に属する可能性も若干ある。だがやはり縄文時代に属すると考えた方が妥当であろう。28、29、32は両面に調整が施され、30、31は表面にのみ調整が施されている。

3 弥生時代の遺物

(1) 出土遺物

弥生時代に属する土器がⅠC区で出土し、石器がⅡB区で出土している。遺構は検出されなかった。

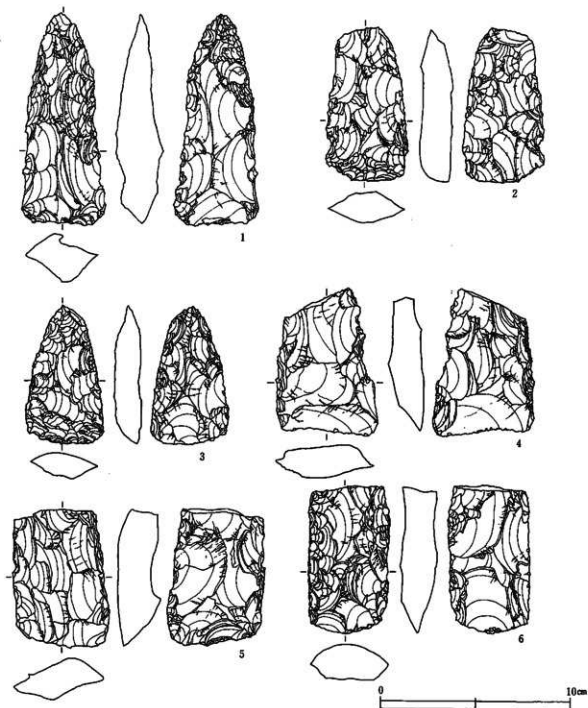
①土器（第83図、写真図版48）

1は1次調査で出土したものであるが、ここで他の土器と合わせて掲載した。深鉢形土器であり、体部には磨消縄文が施される。口唇部には刻み目が施され、単位は不明であるが口縁に突起がある。2は深鉢形土器である。体部にはRL縄文が施され、頭部には磨消縄文が施される。口縁部は縄文を下地に沈線で文様が描かれている。3は深鉢形土器と思われる。燃糸文が施される。4は深鉢形土器の底部と思われる。RL縄文が施される。5は蓋と思われる。燃糸文が施される。

これらの土器は弥生時代の後半のものと思われる。

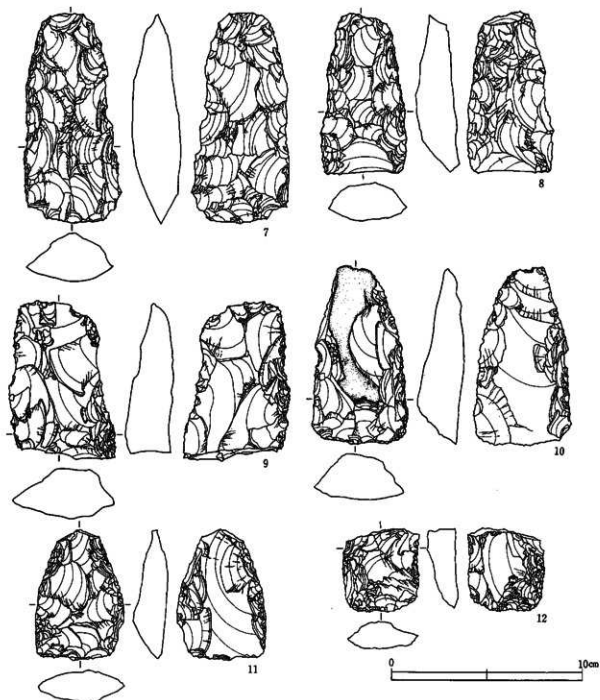
②石器（第83図）

6はいわゆるアメリカ式石鏃である。上記の弥生時代の土器とそれほど離れて出土したわけではないが、伴うものかどうかは判断できない。



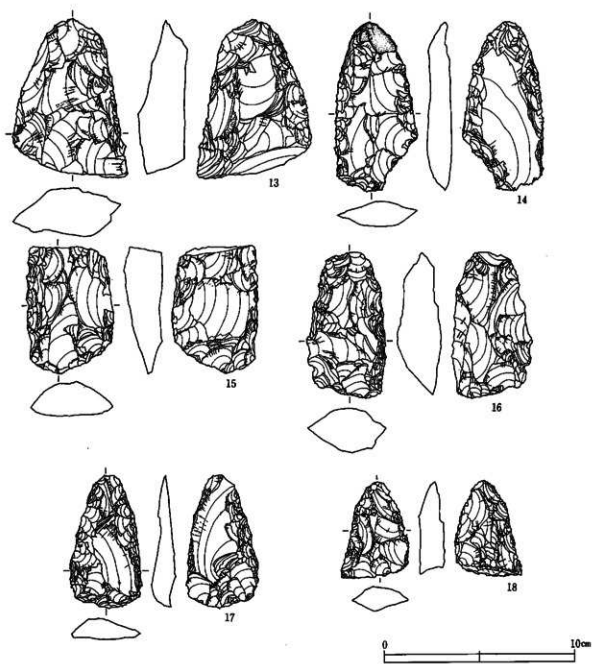
番号	種類	グリッド	層位	ブロック	長さ	幅	厚さ	重さ	石質	備考
1	薮杖石器	I C14 m	II~III		11.3	4.5	2.5	31.8	硬質泥質礫灰岩	
2	薮杖石器	I C14 k	I		8.1	4.4	1.7	70.4	硬質泥岩	
3	薮杖石器	I C13 l	II		7.3	4.1	1.4	43.4	硬質泥質礫灰岩	
4	薮杖石器	I C8 k	II		7.8	5.4	1.8	66.3	硬質泥質礫灰岩	
5	薮杖石器	I C17 l	II		7.3	5.1	1.7	87.8	ホルンフェルス	
6	薮杖石器	I C2 h	I		7.7	4.3	2.0	84.9	硬質礫灰質泥岩	

第78図 縄文時代の石器(1)



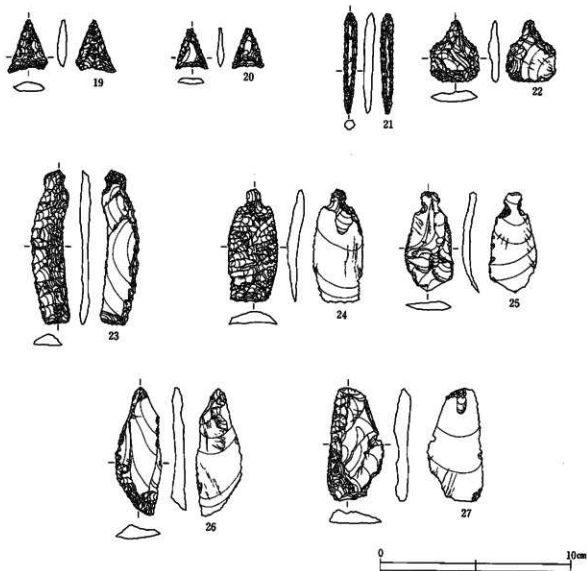
番号	種類	グリッド	層位	ブロック	長さ	幅	厚さ	重さ	石質	備考
7	笄状石器	I C16 j	II		11.1	5.2	2.6	128.9	硬質凝灰質泥岩	
8	笄状石器	I C15 i	II		8.5	4.5	2.1	78.9	硬質凝灰質泥岩	
9	笄状石器	I C17 n	II		10.4	5.5	2.6	101.3	硬質凝灰質凝灰岩	
10	笄状石器	I C13 j	II		9.3	5.1	2.3	91.9	硬質凝灰質凝灰岩	
11	笄状石器	I C13 o	II		6.9	4.6	1.8	56.2	硬質泥岩	
12	笄状石器	I C16 j	II		5.6	4.0	1.5	30.1	硬質泥岩	

第79図 縄文時代の石器(2)



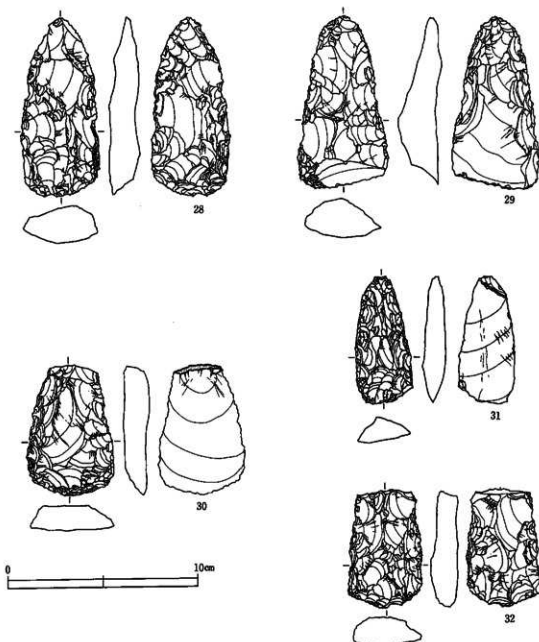
番号	種類	グリッド	層位	ブロック	長さ	幅	厚さ	重さ	石質	備考
13	鹿状石器	IC13 o	II		8.3	6.1	2.6	127.9	硬質泥岩	
14	鹿状石器	IC17 i	II		8.9	4.3	1.2	51.9	ホルンフェルス	
15	鹿状石器	IC15 i	II		6.8	4.6	2.1	72.6	硬質磁灰質泥岩	
16	鹿状石器	IC17 i	II		7.7	4.2	2.3	74.5	硬質泥岩	
17	鹿状石器	IC16 f	II		7.0	3.8	1.2	25.7	硬質磁灰質泥岩	
18	鹿状石器	IC23 f	I		5.0	3.5	1.3	23.1	硬質磁灰質泥岩	

第80図 縄文時代の石器(3)



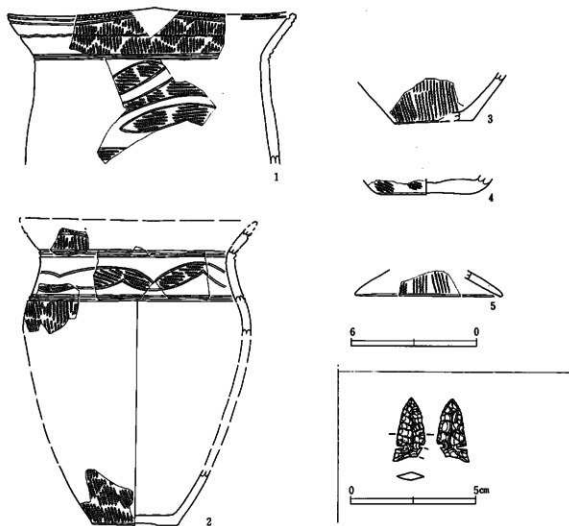
番号	種類	グリッド	層位	ブロック	長さ	幅	厚さ	重さ	石質	備考
19	石鏃	IC18 g	I		2.8	2.1	0.5	1.6	硬質凝灰質泥岩	
20	石鏃	IC21 e	I		2.1	1.7	0.3	0.7	硬質泥岩	
21	石鏃	IC21 i	II		5.3	0.7	0.5	2.1	硬質泥岩	
22	石鏃	IC12 j	I		3.2	2.6	0.5	4.3	硬質凝灰質泥岩	
23	石匙	IC14 i	II		8.1	1.7	0.6	9.2	硬質泥岩	
24	石匙	IC18 n	I		5.9	2.6	5.5	9.7	硬質泥質凝灰岩	
25	石匙	IC14 h	—		5.3	2.5	0.4	4.8	塊質細粒凝灰岩	風割水中から出土
26	スクレイパー	IC16 i	II		6.8	2.4	0.7	10.8	粘板岩	
27	スクレイパー	IC21 b	I		5.9	3.0	7.5	13.6	硬質泥岩	

第81図 縄文時代の石器(4)



番号	種 類	グリッド	層位	ブロック	長さ	幅	厚さ	重さ	石 質	備 考
28	鹿状石器	II B11 p	II		9.4	4.1	1.6	61.5	硬質泥岩	
29	鹿状石器	II B11 q	II		9.1	4.7	2.0	67.2	硬質泥質礫灰岩	
30	鹿状石器	II B11 u	II下		6.9	4.6	1.4	49.6	硬質泥質礫灰岩	
31	鹿状石器	II B10 r	II		6.7	3.0	1.1	22.1	硬質礫灰質泥岩	
32	鹿状石器	II B12 s	II		5.2	3.9	1.5	38.2	硬質礫灰質泥岩	

第82図 縄文時代の石器(5)



番号	出土位置	層位	器高	口径	底径	施文原体・文様	時期・型式	備考
1			12.1	22.2	—	単節 RL		
2	IC 21 20	I	約24.5	—	7.4	単節 RL		
3	IC 171	I	3.6	—	6.4	撚糸文		
4	IC 11 f	I	1.3	—	7.8	単節 RL		
5	IC 11 f	I	2.0	—	11.8	撚糸文		

番号	種類	グリッド	層位	ブロック	長さ	幅	厚さ	重さ	石質	備考
6	石鏃	IB4w	II		2.5	1.3	0.3	0.63	細粒珪質礫灰岩	

第83図 弥生時代の土器・石器

VI ま と め

1. はじめに

耳取I遺跡は岩手県和賀郡湯田町第49地割2-22に位置する。本遺跡の発掘調査は平成5年6月1日から足掛け2ヶ年にわたって実施され、平成6年8月20日をもってすべて完了した。本遺跡は北上川の支流、和賀川中流域の洪積下位段丘上に位置し、地形学的には開析扇状地である。文化層は、後期旧石器時代後半から縄文時代前期、弥生時代の各期に渡る開地複合遺跡となっている。本報告では、検出された遺構、遺物について整理研究を進め、記載を中心に要旨を報告書とした。

旧石器時代に関しては、現地調査時において遺物包含層を検討する機会があり、隣接する大台野遺跡群、大波II遺跡、峠山牧場I遺跡、愛宕山遺跡、和賀仙人遺跡との層序関係を検討した。その結果、今次調査によって広域火山灰層ATとの層序関係こそ把握できなかったが、第1～第3文化層として層位と石器組成の異なる遺物集中区を検出することに成功している。とくに細石刃文化期の遺物集中区については剥片剝離によって残核が円筒形細石刃核となる接合資料を提供している点で注目されよう。以下には、遺跡立地と文化層の層準、各文化層の石器組成と石器制作技術について要記する。

2. 遺物立地と文化層の層準

本遺跡は、和賀川中流域の洪積下位段丘群のうち、川尻上位面(中川ほか、1963)、大台野面(豊島、1993)に立地し、北上川中流域の金ヶ峰面(中川ほか、1963)および花泉段丘(中川ほか、1963)に対比される。遺物集中区は、和賀川南岸の段丘崖上に位置し東西方向に列状分布する。なお、段丘面は南側の浅いV字谷から供給された崖錐状の扇状地性乱堆積層によって被覆される。第IV層は川尻上位段丘の段丘礫層を構成し、前述した崖錐性の扇状地堆積層は川尻低位段丘の段丘礫層に漸移する。本遺跡における旧石器時代の遺物包含層の層準は、第1文化層が第III層(シルト質砂層)中下部、第2文化層が第III層上部、第3文化層は第II層下部であり、第I、II、III層の間にはグアイステムが認められる。

3. 各文化層の石器組成と石器制作技術

各文化層の遺物集中区は第1文化層が1地点、第2文化層が1地点、第3文化層が1地点である。遺物集中区の分布は何れも不正楕円形を呈し、当時の旧河床面がつくる自然堤防および扇状地の扇端から扇側に向けた平坦面と調和的な配列関係にある。

〔第1文化層〕〔IVA区〕

第1文化層の石器組成は、台形礫石器(1点)、エンドスクレイパー(3点)、石刃(1点)、ナイフ(1点)、合計5点からなる。本文化層の剥片剝離技術は数量が少なく詳細は不明である。しかし、第1・2図に図示した台形礫石器は、求心状の剝離面が背面を構成する点で特色がある。また、剥片は調整打面を持つ巾広の縦長剥片である。

〔第2文化層〕〔IIB区〕

本文化層はIIB区北側調査区全面に遺物が散在分布し、完成された石器と使用痕のある石刃が多い。遺物集中範囲は、平成5年調査区と平成6年調査区の2区画であり、後者がとくに著しい。分布形状は不正楕円形を呈し、規模は40m×20mである。調査区全体の石器組成は、ナイフ形石器(15点)、彫刻刀形石器(12点)、

エンドスクレイパー (32点)、サイドスクレイパー (9点)、くさび型石器 (11点)、石刃 (47点)、剥片 (3点)、台形様石器 (1点)、合計130点である。

剥片剥離技術は得られている石刃の背面構成と、主要剥離面および打面の特徴から両設打面をもつ円筒形石核を想定できる。しかし、第1文化層にみられた球形の剥離面が背面を構成する剥片を石器素材としたものはない。

[第3文化層] [II B区]

本文化層は平成6年度調査西端に密集分布し、多量の石核調整剥片と厚手巾広の縦長剥片が多い。石器組成は、細石刃 (18点)、細石刃核 (2点)、サイドスクレイパー (9点)、エンドスクレイパー (2点)、剥片 (77点)、石核 (2点)、合計110点である。

本文化層の剥片剥離技術は、第34図～第58図の接合資料等に明らかで、108の円筒形細石刃核(暗褐色硬質細粒泥岩製細石刃核)と147の細石刃 (1点) が接合し、その外側に多数の剥片が接合する。また、8点の細石刃は、巾広で2～3点に分割され、側辺部には使用痕が認められる。

特に、108の接合展開は第34図に図示されているが、両こぶし大の河床礫を調整分割し中心部に残る厚手巾広の縦長剥片 (長さ) 6 cm × (巾) 4 cm × (厚さ) 3 cm) を素材とする細石刃核である。この剥片の横断面形は二等辺三角形で全体は巾広プリズム形ないし船底形に近似する。細石刃はこの船底形の甲板面を打面として細石刃を剥離する。108、208の細石刃核下端には、素材の剥離面が残る。108については打面の素材剥離面が担当者の羽柴直人によって見事に接合復元されている。

4. 対 比

東北日本の細石刃文化は、従来、バイフェースを細石刃核の素材とする角二山遺跡(湧別技法)→越中山S(ホロカ技法)の流れ(加藤、1988)と大平山元III b・大平山元II c(大平山元技法～湧別技法の母胎)→大平山元II a(湧別技法)の流れとして把握されている(三宅、1980)。これらの他には、大台野I e(大台野遺跡調査団、1974)、(菊池、1974)、鹿原D(石器文化談話会、1975)の円錐ないし円筒形細石刃核を保有する例に区別される。大平山元、湧別技法は、いずれもバイフェースを石核素材としてスキー状スポールをとり細石刃核の打面とする。石器組成は荒屋型彫刃形石器を含むが、後者はそれを組成しない点で特徴的である。

以上によって、耳取I第3文化層の細石刃文化は石器組成や剥片剥離技術の特色から後者に所属することが明らかである。このことは、細石刃核の素材として推定復元された船底形類似の厚手巾広縦長剥片について、ホロカ型細石刃核の特色(素材の最大厚が石核の打面に一致する)をもつものとしても基本的に西南日本との関係が強い。したがって、東北日本の細石刃文化は、日本海側に分布する湧別技法と西南日本に分布の中心を持つ野岳、矢出川系(分割剥片石核)の範囲が対峙して南より太平洋側を北上分布する。今後、本県の北上川上流～馬淵川流域に両者の融合する接触型の典型が検出される可能性を示しているといえるかもしれない。

(菊池 強一)

写 真 图 版



I次調査区 (E→)



I次調査区 (III A区)

写真図版1 調査区遠景



旧石器出土状況



形器出土状況



エンドスクレイパー出土状況

写真図版 2 旧石器出土状況

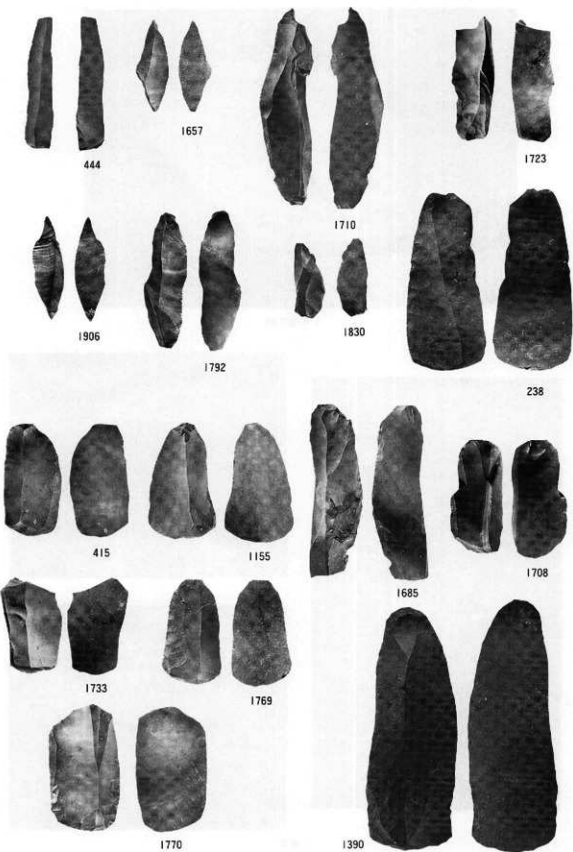


1号住居跡

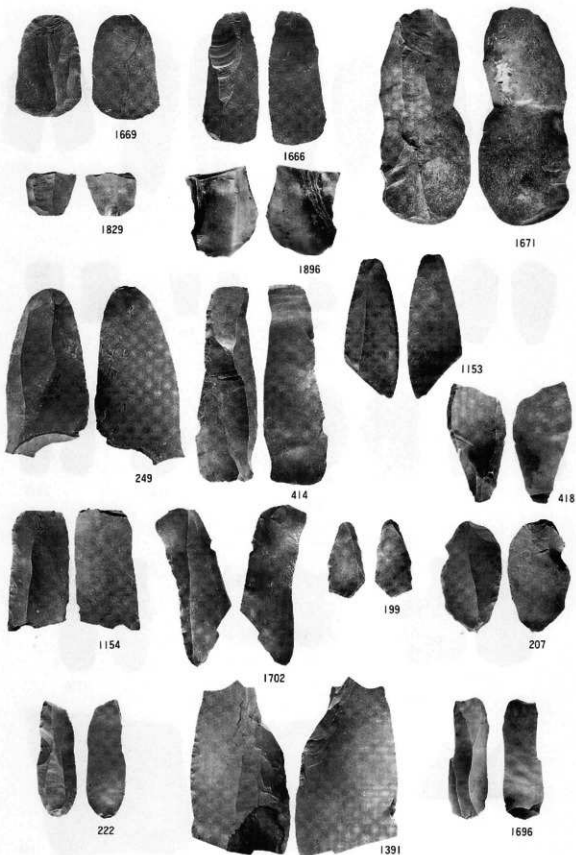


1号溝

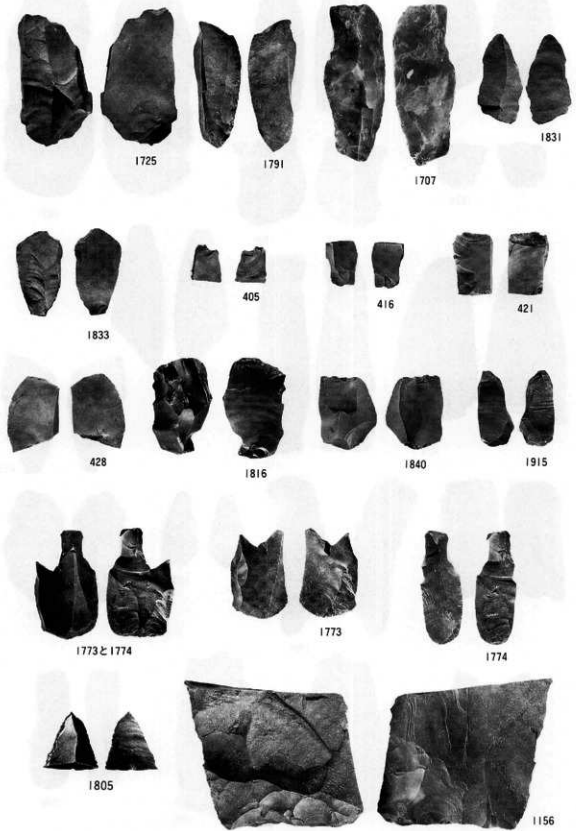
写真図版3 1号住居跡・1号溝



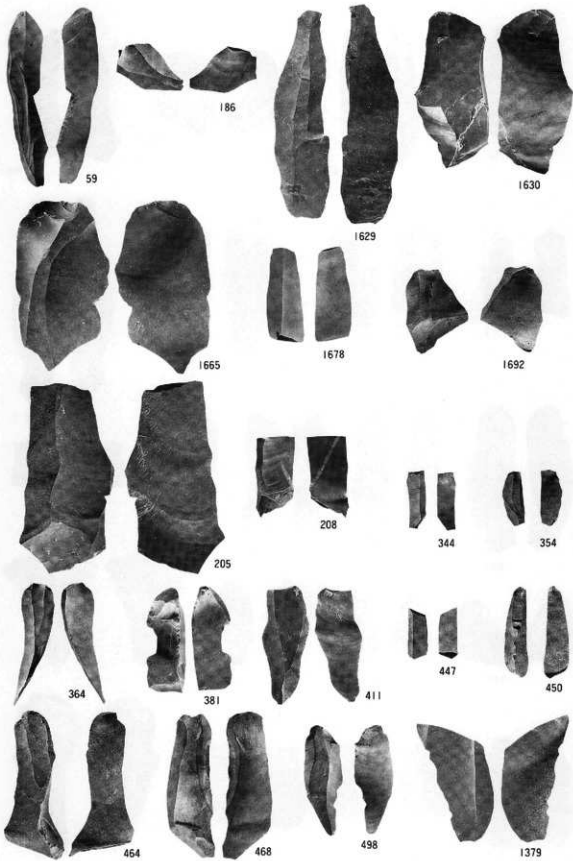
写真図版 4 旧石器(1)



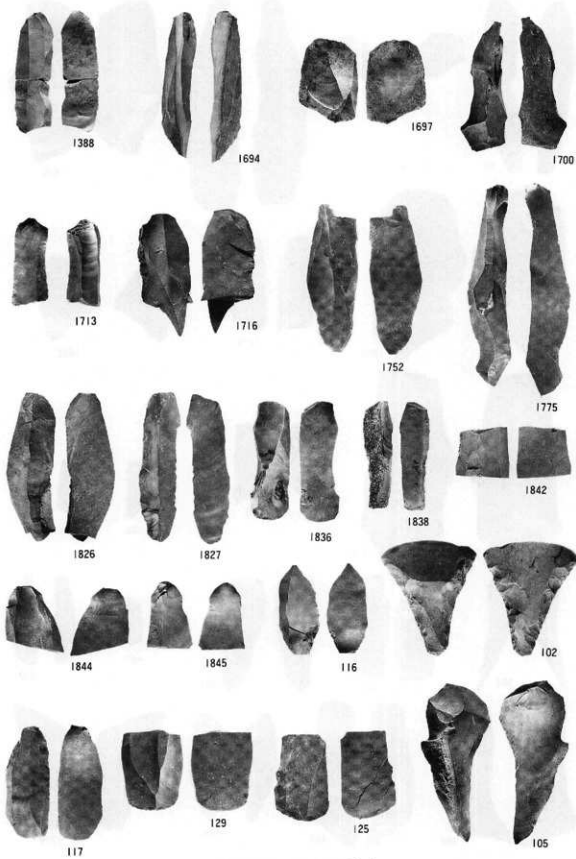
写真图版 5 旧石器(2)



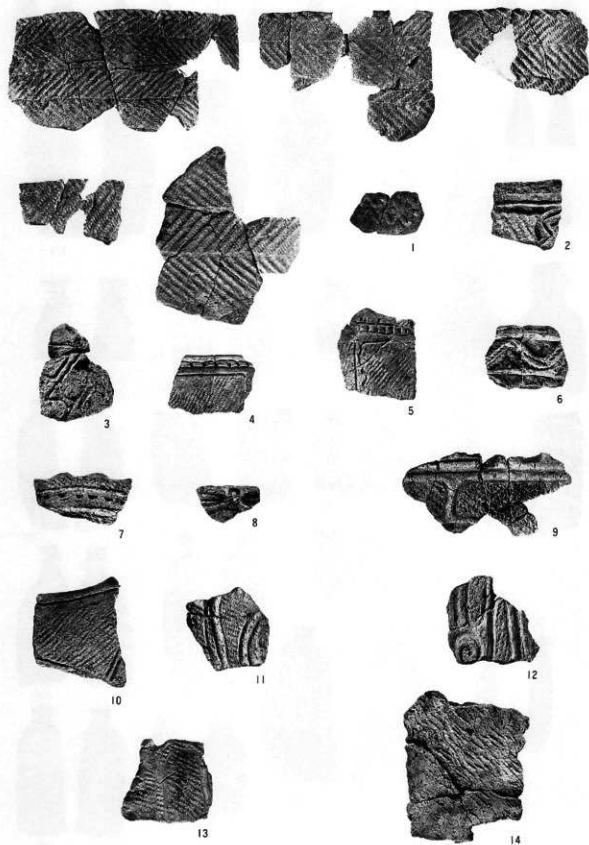
写真図版6 旧石器(3)



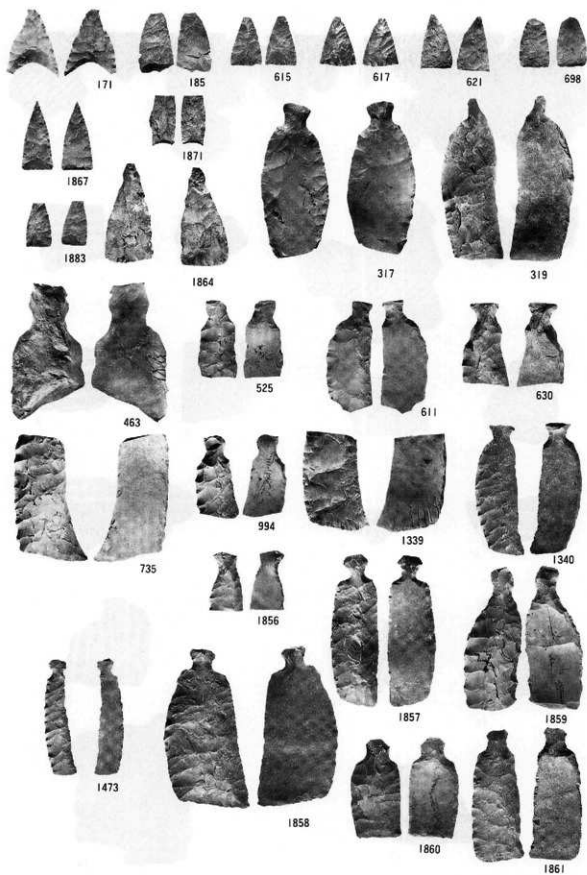
写真图版7 旧石器(4)



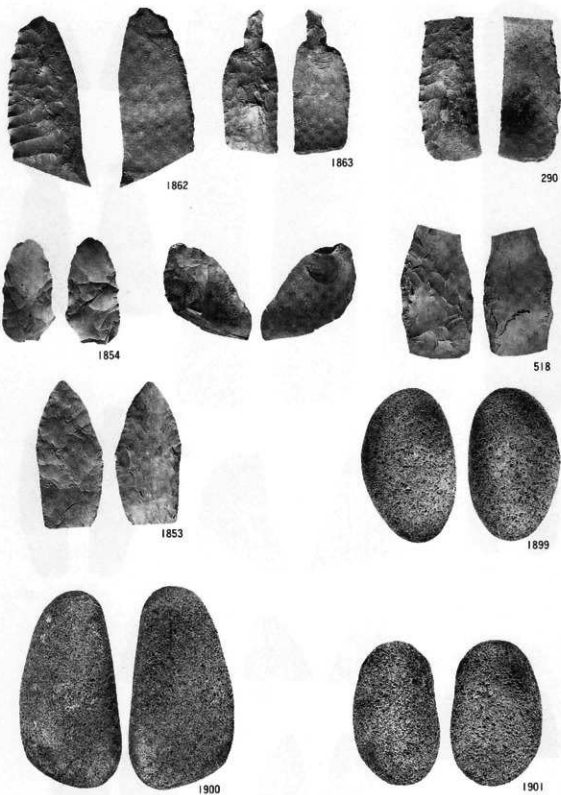
写真図版 8 旧石器(5)



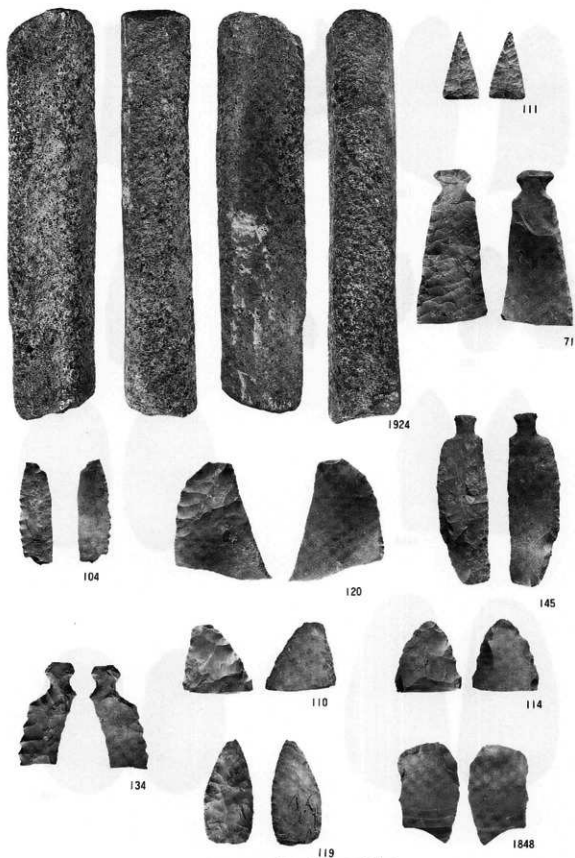
写真図版9 縄文土器



写真図版10 縄文時代の石器(1)



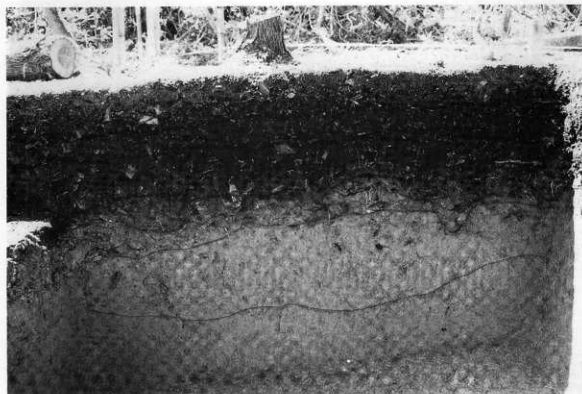
写真図版11 縄文時代の石器(2)



写真図版12 縄文時代の石器(3)



調査前 (E→)



基本土層

写真図版13 調査前・基本土層



調査前 (IC区)



IC区遠景 (E→)



IC区遠景 (S→)



III B区遠景 (W→)



IC区遠景 (SE→)

写真図版14 調査区遠景



旧石器出土状況 (W→)



旧石器出土状況 (S→)

写真図版15 旧石器出土状況(1)

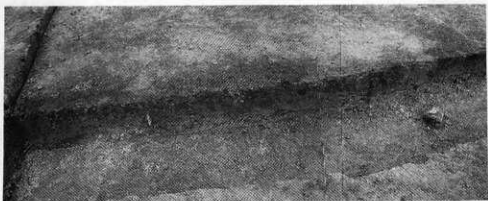


旧石器出土状況 (S W →)



旧石器出土区取り上げ後 (S W →)

写真図版16 旧石器出土状況(2)



旧石器出土区土层断面

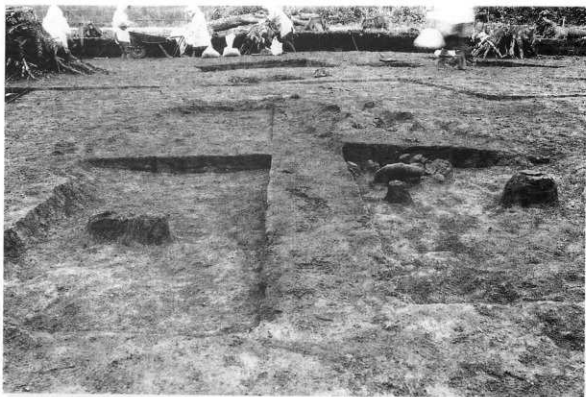


旧石器出土区土层断面

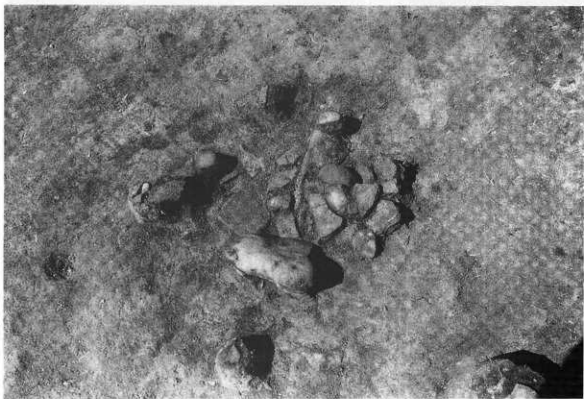


1号住居跡土层断面 (W→)

写真図版17 旧石器出土区土层断面・1号住居跡(1)

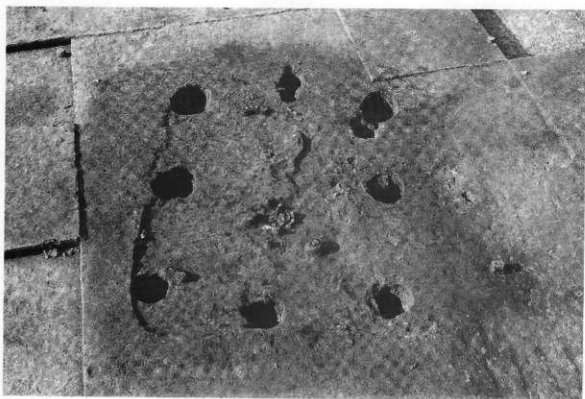


1号住居跡土層断面 (S-1)

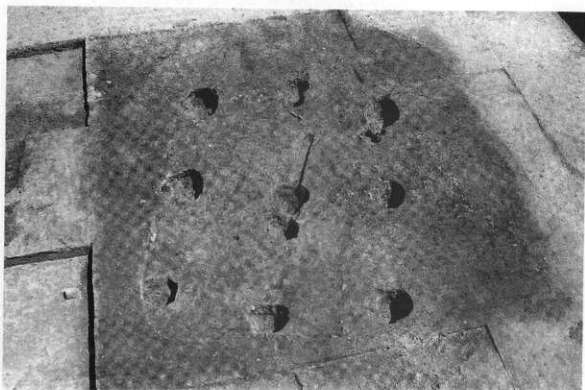


1号住居跡P12上面遺物出土状況

写真図版18 1号住居跡(2)

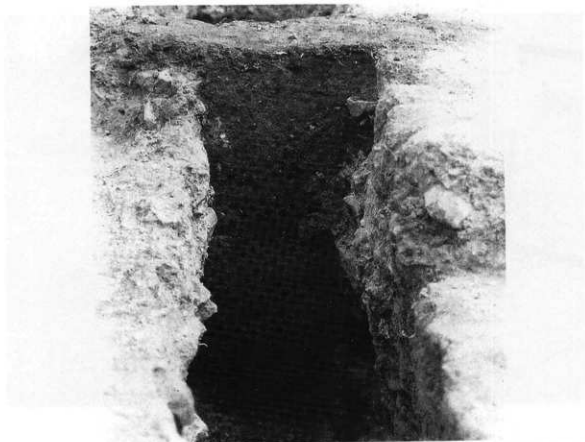


1号住居跡完備

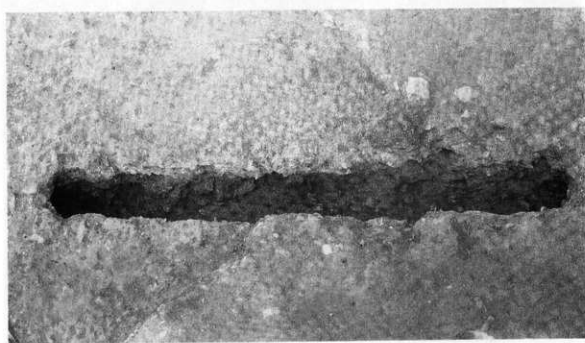


1号住居跡遺物取り上げ後

写真図版19 1号住居跡(3)

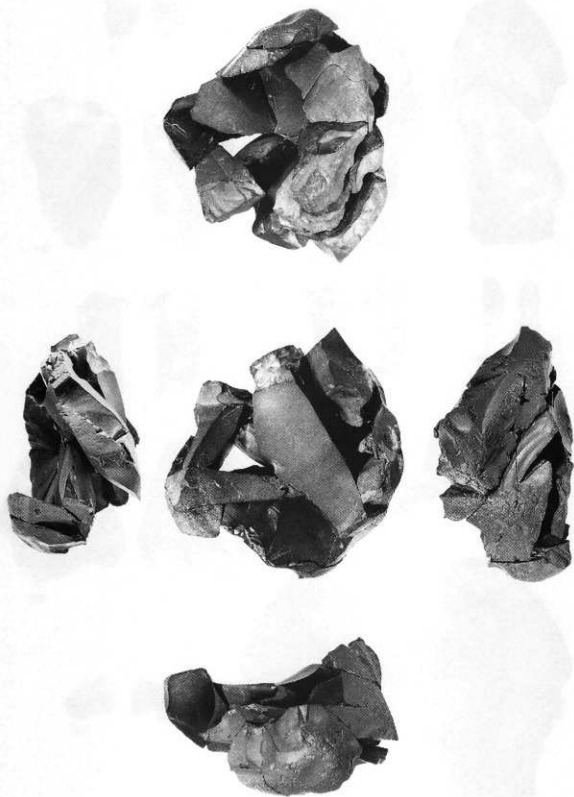


1号陥し穴状土坑断面

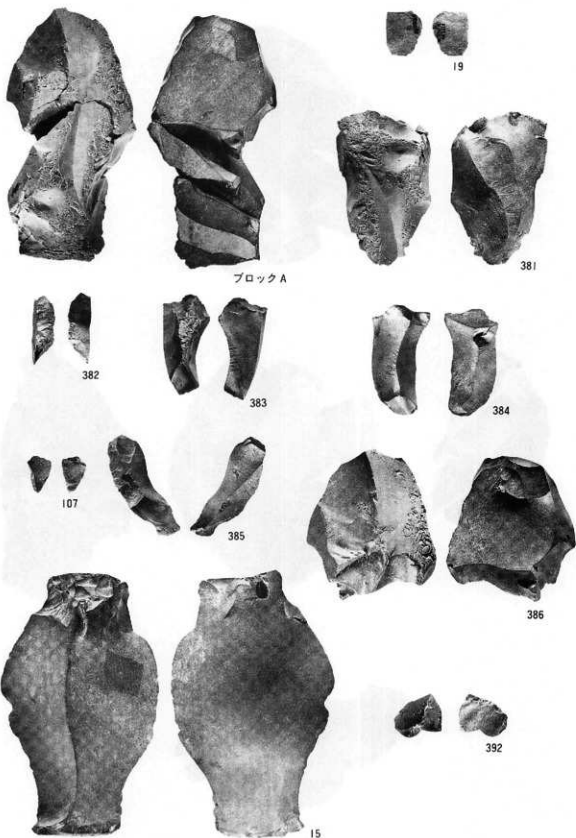


1号陥し穴状土坑発掘

写真図版20 1号陥し穴状土坑



写真図版21 接合資料1(1)



写真図版22 接合資料1(2)



ブロック B



387

63



388

389

390



14



79



106

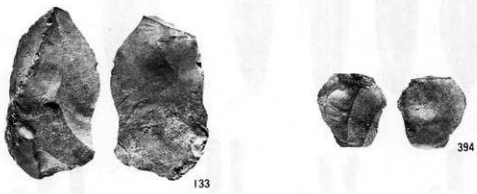
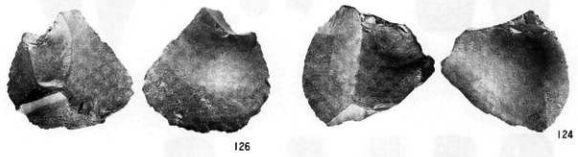


391

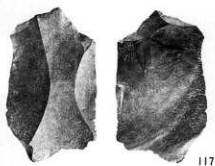
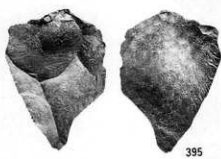


100

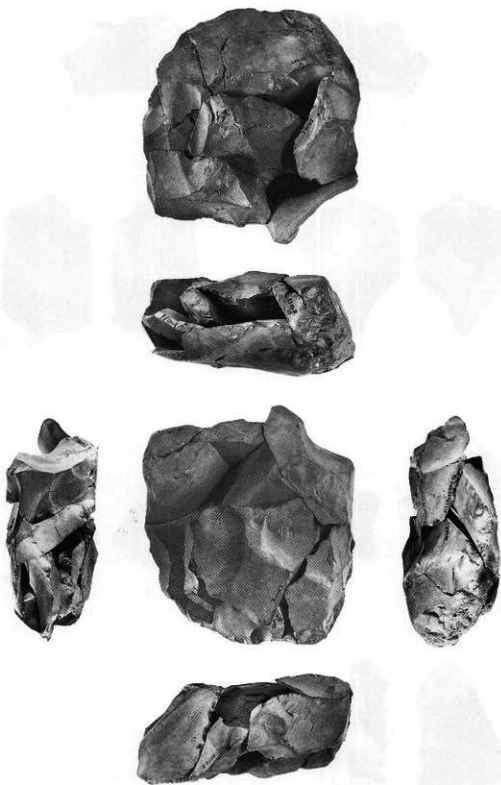
写真図版23 接合資料 1 (3)



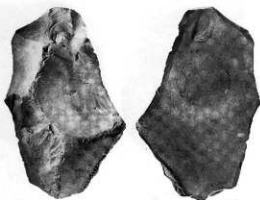
写真図版24 接合資料1(4)



写真図版25 接合資料1(5)



写真図版26 接合資料2(1)



89



102



398



ブロック A

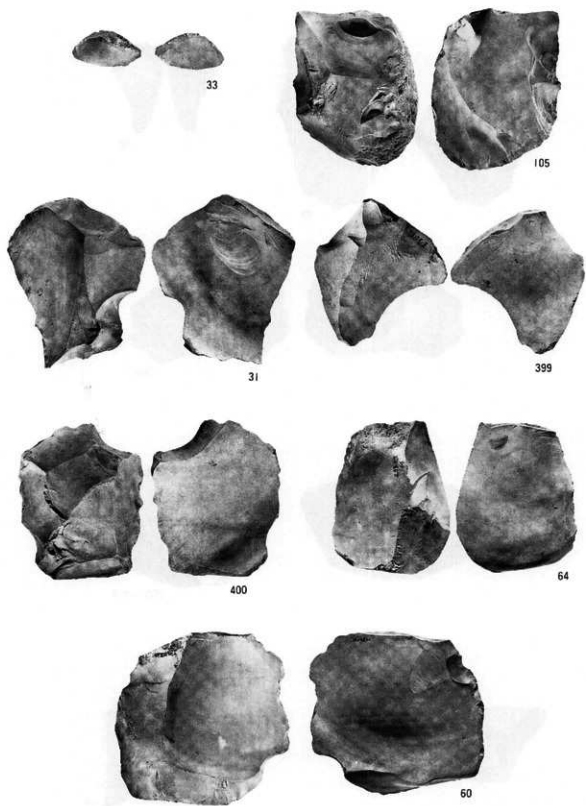


69

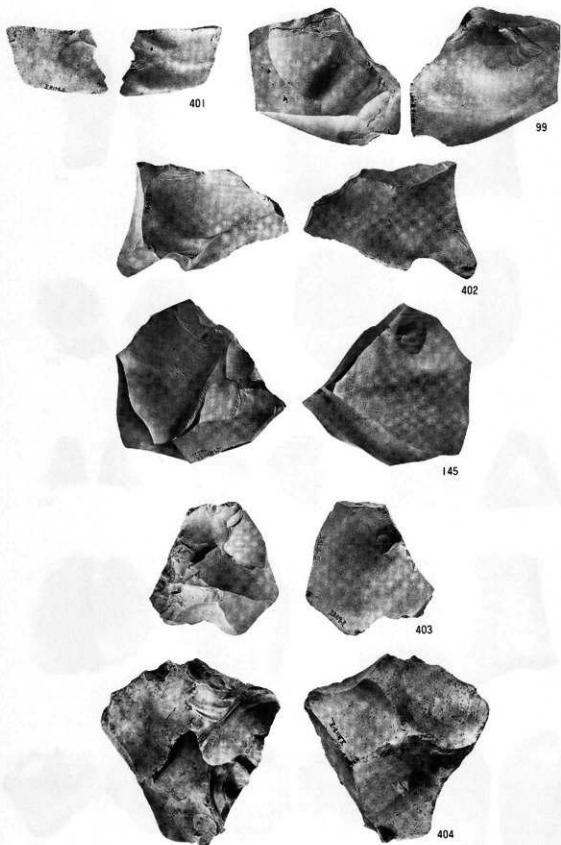


23

写真図版27 接合資料 2 (2)



写真図版28 接合資料 2 (3)



写真図版29 接合資料2(4)



405



154



406



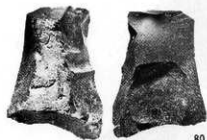
156



407



408



80



127

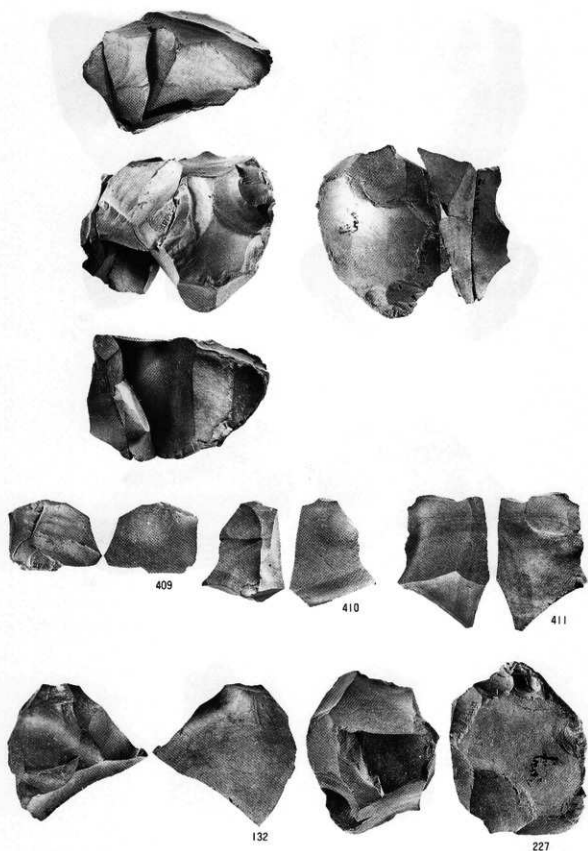


368



370

写真図版30 接合資料3



写真図版31 接合資料 4



412

118

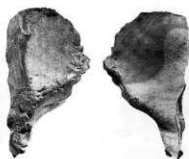


93



413

写真図版32 接合資料5



29



414



415

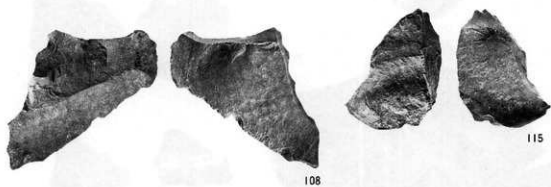
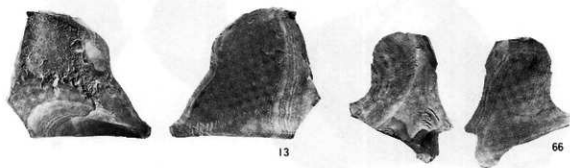


416



85

写真図版33 接合資料 6 (1)



写真図版34 接合資料6(2)



12



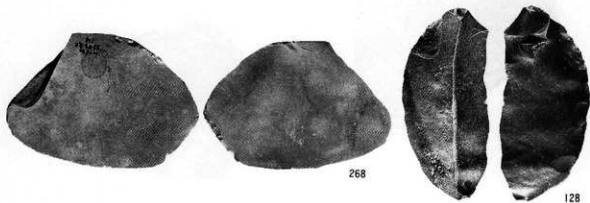
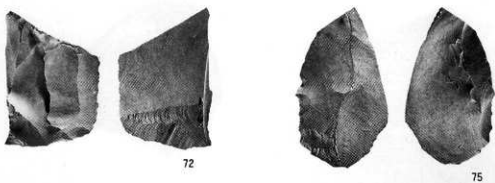
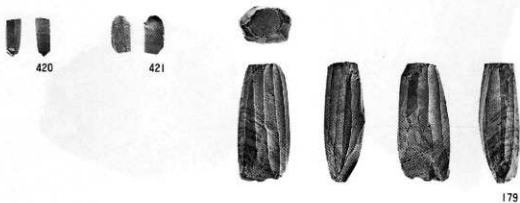
91

176

写真図版35 接合資料6(3)
接合資料7



写真図版36 1ブロック出土石器(1)



写真図版37 接合資料 8



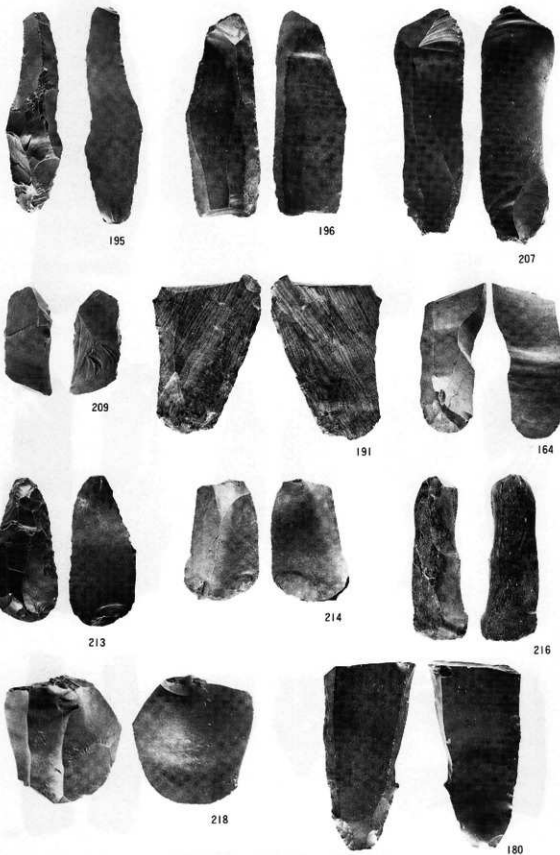
131



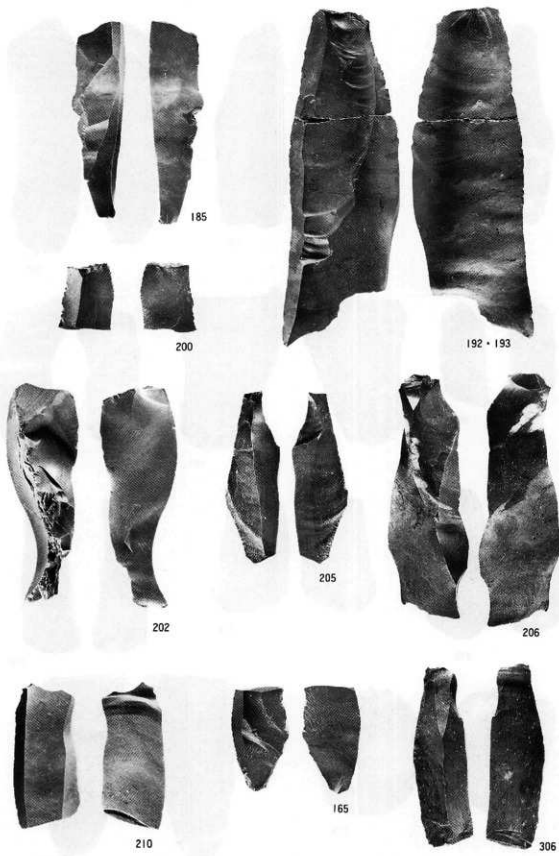
171



写真図版38 1ブロック出土石器(2)



写真図版39 2ブロック出土石器



写真図版40 2ブロック出土石器(2)
 ブロック外出土石器(1)



356



236



252



254



260



264



278



296

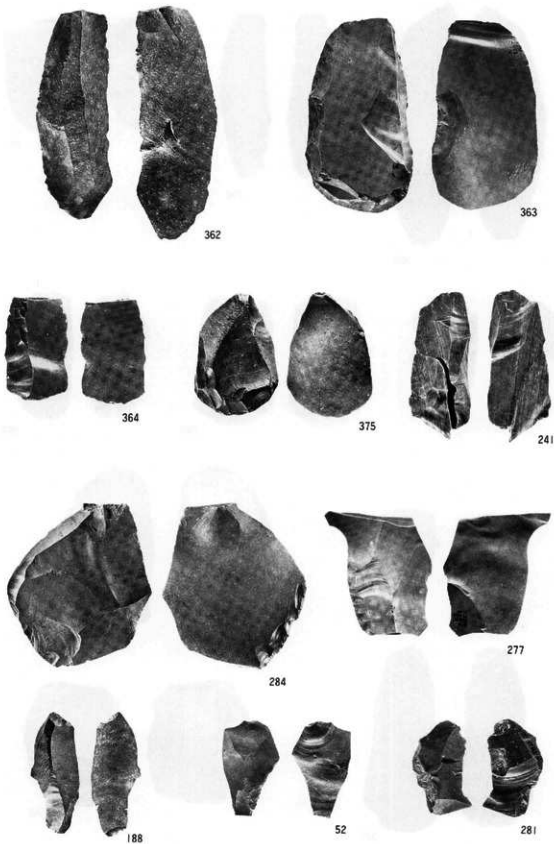


323



353

写真図版41 ブロック外出土石器(2)



写真図版42 ブロック外出土石器(3)



305



35



166



240



242



263



266



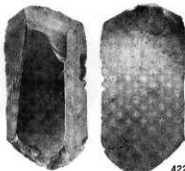
282



365



290

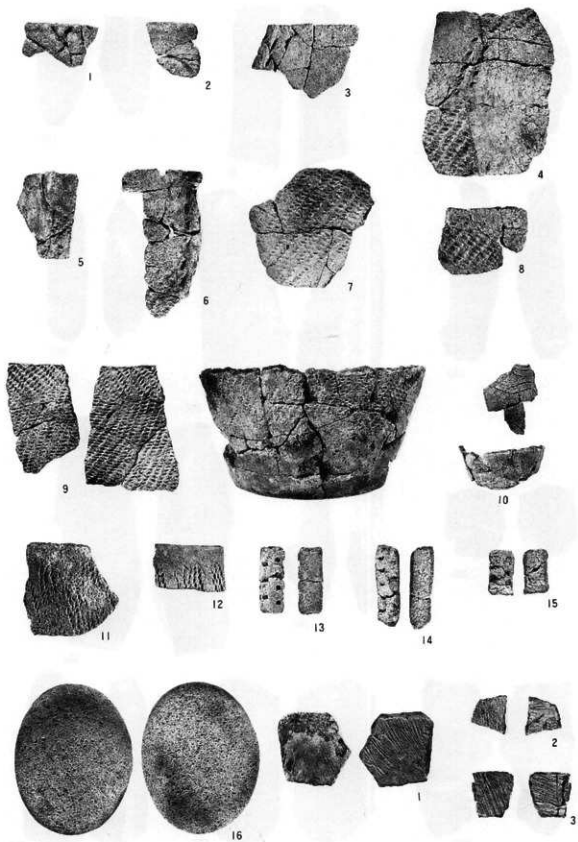


422

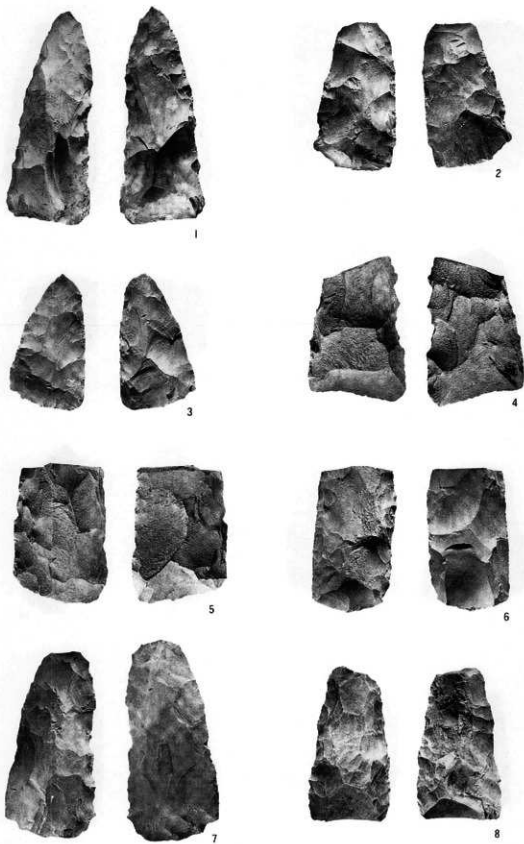


423

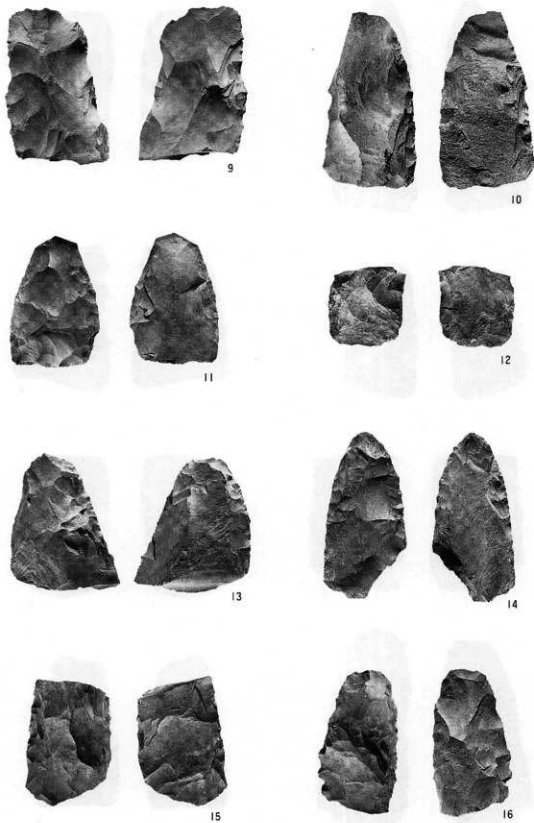
写真図版43 ブロック外出土石器(4)



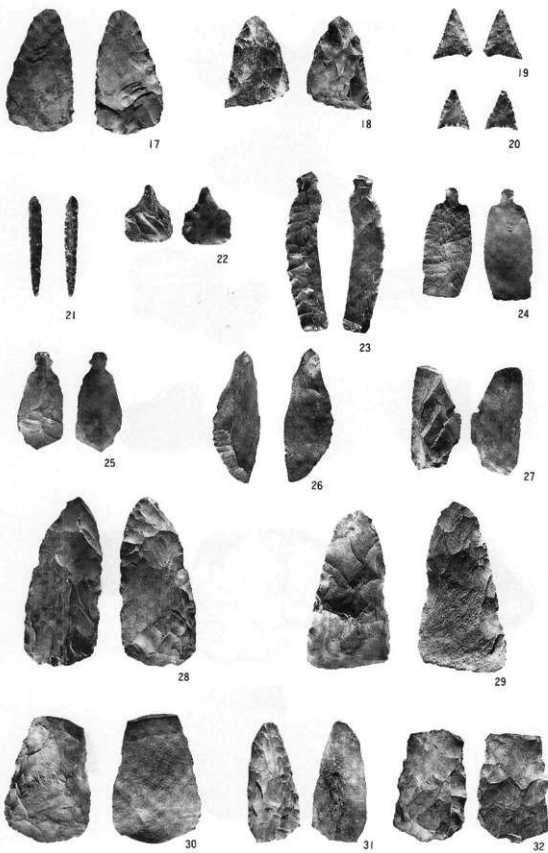
写真図版44 1号住居跡出土遺物
遺構外出土縄文土器



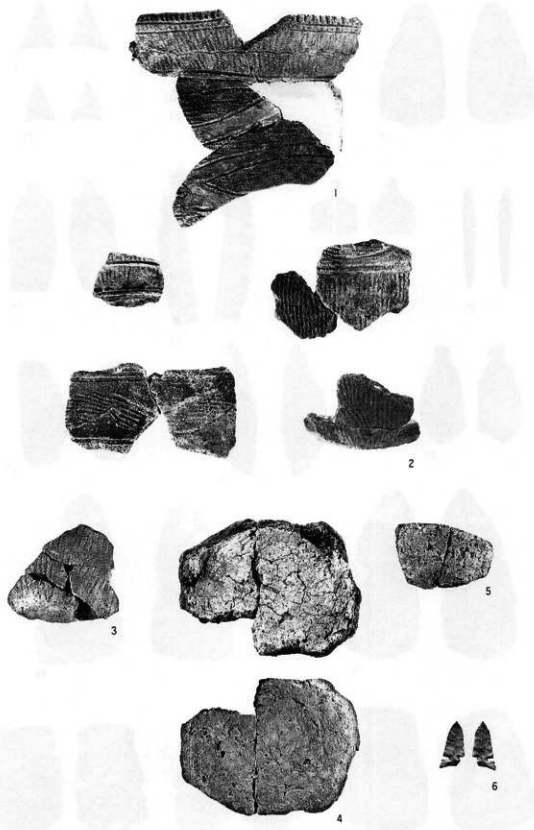
写真図版45 縄文時代の石器(1)



写真図版46 縄文時代の石器(2)



写真図版47 縄文時代の石器(3)



写真図版48 弥生時代の土器、石器

報告書抄録

ふりがな	あまとり いん い せう じん ち く ぼつ ぐつ ちようさ ちゆう ぐさ								
書名	耳取 I 遺跡 A 地区発掘調査報告書								
副書名	東北横断道秋田線建設関連遺跡発掘調査								
巻次									
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書								
シリーズ番号	第 232 集								
編著者名	羽柴直人、菊池強一、三浦謙一								
編集機関	(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター								
所在地	〒 020 岩手県盛岡市下飯岡11地割185 TEL 0196-38-9001								
発行年月日	西暦 1996年 3月 20日								
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因	
	岩手県和賀郡 湯田町 第49地割 2-22		遺跡番号	—	39度 17分 48秒	140度 56分 64秒	第1次 19930601 5 19931028 第3次 19940412 5 19940820	15000 15625	東北横断 道秋田線 建設工事 に伴う事 前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項			
耳取 I 遺跡 A 地区		旧石器時代 縄文時代中期 弥生時代	旧石器ブロック 竪穴住居跡 陥し穴状土坑	旧石器、細石刃 ナイフ 彫器 エンドスクレイパー サイドスクレイパー 縄文土器 弥生土器		細石刃核が母岩 に接合した			

財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター職員

所 長	山 影 源 吉		
副 所 長	千 葉 政 男		
〔管 理 課〕			
管理課長	澤 田 寛		
主 事	千 葉 勝 彦		
〃	久保田 幸 恵		
〔調 査 課〕			
調査課長	鈴 木 恵 治	文 化 財 専 門 調 査 員	阿 部 勝 則
課長補佐	三 浦 謙 一	〃	星 雅 之
〃	高 橋 興 右 衛 門	〃	羽 柴 直 人
主任文化財 専 門 調 査 員	工 藤 利 幸	〃	高 木 晃
〃	中 川 重 紀	〃	伊 藤 拓
〃	佐々木 清 文	〃	杉 沢 昭 太 郎
〃	高 橋 義 介	〃	大 道 篤 史
〃	酒 井 宗 孝	〃	溜 浩 二 郎
文 化 財 専 門 調 査 員	菊 池 人 見	〃	村 上 拓
〃	吉 田 充	期 限 付 専 門 職 員	中 村 直 美
〃	鎌 田 勉	〃	高 橋 英 樹
〃	小 山 内 透	〃	稻 垣 雅 宏
〃	高 橋 佐 知 子	〃	元 吉 弘 明
〃	松 本 建 速	〃	佐々木 裕 司
〃	宮 本 節 子	〃	千 葉 貴 子
〃	金 子 昭 彦	〃	沼 田 和 宏
〃	木 戸 口 俊 子	〃	田 村 聡
		〃	吉 田 理 也
			大 場 慎 也
〔資 料 課〕			
資料課長	菊 池 強 一		
主任文化財 専 門 調 査 員	中 村 英 俊		

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第232集

耳取 I 遺跡 A 地区発掘調査報告書

東北横断道秋田線建設工事関連遺跡発掘調査

印刷 平成 8 年 3 月 10 日

発行 平成 8 年 3 月 20 日

発行 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

〒020 盛岡市下飯岡11-185

TEL (0196) 38-9001

印刷 株式会社 杜陵印刷

〒020-01 盛岡市みたけ二丁目22-50

TEL (0196) 41-8000F0